

# CX Cloud Agentの概要v2.4

## 内容

---

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[導入の要件](#)

[重要なドメインへのアクセス](#)

[CX Cloudエージェントポータルに固有のドメイン](#)

[CX Cloud Agent OVAに固有のドメイン](#)

[Cisco DNA Centerのサポート対象バージョン](#)

[サポートされるブラウザ](#)

[サポートされる製品リスト](#)

[CX Cloud Agent v2.4のアップグレードとインストール](#)

[既存のVMの大規模構成および中規模構成へのアップグレード](#)

[CX Cloud Agent v2.4のアップグレード](#)

[CX Cloudエージェントの追加](#)

[データソースとしてのCisco DNA Centerの追加](#)

[データソースとしての他のアセットの追加](#)

[検出プロトコル](#)

[接続プロトコル](#)

[デバイスに関する電信処理上の制限](#)

[シードファイルを使用して他のアセットを追加する](#)

[新しいシードファイルを使用して他のアセットを追加する](#)

[変更したシードファイルを使用して他のアセットを追加する](#)

[IP範囲を使用して他のアセットを追加する](#)

[IP範囲による他のアセットの追加](#)

[IP範囲の編集](#)

[IP範囲の削除](#)

[複数のコントローラから検出されたデバイスについて](#)

[診断スキャンのスケジュール](#)

[CX Cloud Agent VMの中規模および大規模設定へのアップグレード](#)

[VMware vSphere Thick Clientを使用した再設定](#)

[WebクライアントESXi v6.0を使用した再設定](#)

[WebクライアントvCenterを使用した再設定](#)

[導入とネットワーク設定](#)

[OVAの導入](#)

[ThickClient ESXi 5.5/6.0のインストール](#)

[WebClient ESXi 6.0のインストール](#)

[WebClient vCenterのインストール](#)

[OracleVirtual Box 5.2.30のインストール](#)

[MicrosoftHyper-Vのインストール](#)

[ネットワーク設定](#)

[CLIを使用してペアコードを生成する別の方法](#)

---

[SyslogをCX Cloud Agentに転送するためのCisco DNA Centerの設定](#)

[前提条件](#)

[Syslog転送設定の設定](#)

[SyslogをCX Cloud Agentに転送するための他のアセットの設定](#)

[転送機能を備えた既存のSyslogサーバ](#)

[転送機能のない、またはsyslogサーバのない既存のsyslogサーバ](#)

[情報レベルのsyslog設定を有効にする](#)

[CX Cloud VMのバックアップと復元](#)

[バックアップ](#)

[復元](#)

[セキュリティ](#)

[物理セキュリティ](#)

[アカウントのセキュリティ](#)

[ネットワーク セキュリティ](#)

[\[Authentication\]](#)

[強化](#)

[データセキュリティ](#)

[データの伝送](#)

[ログとモニタリング](#)

[Ciscoテレメトリコマンド](#)

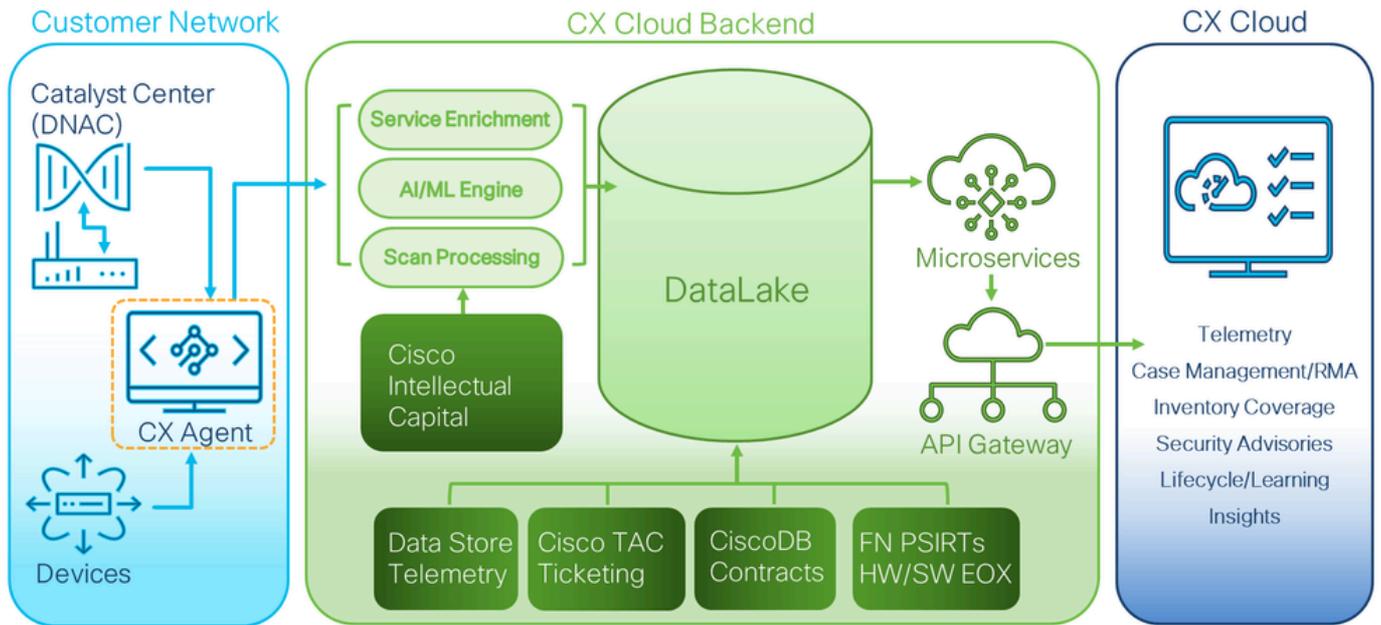
[セキュリティ サマリ](#)

---

## はじめに

このドキュメントでは、シスコのカスタマーエクスペリエンス(CX)Cloud Agentについて説明します。シスコのCX Cloud Agentは、お客様のネットワークデバイスからテレメトリデータを収集し、お客様に実用的な洞察を提供する、スケーラビリティの高いプラットフォームです。CX Cloud Agentを使用すると、アクティブな実行コンフィギュレーションデータを、CX Cloudに表示される予防的で予測的な洞察に変換できます。

# CX Cloud Architecture



CX Cloudアーキテクチャ

このガイドは、CX Cloud Agent v2.4専用です。以前のバージョンにアクセスするには、『[Cisco CX Cloud Agent](#)』ページを参照してください。



注：このガイドの画像は参照用です。実際の内容は異なることがあります。

---

## 前提条件

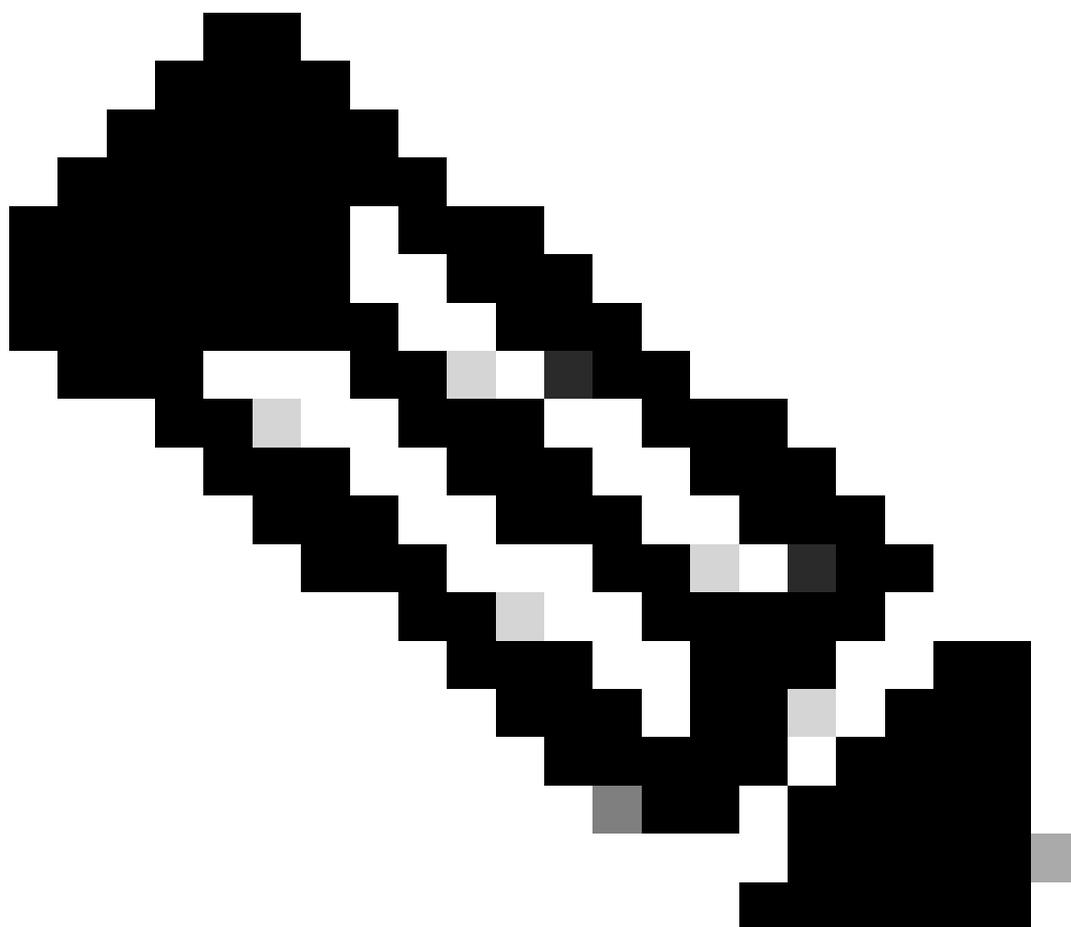
CX Cloud Agent は仮想マシン ( VM ) として実行され、オープン仮想アプライアンス ( OVA ) または仮想ディスク ( VHD ) としてダウンロードできます。

### 導入の要件

- 新規インストールでは、次のハイパーバイザのいずれかが必要です。
  - VMware ESXi バージョン 5.5 以降
  - Oracle Virtual Box 5.2.30以降
  - Windows Hypervisorバージョン2012 ~ 2022
- VMを導入するには、次の表に示す設定が必要です。

CX Cloud Agentの導入タイプ	CPUコア数	RAM	ハードディスク	*CX Cloud Agentに直接接続されているアセットの最大数
小さいOVA	8C	16 GB	200 GB	10,000
中ぐらいのOVA	16C	32 GB	600 GB	20,000
大きいOVA	32C	64 GB	1200 GB	50,000 :

\* 各CX Cloud Agentインスタンスに対して、20のCisco DNA Center非クラスタまたは10のCisco DNA Centerクラスタを接続します。



注：中規模から大規模の構成向けの柔軟なOVA/パッチ2.4は、VMware ESXi VMでのみ使用できます。Oracle VirtualBoxおよびWindows Hyper-Vは、中規模から大規模の構成には使用できません。

- CX Cloudデータを格納する主要なデータリージョンとして米国の指定データセンターを使用しているお客様の場合、CX Cloud Agentは、完全修飾ドメイン名(FQDN)を使用し、TCPポート443でHTTPSを使用して、ここに示すサーバに接続できる必要があります。
  - FQDN:agent.us.cisco.cloud
  - FQDN:ng.acs.agent.us.cisco.cloud
  - FQDN:cloudsso.cisco.com
  - FQDN:api-cx.cisco.com
- CX Cloudデータを格納する主要なデータリージョンとして指定の欧州のデータセンターを使用しているお客様：CX Cloud Agentは、FQDNを使用して、TCPポート443でHTTPSを使用して、ここに示す両方のサーバに接続できる必要があります。
  - FQDN:agent.us.cisco.cloud
  - FQDN:agent.emea.cisco.cloud
  - FQDN:ng.acs.agent.emea.cisco.cloud
  - FQDN:cloudsso.cisco.com
  - FQDN:api-cx.cisco.com
- CX Cloudデータを格納する主要なデータリージョンとしてアジア太平洋地域の指定データセンターを使用しているお客様：CX Cloud Agentは、FQDNを使用して、およびTCPポート443のHTTPSを使用して、ここに示す両方のサーバに接続できる必要があります。
  - FQDN:agent.us.cisco.cloud
  - FQDN:agent.apjc.cisco.cloud
  - FQDN:ng.acs.agent.apjc.cisco.cloud
  - FQDN:cloudsso.cisco.com
  - FQDN:api-cx.cisco.com
- 主要なデータリージョンとして指定の欧州およびアジア太平洋のデータセンターを使用しているお客様は、初期設定時にCX Cloud AgentをCX Cloudに登録する場合にのみ、FQDN:agent.us.cisco.cloudへの接続が必要です。CX Cloud AgentがCX Cloudに正常に登録されると、この接続は不要になります。
- CX Cloud Agentのローカル管理では、ポート22がアクセス可能である必要があります。
- 次の表に、CX Cloud Agentが正しく動作するために開いて有効にする必要があるポートとプロトコルの概要を示します。

CX Cloud Agent Traffic					
Source	Destination	Protocol	Port	Purpose	Type
CX Cloud Agent	<u>All regions:</u> cloudsso.cisco.com api-cx.cisco.com agent.us.cisco.cloud DNA Center <u>AMER region:</u> ng.acs.agent.us.cisco.cloud <u>EMEA region:</u> agent.emea.cisco.cloud ng.acs.agent.emea.cisco.cloud <u>APJC region:</u> agent.apjc.cisco.cloud ng.acs.agent.apjc.cisco.cloud	HTTPS	TCP/443	Initial configuration Upgrades Inventory & telemetry transfers	Bi-directional to Cisco AWS regional data centers and DNA Center
CX Cloud Agent	Network Devices	SNMP	UDP/161	Initial discovery Ongoing inventory collections	Outbound to LAN
CX Cloud Agent	Network Devices	SSH	TCP/22	Collection of telemetry from CLI commands	Outbound to LAN
CX Cloud Agent	Network Devices	Telnet	TCP/23	Collection of telemetry from CLI commands	Outbound to LAN
Network Devices	CX Cloud Agent	Syslog	UDP/514	Transfer syslogs for Alert Fault Management	Inbound from LAN
Workstation	CX Cloud Agent	SSH	TCP/22	CX Cloud Agent Maintenance	Inbound from LAN

- VM環境でDynamic Host Configuration Protocol(DHCP)が有効になっている場合は、IPが自動的に検出されます。そうでない場合は、空きIPv4アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイIPアドレス、およびドメインネームサービス(DNS)サーバIPアドレスを使用する必要があります。
- IPv4のみサポートされます。
- 認定シングルノードおよびハイアベイラビリティ(HA)クラスターのCisco DNA Centerのバージョンは、2.1.2.xから2.2.3.x、2.3.3.x、2.3.5.x、2.3.7.x、およびCisco Catalyst Center仮想アプライアンスとCisco DNA Center仮想アプライアンスです。
- ネットワークにSSL代行受信がある場合は、permit-list CX Cloud AgentのIPアドレスを指定します。
- 直接接続されたすべてのアセットには、SSH特権レベル15が必要です。
- 指定されたホスト名のみを使用します。静的IPアドレスは使用できません。

## 重要なドメインへのアクセス

CX Cloudへの移行を開始するには、これらのドメインへのアクセスが必要です。指定されたホスト名のみを使用し、固定IPアドレスは使用しないでください。

CX Cloudエージェントポータルに固有のドメイン

主要ドメイン	その他のドメイン
cisco.cloud	cloudfront.net
	eum-appdynamics.com

split.io	appdynamics.com
	tiqcdn.com
	jquery.com

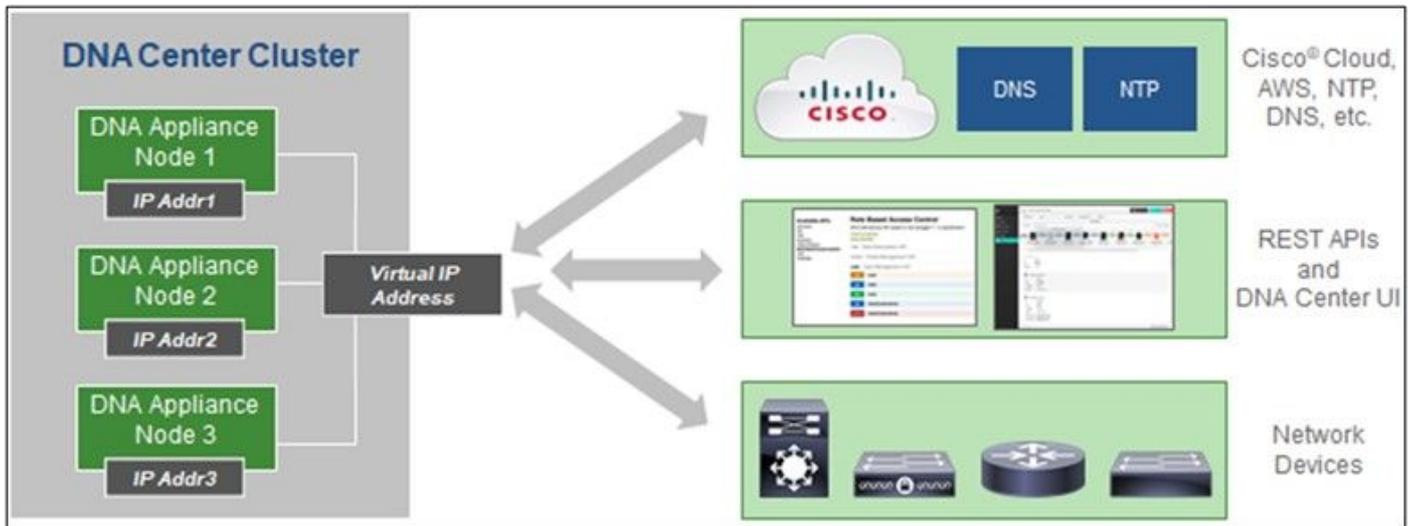
## CX Cloud Agent OVAに固有のドメイン

AMERICAS	EMEA	APJC
cloudsso.cisco.com	cloudsso.cisco.com	cloudsso.cisco.com
api-cx.cisco.com	api-cx.cisco.com	api-cx.cisco.com
agent.us.cisco.cloud (クラウド)	agent.us.cisco.cloud (クラウド)	agent.us.cisco.cloud (クラウド)
ng.acs.agent.us.cisco.cloud (クラウド)	エージェント.emea.cisco.cloud	エージェント.apjc.cisco.cloud
	ng.acs.agent.emea.cisco.cloud	ng.acs.agent.apjc.cisco.cloud

 注：指定したFQDNのポート443でリダイレクションを有効にして、発信アクセスを許可する必要があります。

## Cisco DNA Centerのサポート対象バージョン

サポートされるシングルノードおよびHAクラスターCisco DNA Centerのバージョンは、2.1.2.x ~ 2.2.3.x、2.3.3.x、2.3.5.x、2.3.7.x、およびCisco Catalyst Center仮想アプライアンスとCisco DNA Center仮想アプライアンスです。



マルチノード HA クラスタ Cisco DNA Center

## サポートされるブラウザ

Cisco.comを快適にご利用いただくために、次のブラウザの最新の公式リリースをお勧めします。

- Google Chrome
- Microsoft Edge
- Mozilla Firefox

## サポートされる製品リスト

CX Cloud Agentがサポートする製品のリストについては、『[サポート対象製品リスト](#)』を参照してください。

## CX Cloud Agent v2.4のアップグレードとインストール

- 新しいバージョンにアップグレードする既存のお客様は、『[CX Cloud Agent v2.4のアップグレード](#)』を参照してください。
- 柔軟なOVA v2.4の新規インストールを導入する新規のお客様は、『[データソースとしてのCX Cloudエージェントの追加](#)』を参照してください。

## 既存のVMの大規模構成および中規模構成へのアップグレード

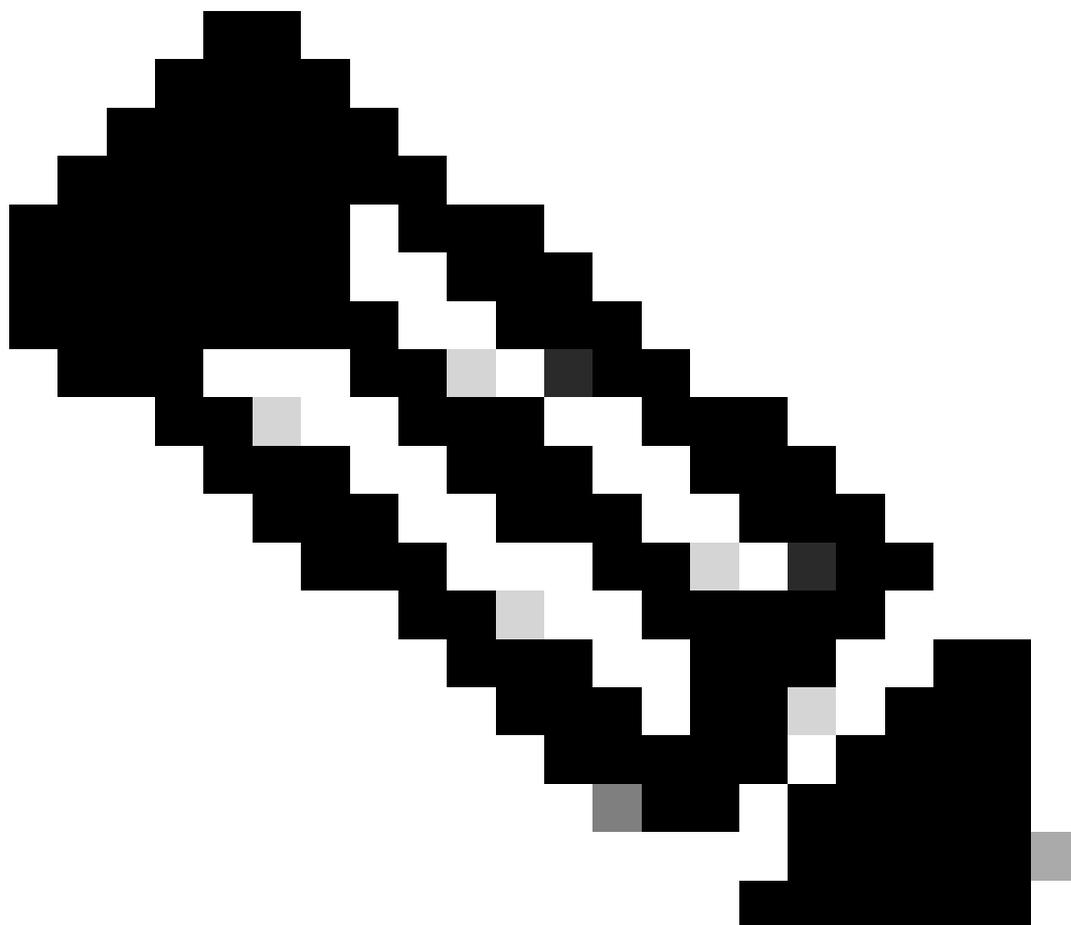
お客様は、ネットワークの規模と複雑さに基づいて、柔軟なOVAオプションを使用して、既存のVM構成を中規模または大規模にアップグレードできます。

既存のVM設定を小規模から中規模または大規模にアップグレードする方法については、『[CX Cloud Agent VMの中規模および大規模設定へのアップグレード](#)』のセクションを参照してください。

## CX Cloud Agent v2.4のアップグレード

CX Cloud Agent v2.3.x以降を実行しているお客様は、このセクションの手順に従って、v2.4に直接アップグレードできます。

---

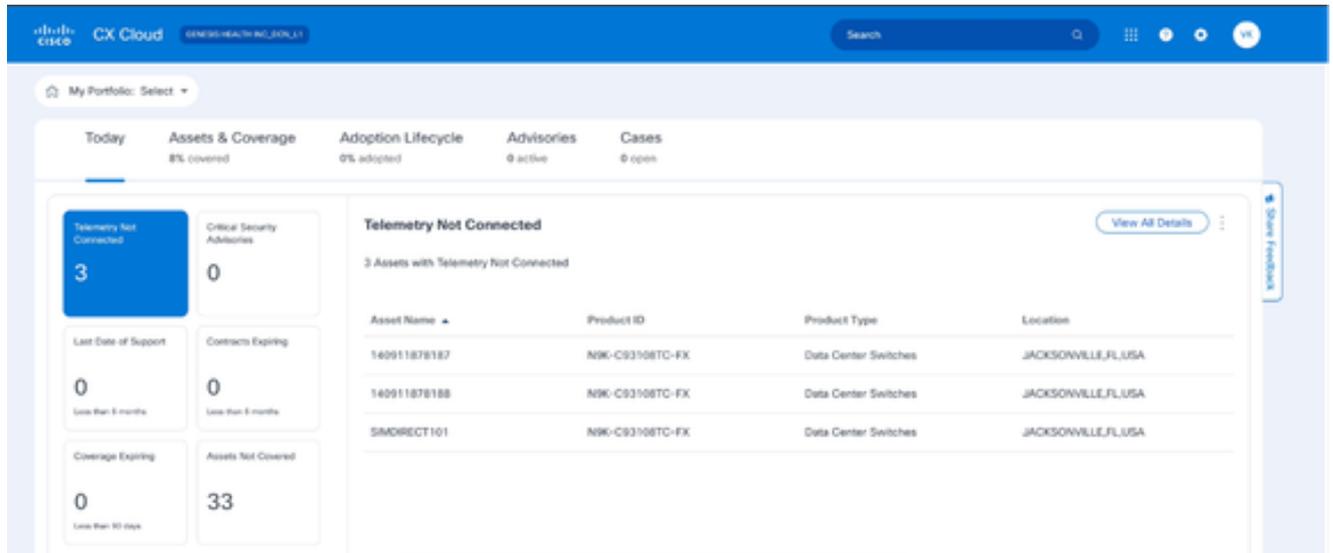


注:CX Cloud Agent v2.2.xをご使用のお客様は、v2.4にアップグレードする前にv2.3.xにアップグレードするか、v2.4を新規OVAインストールとしてインストールする必要があります。

---

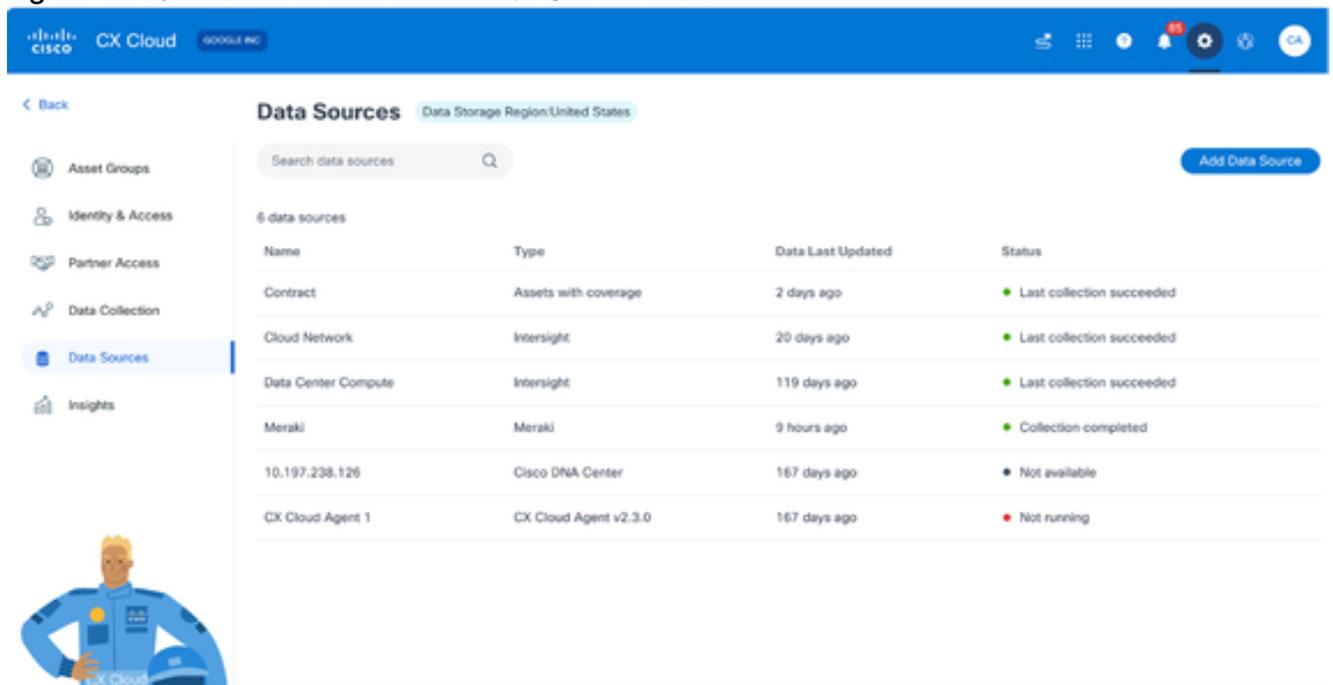
CX CloudからCX Cloud Agentアップグレードv2.4をインストールするには、次の手順を実行します。

1. [CX Cloud](#)にログインします。ホームページが表示されます。



CX Cloudホームページ

- Admin Centerアイコンをクリックします。Data Sourcesウィンドウが開き、CX Cloud Agentが既存のデータソースとして表示されます。



データソース

- CX Cloud Agentデータソースをクリックします。CX Cloud Agentの詳細ウィンドウが開きます。

The screenshot shows the Cisco CX Cloud interface. On the left, a sidebar contains navigation options: Asset Groups, Identity & Access, Partner Access, Data Collection, Data Sources (selected), and Insights. The main area is titled 'Data Sources' and shows a search bar and a table of 6 data sources. The right panel displays the details for 'CX Cloud Agent 1', which is in a 'Running' state. It features buttons for 'Download Report' and 'Replace Seed File', and a 'Seed File' tab. Below the tabs, it indicates '1 assets reachable' and '146 assets unreachable', along with a 'Collection Schedule' of 'Daily at 01:00 AM EST'.

Name	Type
Contract	Assets with co
Cloud Network	Intersight
Data Center Compute	Intersight
Collaboration	Webex
100.1.1.1	Cisco DNA Cer
CX Cloud Agent 1	CX Cloud Agen

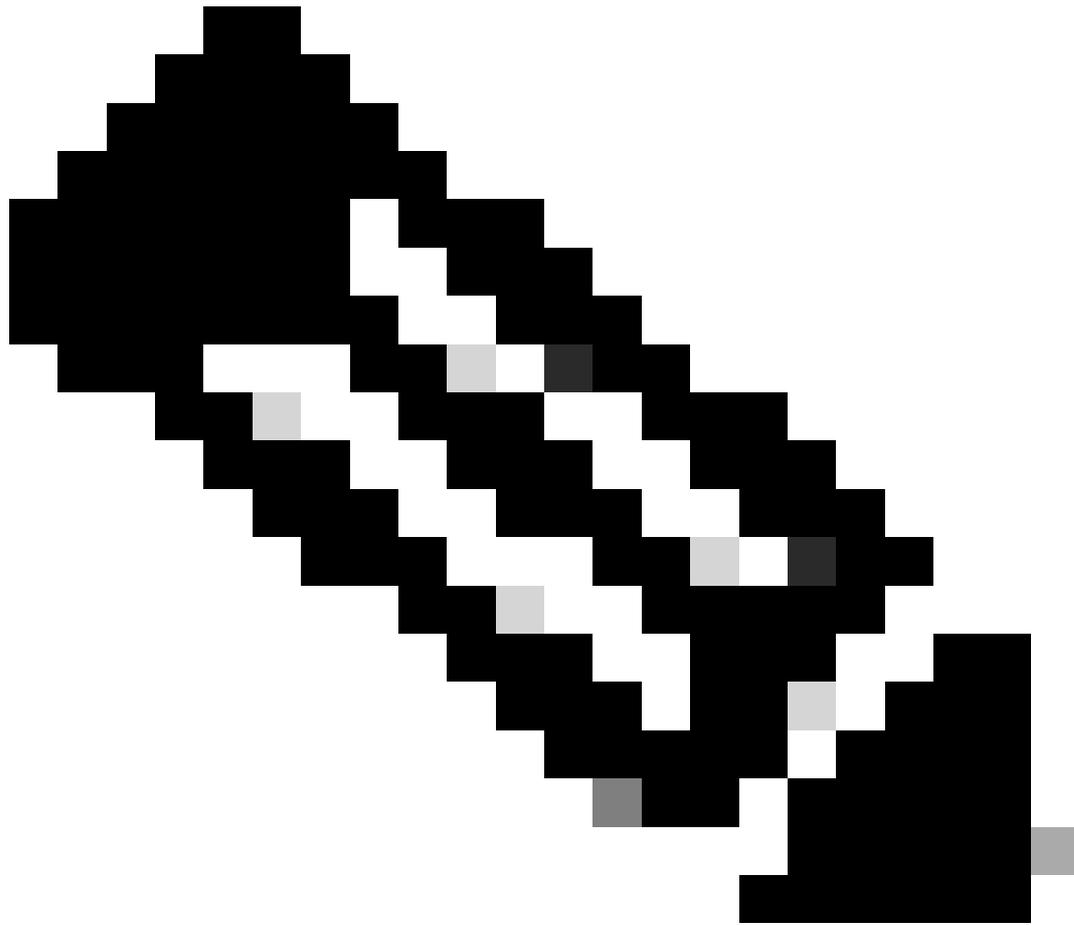
データソースの詳細ビュー

#### 4. Softwareタブをクリックします。

This screenshot shows the same 'Data Sources' page, but the 'Software' tab is selected for the 'CX Cloud Agent 1' details. The status is now 'Not running'. The 'Software' tab is active, showing a dropdown menu for 'Choose a software version to update to:' with '2.4.0' selected. There are buttons for 'Install Now' and 'Install Update'. A 'View release notes' link is also visible.

CX Cloudエージェント詳細ビュー

- [Choose a software version to update to] ドロップダウンから、ソフトウェアバージョン 2.4.0 を選択します。
- Install Update をクリックして、CX Cloud Agent v2.4.0 をインストールします。



注：お客様は、スケジュールオプションを表示する[今すぐインストール]チェックボックスをオフにして、後で更新をスケジュールできます。

---

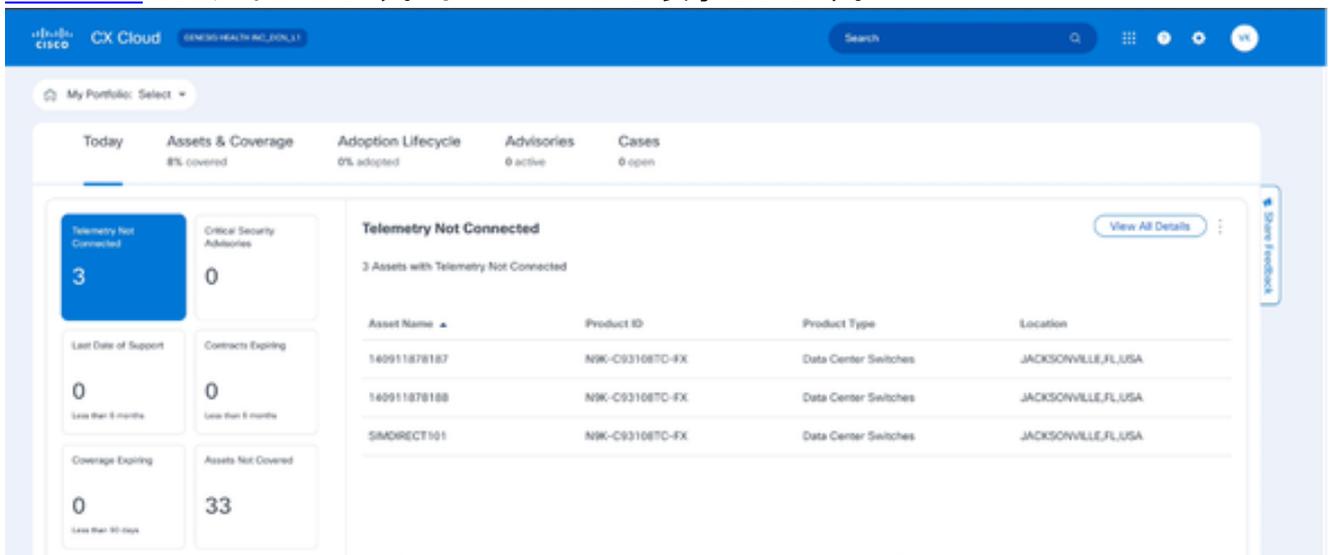
## CX Cloudエージェントの追加

CX Cloudでは、CX Cloud Agentインスタンスを20個まで追加できます。

CX Cloud Agentを追加するには、次の手順を実行します。

注：データソースとしてCX Cloud Agentインスタンスを追加するには、次の手順を繰り返します。

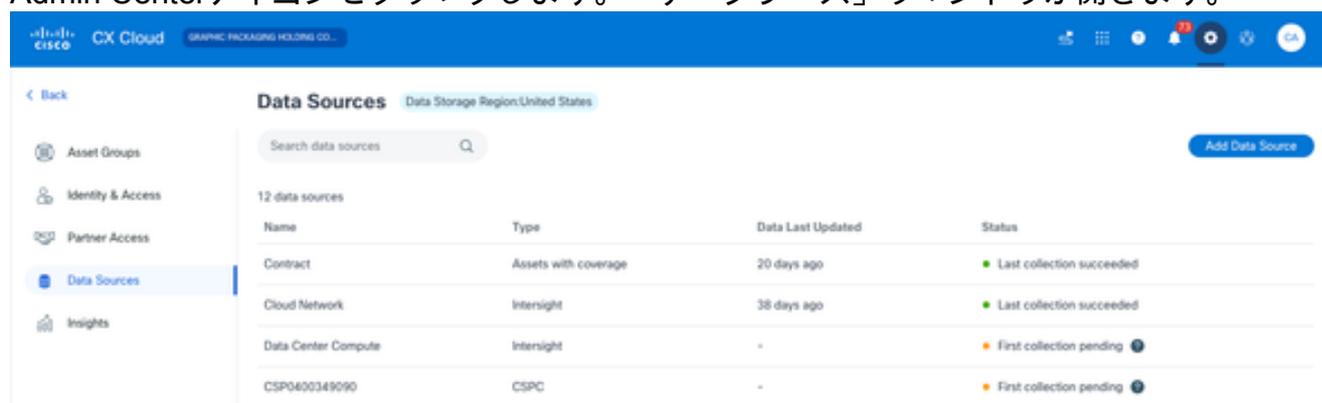
1. [CX Cloud](#)にログインします。ホームページが表示されます。



The screenshot displays the Cisco CX Cloud dashboard. The top navigation bar includes the Cisco logo, 'CX Cloud', and a search bar. Below the navigation, there are several summary cards for 'Telemetry Not Connected' (3), 'Critical Security Advisories' (0), 'Last Date of Support' (0), 'Contracts Expiring' (0), 'Coverage Expiring' (0), and 'Assets Not Covered' (33). A main section titled 'Telemetry Not Connected' shows a table with 3 assets:

Asset Name	Product ID	Product Type	Location
140911878187	N9K-C93108TC-FX	Data Center Switches	JACKSONVILLE,FL,USA
140911878188	N9K-C93108TC-FX	Data Center Switches	JACKSONVILLE,FL,USA
SMDIRECT101	N9K-C93108TC-FX	Data Center Switches	JACKSONVILLE,FL,USA

2. Admin Centerアイコンをクリックします。「データソース」ウィンドウが開きます。



データソース

3. Add Data Sourceをクリックします。Add Data Sourceウィンドウが開きます。表示されるオプションは、お客様のサブスクリプションによって異なります。

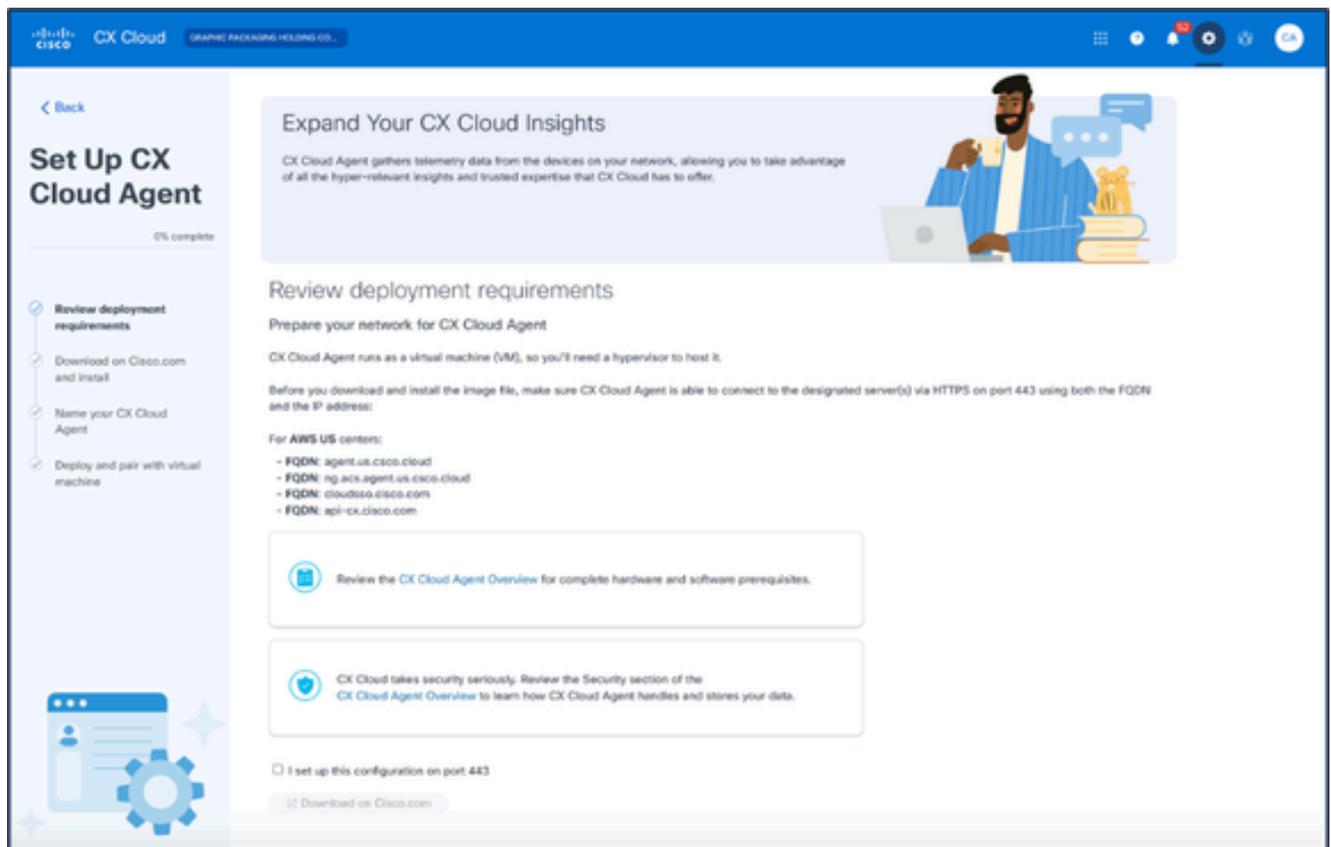
## Add Data Source

Search data sources Q

-  **Cisco Catalyst SD-WAN Manager**  
Supports the Success Track for WAN [Add Data Source](#)
-  **Cisco DNA Center**  
Uses CX Cloud Agent to support the Success Tracks for Campus Network and WAN (supported asset types) [Add Data Source](#)
-  **Contracts**  
Supports assets associated with a contract [Add Data Source](#)
-  **CX Cloud Agent**  
Add up to 20 CX Cloud Agents to your network to support a variety of Success Tracks [Add Data Source](#)
-  **Firewall Management Center**  
Supports Cisco Secure Firewall [Add Data Source](#)
-  **Intersight**  
Supports the Data Center Compute and Cloud Network Success Tracks [Add Data Source](#)
-  **Other Assets by IP Ranges**  
Uses CX Cloud Agent to support the Success Track for Campus Network (automated method recommended for larger networks) [Add Data Source](#)
-  **Other Assets by Seed File**  
Uses CX Cloud Agent to support the Success Track for Campus Network (manual method recommended for smaller networks) [Add Data Source](#)

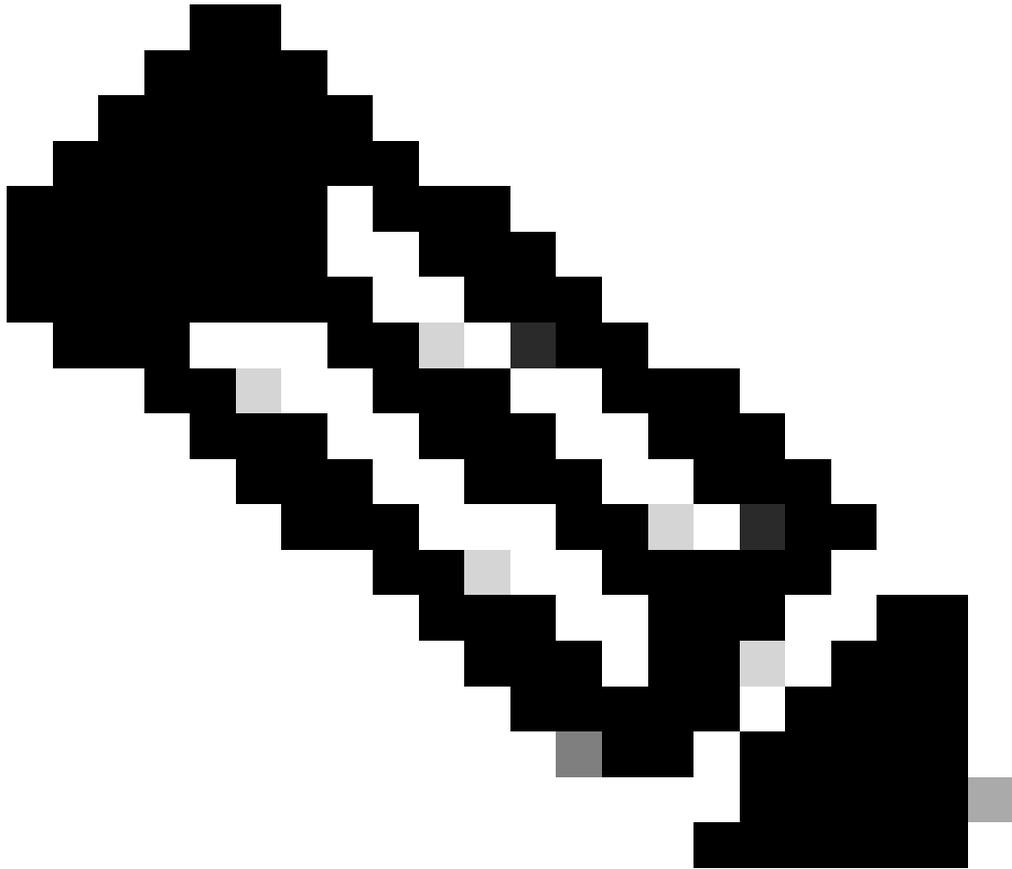
データソースの追加

4. CX Cloud AgentオプションからAdd Data Sourceをクリックします。CX Cloud Agentのセットアップウィンドウが開きます。



CX Cloud Agentのセットアップ

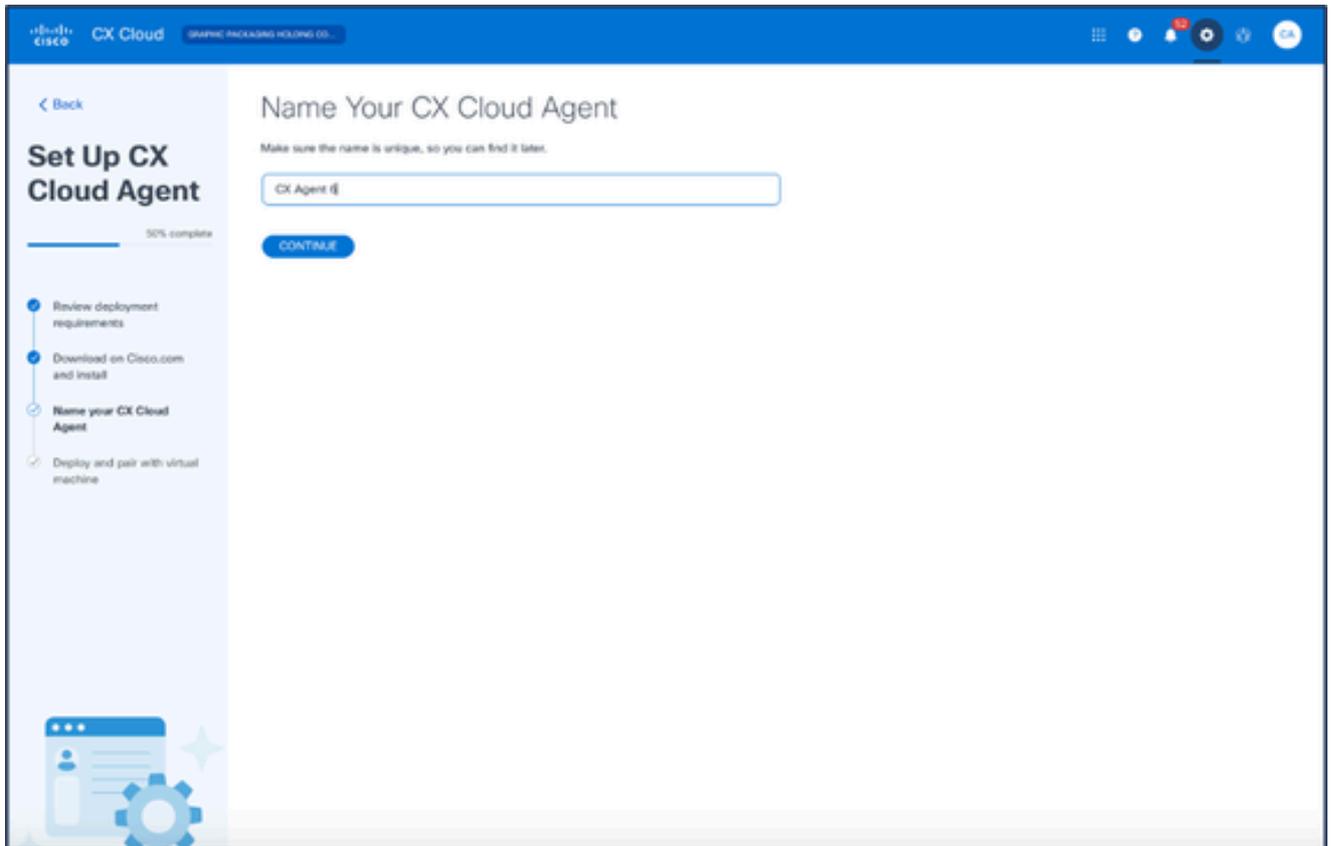
5. 「展開要件のレビュー」セクションを確認し、「I set up this configuration on port 443」チェックボックスをオンにします。
6. Cisco.comのDownloadをクリックします。ソフトウェアのダウンロードページが開きます。
7. CX Cloud Agent v2.4 OVAファイルをダウンロードします。



注: CX Cloud Agentのセットアップを完了するために必要なペアリングコードは、OVAファイルの導入後に生成されます。

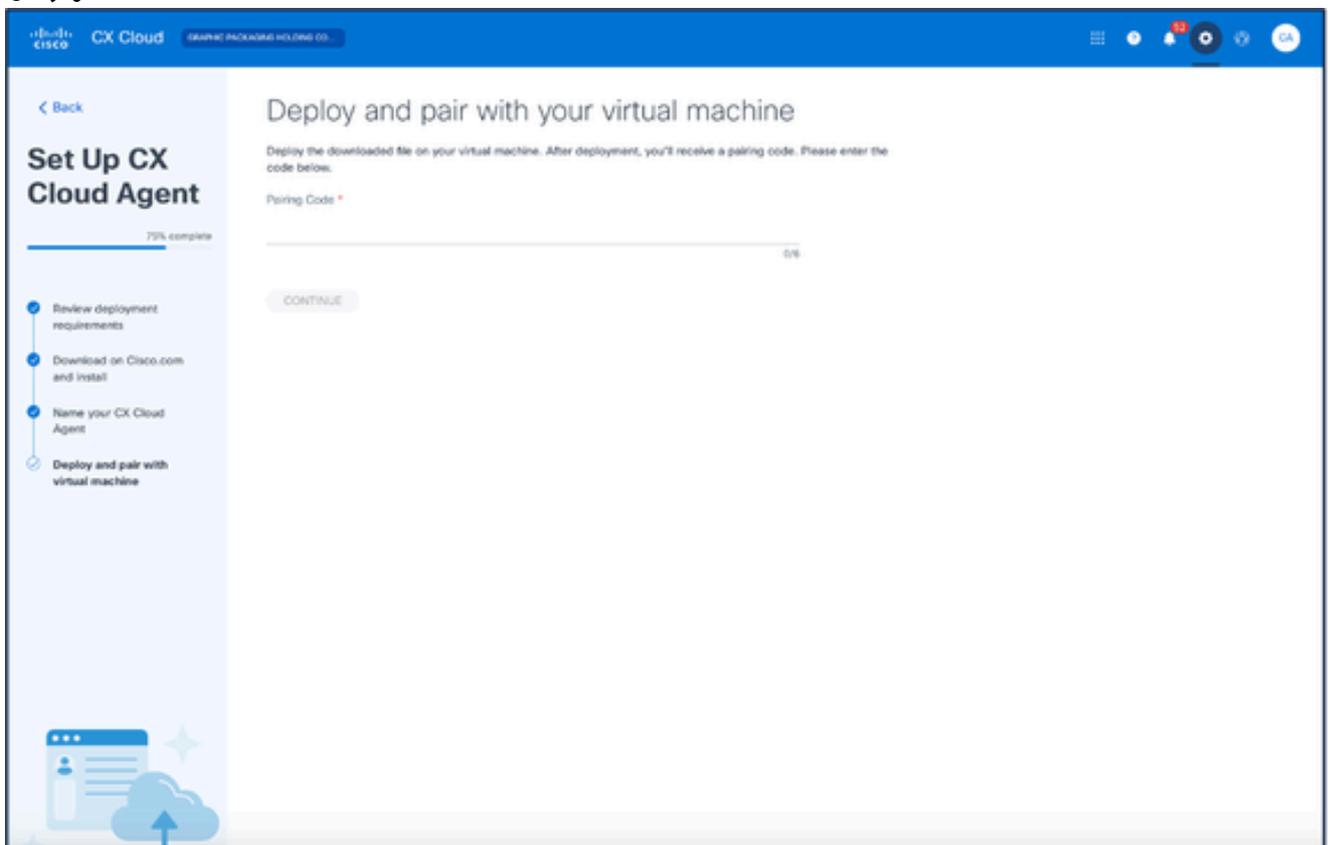
---

8. Name Your CX Cloud AgentフィールドにCX Cloud Agentの名前を入力します。



CX Cloud Agentの名前

9. [Continue] をクリックします。Deploy and pair with your virtual machineウィンドウが開きます。



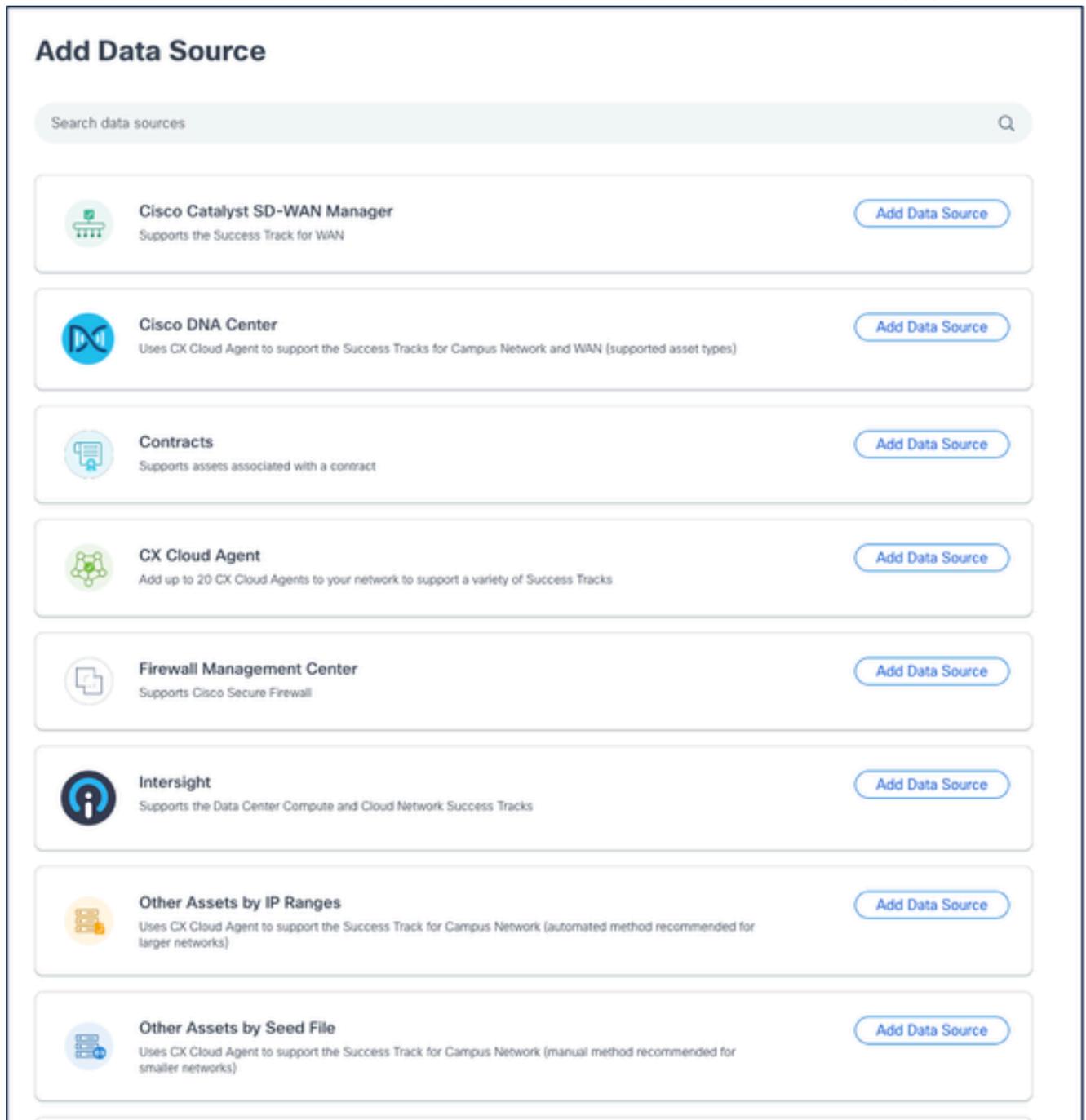
仮想マシンの導入とペアリング

10. ダウンロードしたOVAファイルの導入後に受信したペアリングコードを入力します。
11. [Continue] をクリックします。登録の進捗状況が表示され、確認メッセージが表示されます。

## データソースとしてのCisco DNA Centerの追加

Cisco DNA Centerをデータソースとして追加するには、次の手順を実行します。

1. Admin Center > Data Sourcesウィンドウで、Add Data Sourceをクリックします。



データソースの追加

2. Cisco DNA CenterオプションからAdd Data Sourceをクリックします。

## Which CX Cloud Agent Do You Want to Connect to?

Select option ▼



CX Cloud Agentの選択

3. Which CX Cloud Agent Do You Want to Connect to ドロップダウンリストから、CX Cloud Agentを選択します。
4. [Continue] をクリックします。Connect to CX Cloud ウィンドウが開きます。

## Connect to CX Cloud

### Connect a Cisco DNA Center ( 2 of 2 )

IP Address or FQDN \*

City \*  ▼

Username \*

Password \*

**Schedule inventory collection**

Frequency  ▼      Select time  ▼      AM  ▼      Time Zone  ▼

Run the first collection now (this may take up to 75 minutes)

CX Cloudへの接続

5. Connect a Cisco DNA Centerに次のように入力します。

- 仮想IPアドレスまたはFQDN ( Cisco DNA Center IPアドレス )
- 都市 ( Cisco DNA Centerの場所 )、
- ユーザ名
- Password
- 頻度、時間、およびタイムゾーン」を参照して、CX Cloudエージェントがスケジュールインベントリ収集セクションでネットワークスキャンを実行する頻度を指定します  
注意: 「最初の収集を今すぐ実行」チェック・ボックスを選択して、今すぐ収集を実行します。

6. [Connect] をクリックします。Cisco DNA CenterのIPアドレスを示す確認が表示されます。

## データソースとしての他のアセットの追加

テレメトリの収集は、Cisco DNA Centerで管理されていないデバイスにも拡張されているため、お客様はテレメトリに由来する洞察や分析を参照し、より広範なデバイスと対話できます。CX Cloud Agentの初期セットアップ後、CX Cloudで監視されるインフラストラクチャ内の20の追加のCisco DNA Centerに接続するようにCX Cloud Agentを設定できます。

シードファイルを使用してデバイスを一意に識別するか、CX Cloud AgentがスキャンできるIP範囲を指定することで、CX Cloudに組み込むデバイスを識別できます。どちらのアプローチも、ディスクバリエーションではSimple Network Management Protocol(SNMP)を使用し、接続ではSecure Shell(SSH)を使用します。これらを正しく設定して、テレメトリ収集を正常に行う必要があります。

他のアセットをデータソースとして追加するには：

- シードファイルテンプレートを使用してシードファイルをアップロードします。
- IPアドレス範囲を指定します。

## 検出プロトコル

シードファイルベースの直接デバイス検出とIP範囲ベースの検出の両方で、検出プロトコルとしてSNMPを使用します。SNMPにはさまざまなバージョンがありますが、CX Cloud AgentはSNMPV2cとSNMP V3をサポートし、いずれか、または両方のバージョンを設定できます。設定を完了し、SNMP管理対象デバイスとSNMPサービスマネージャ間の接続を有効にするには、同じ情報 ( 次に詳細を説明 ) をユーザが入力する必要があります。

SNMPV2cとSNMPV3は、セキュリティとリモート設定モデルの点で異なります。SNMPV3では、SHA暗号化をサポートする高度な暗号化セキュリティシステムを使用して、メッセージを認証し、メッセージのプライバシーを保護します。SNMPv3は、セキュリティリスクと脅威から保護するために、すべてのパブリックおよびインターネット側のネットワークでを使用することを推奨します。CX Cloudでは、SNMPv3のサポートが組み込まれていない古いレガシーデバイスを除き、SNMPv2cではなくSNMPv3を設定することをお勧めします。両方のバージョンのSNMPが設定されている場合、デフォルトでCX Cloud AgentはSNMPv3を使用して各デバイスとの通信を試み、通信が正常にネゴシエートされない場合はSNMPv2cに戻ります。

## 接続プロトコル

デバイスの直接接続のセットアップの一環として、ユーザはデバイス接続プロトコルの詳細を指定する必要があります。具体的には、SSH (またはtelnet) です。SSHv2は、適切な組み込みサポートを備えていない個別のレガシー資産の場合を除き、使用できます。SSHv1プロトコルには基本的な脆弱性が含まれることに注意してください。追加のセキュリティがなければ、SSHv1に依存する際に、これらの脆弱性が原因でテレメトリデータと基盤となる資産が侵害される可能性があります。Telnetも安全ではありません。Telnet経由で送信されるクレデンシャル情報 ( ユーザ名とパスワード ) は暗号化されないため、セキュリティが強化されていないことから、セキュリティが侵害される危険性があります。

## デバイスに関する電信処理上の制限

デバイスのテレメトリデータを処理する際の制限事項は次のとおりです。

- デバイスによっては、Collection Summaryに到達可能と表示されていても、CX Cloud Assetsページには表示されないことがあります。デバイス機器の制限により、このようなデバイステレメトリの処理が妨げられます。
- シードファイルまたはIP範囲コレクションのデバイスがCisco DNA Centerインベントリの一部でもある場合、デバイスはCisco DNA Centerエントリに対して1回だけ報告されます。シードファイル/IP範囲エントリ内の各デバイスは、重複を避けるためにスキップされます。

## シードファイルを使用して他のアセットを追加する

シードファイルは.csvファイルで、各行はシステムデータレコードを表します。シードファイルでは、すべてのシードファイルレコードは、CX Cloud Agentがテレメトリを収集できる固有のデバイスに対応します。インポートされるシードファイルの各デバイスエントリのすべてのエラーメッセージまたは情報メッセージは、ジョブログの詳細の一部として取得されます。シードファイル内のすべてのデバイスは、初期設定時に到達不能であったとしても、管理対象デバイスと見なされます。新しいシードファイルをアップロードして以前のシードファイルと置き換える場合は、最後にアップロードした日付がCX Cloudに表示されます。

CX Cloud Agentはデバイスへの接続を試行できますが、PIDまたはシリアル番号を判別できない場合、Assetsページに表示するそれぞれのデバイスを処理できません。シードファイル内の、セミコロンで始まる行はすべて無視されます。シードファイルのヘッダー行はセミコロンで始まり、そのまま保持することも ( 推奨オプション )、顧客シードファイルの作成中に削除することもできます。

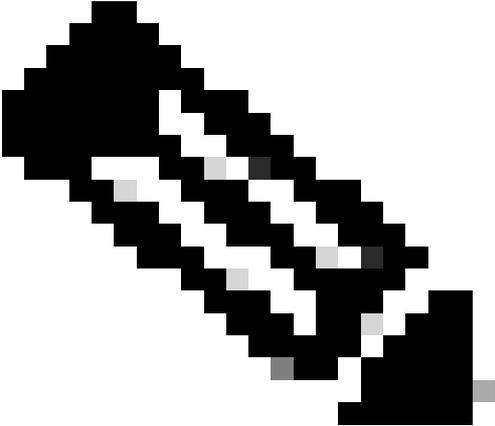
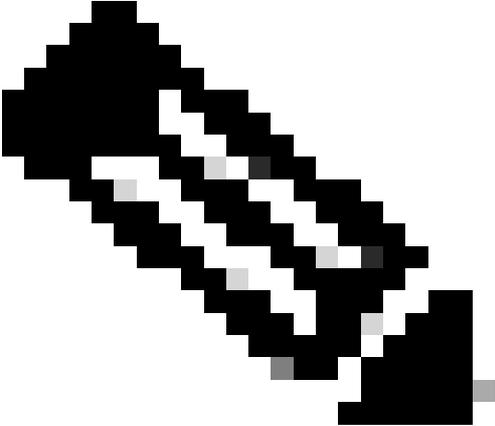
列ヘッダーを含むサンプルシードファイルの形式は、一切変更しないことが重要です。表示されたリンクをクリックして、PDF形式のシードファイルを表示します。このPDFは参照専用で、.csv形式で保存する必要があるシードファイルの作成に使用できます。

.csv形式のシードファイルの作成に使用できるシードファイルを表示するには、この[リンク](#)をクリックします。

 注：このPDFは参照専用で、.csv形式で保存する必要があるシードファイルを作成するために使用できます。

この表は、必要なすべてのシード・ファイル列と、各列に含める必要のあるデータを示しています。

シードファイル列	列ヘッダー/識別子	カラムの目的
A	IPアドレスまたはホスト名	デバイスの有効な一意のIPアドレスまたはホスト名を指定します。
B	SNMPプロトコルバージョン	SNMPプロトコルは、CX Cloud Agentによって必要とされ、お客様のネットワーク内でのデバイス検出に使用されます。値にはsnmpv2cまたはsnmpv3を使用できますが、セキュリティ上の考慮事項から、snmpv3の使用が推奨されます。
C	snmpRo:col#=3が「snmpv2c」として選択されている場合は必須	特定のデバイスに対して従来のSNMPv2バリエーションを選択した場合は、デバイスのSNMPコレクションに対してsnmpRO（読み取り専用）クレデンシャルを指定する必要があります。それ以外の場合は、空白を入力できます。
D	snmpv3UserName:col#=3が「snmpv3」として選択されている場合は必須	特定のデバイスとの通信にSNMPv3を選択した場合は、それぞれのログインユーザ名を指定する必要があります。
E	snmpv3AuthAlgorithm：値はMD5またはSHAにすることができます	SNMPv3プロトコルは、MD5またはSHAアルゴリズムによる認証を許可します。デバイスにセキュア認証が設定されている場合、それぞれの認証アルゴリズムを指定する必要があります。

シードファイル列	列ヘッダー/識別子	カラムの目的
		 <p data-bbox="922 801 1471 925">注：MD5は安全でないと見なされており、SHAはサポートしているすべてのデバイスで使用できます。</p>
F	snmpv3AuthPassword : パスワード	<p data-bbox="826 1025 1476 1193">デバイスにMD5またはSHA暗号化アルゴリズムが設定されている場合は、デバイスアクセス用に関連する認証パスワードを指定する必要があります。</p>
G	snmpv3PrivAlgorithm : 値はDES、3DES	<p data-bbox="826 1272 1476 1429">デバイスにSNMPv3プライバシーアルゴリズムが設定されている場合（このアルゴリズムは応答の暗号化に使用されます）、それぞれのアルゴリズムを指定する必要があります。</p>  <p data-bbox="922 2022 1455 2056">注:DESで使用される56ビットキーは</p>

シードファイル列	列ヘッダー/識別子	カラムの目的
		<p>、暗号化セキュリティを提供するには短すぎるとみなされ、3DESは、これをサポートするすべてのデバイスで使用できます。</p>
H	snmpv3PrivPassword : パスワード	デバイスでSNMPv3プライバシーアルゴリズムが設定されている場合は、デバイス接続に対応するプライバシーパスワードを提供する必要があります。
I	snmpv3EngineId:engineID、デバイスを表す一意のID、デバイスで手動で設定されている場合はエンジンIDを指定	SNMPv3 EngineIDは、各デバイスを表す一意のIDです。このエンジンIDは、CX Cloud AgentがSNMPデータセットを収集する際に参照として送信されます。お客様がEngineIDを手動で設定する場合は、それぞれのEngineIDを指定する必要があります。
J	cliProtocol : 値は'telnet'、'sshv1'、'sshv2'です。空の場合は、デフォルトで'sshv2'に設定できます	CLIは、デバイスと直接やり取りすることを目的としています。CX Cloud Agentは、特定のデバイスのCLI収集にこのプロトコルを使用します。このCLI収集データは、CX Cloud内のAssetsおよびその他のInsightsレポートに使用されます。SSHv2が推奨されます。他のネットワークセキュリティ対策がない場合、それ自体では、SSHv1およびTelnetプロトコルは適切なトランスポートセキュリティを提供しません。
K	cliPort:CLIプロトコルポート番号	CLIプロトコルを選択する場合は、それぞれのポート番号を指定する必要があります。たとえば、SSHの場合は22、Telnetの場合は23です。
起	cliUser:CLIユーザ名(CLIユーザ名/パスワードまたはBOTHのいずれかを指定できますが、両方のカラム ( col#=12および	デバイスのそれぞれのCLIユーザ名を指定する必要があります。これは、CLI収集時にデバイスに接続するときにCX Cloud Agentによって使用されます。

シードファイル列	列ヘッダー/識別子	カラムの目的
	col#=13 ) を空にすることはできません。	
M	cliPassword:CLIユーザパスワード(CLIユーザ名/パスワードまたはBOTHのいずれかを指定できますが、両方のカラム ( col#=12および col#=13 ) を空にすることはできません)。	デバイスの各CLIパスワードを入力する必要があります。これは、CLI収集時にデバイスに接続するときにCX Cloud Agentによって使用されます。
N	cliEnableUser	デバイスでenableが設定されている場合は、デバイスのenableUsername値を指定する必要があります。
O	cliEnablePassword	デバイスでenableが設定されている場合、デバイスのenablePassword値を指定する必要があります。
P	将来のサポート ( 入力は不要 )	将来の使用のために予約済み
Q	将来のサポート ( 入力は不要 )	将来の使用のために予約済み
R	将来のサポート ( 入力は不要 )	将来の使用のために予約済み
S	将来のサポート ( 入力は不要 )	将来の使用のために予約済み

## 新しいシードファイルを使用して他のアセットを追加する

新規シードファイルを使用して他のアセットを追加するには：

1. Admin Center > Data Sourcesウィンドウで、Add Data Sourceをクリックします。



## Which CX Cloud Agent Do You Want to Connect to?

OIC\_Team\_test\_CXCAGent\_IP\_104

Cancel Continue



[Continue]

4. [Continue] をクリックします。シードファイルのアップロードページが表示されます。

### Upload your seed file

Download the [seed file template](#) and add your device information. Then attach the file below.

Drag and drop or [browse files](#)  
Supports CSV files only. Max file size 5 MB.

### Schedule inventory collection

Frequency Select time Time Zone

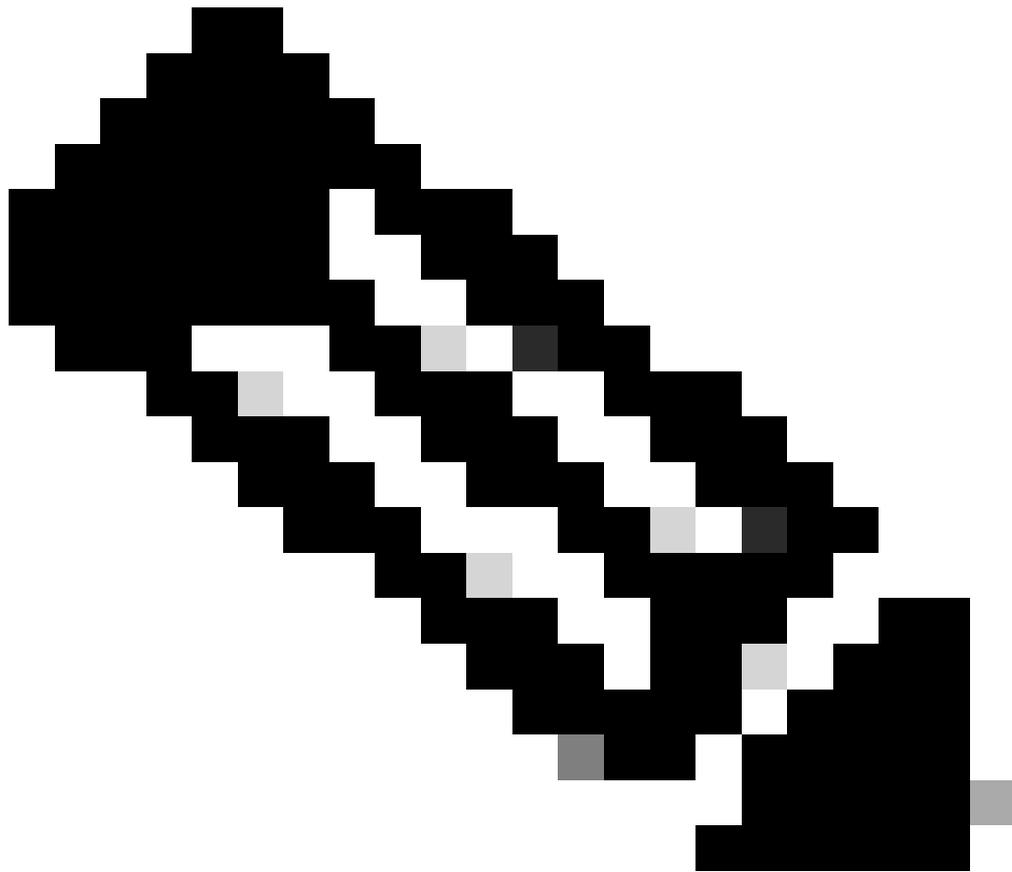
Frequency 12:00 AM Europe/Amsterdam (...)

Run the first collection now (this may take up to 75 minutes)

Connect

シードファイルのアップロード

5. ハイパーリンクシードファイルテンプレートをクリックして、テンプレートをダウンロードします。
6. ファイルにデータを手動で入力またはインポートします。完了したら、テンプレートを .csvファイルとして保存し、CX Cloud Agentにインポートします。
7. .csvファイルをアップロードするには、ドラッグアンドドロップするか、[browse files](#) をクリックします。
8. 「インベントリ収集のスケジュール設定」セクションに入力します。



注：CX Cloudの初期設定が完了する前に、CX Cloud Agentはシードファイル进行处理し、特定されたすべてのデバイスとの接続を確立して、最初のテレメトリコレクションを実行する必要があります。収集は、オンデマンドで開始することも、ここで定義したスケジュールに従って実行することもできます。ユーザーは、[最初のコレクションを今すぐ実行する]チェックボックスをオンにして、最初のテレメトリ接続を実行できます。シードファイルで指定されているエントリの数やその他の要因によっては、このプロセスにかなりの時間がかかる場合があります。

- 
9. [Connect] をクリックします。「データソース」ウィンドウが開き、確認メッセージが表示されます。

## 変更したシードファイルを使用して他のアセットを追加する

現在のシードファイルを使用してデバイスを追加、変更、または削除するには、次の手順を実行します。

1. 前に作成したシードファイルを開き、必要な変更を行ってファイルを保存します。

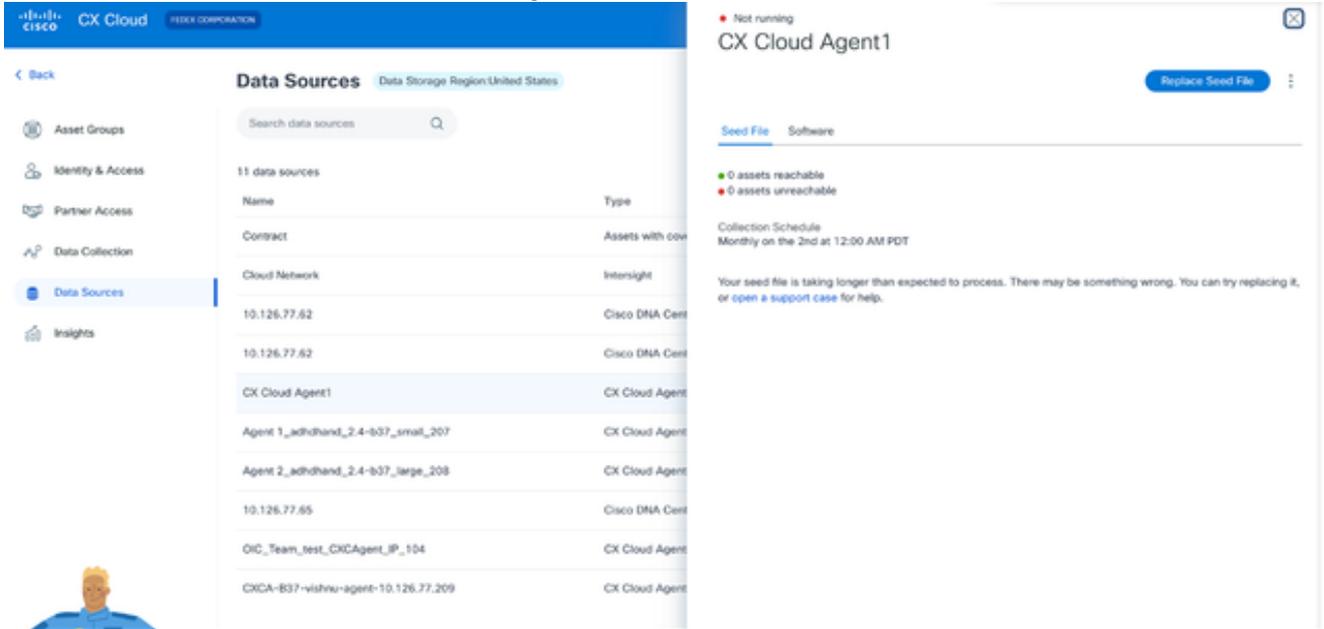
---

 注：シードファイルにアセットを追加するには、以前に作成したシードファイルにア

---

 セットを追加し、ファイルをリロードします。新しいシードファイルをアップロードすると現在のシードファイルが置き換えられるため、これが必要になります。検出と収集には、アップロードされた最新のシードファイルのみが使用されます。

2. データソースページで、更新されたシードファイルを必要とするCX Cloud Agentデータソースをクリックします。CX Cloud Agentの詳細ウィンドウが開きます。

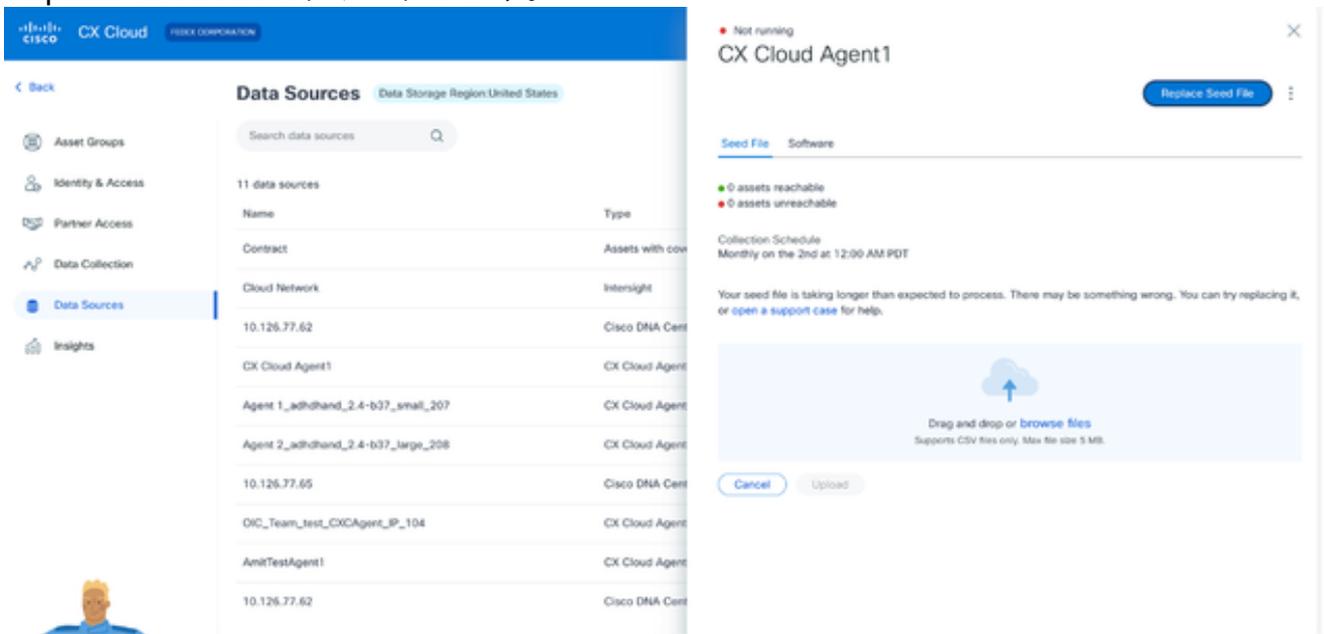


The screenshot shows the 'Data Sources' page in the CX Cloud interface. A table lists 11 data sources. The 'CX Cloud Agent1' entry is highlighted. To the right, the 'CX Cloud Agent1' details window is open, showing a 'Replace Seed File' button and a message indicating that the seed file is taking longer than expected to process.

Name	Type
Contract	Assets with cov
Cloud Network	Intersight
10.126.77.62	Cisco DNA Cent
10.126.77.62	Cisco DNA Cent
<b>CX Cloud Agent1</b>	<b>CX Cloud Agent</b>
Agent 1_adhdhand_2.4-b37_small_207	CX Cloud Agent
Agent 2_adhdhand_2.4-b37_large_208	CX Cloud Agent
10.126.77.65	Cisco DNA Cent
OIC_Team_test_CXCAGENT_IP_104	CX Cloud Agent
CXCA-B37-vishnu-agent-10.126.77.209	CX Cloud Agent

CX Cloud Agent Detailsウィンドウ

3. Replace Seed Fileをクリックします。



The screenshot shows the 'Data Sources' page with 'CX Cloud Agent1' selected. The details window for 'CX Cloud Agent1' is open, and the 'Replace Seed File' button has been clicked. A dialog box is displayed, prompting the user to 'Drag and drop or browse files' to upload a new seed file. The dialog also indicates that it supports CSV files only and has a maximum file size of 5 MB.

CX Cloud Agentウィンドウ

4. 変更したシードファイルをアップロードするには、ドラッグアンドドロップするか、browse filesをクリックします。
5. [Upload] をクリックします。

## IP範囲を使用して他のアセットを追加する

IP範囲を使用すると、ユーザはハードウェア資産を特定し、その後IPアドレスに基づいてそれらのデバイスからテレメトリを収集できます。テレメトリ収集用のデバイスは、1つのネットワークレベルのIP範囲を指定することで一意に識別できます。この範囲は、CX Cloud AgentがSNMPプロトコルを使用してスキャンできます。直接接続されたデバイスを識別するためにIP範囲を選択する場合、参照されるIPアドレスは可能な限り制限され、必要なすべての資産をカバーできます。

- 特定のIPを指定したり、ワイルドカードを使用してIPのオクテットを置き換えて範囲を作成したりできます。
- セットアップ中に特定のIPアドレスが、特定のIPアドレスの範囲に含まれない場合、CX Cloud Agentは、そのようなIPアドレスを持つデバイスとの通信を試行せず、そのようなデバイスからテレメトリを収集しません。
- \*.\*.\*と入力すると、CX Cloud Agentはユーザが指定したクレデンシャルを任意のIPで使用できます。たとえば、172.16.\*.\*では、172.16.0.0/16サブネット内のすべてのデバイスにクレデンシャルを使用できます。
- ネットワークまたはInstalled Base(IB)に変更があれば、IP範囲を変更できます。「[IP範囲の編集](#)」の項を参照してください。

CX Cloud Agentはデバイスへの接続を試みますが、PIDまたはシリアル番号を特定できない場合、それぞれがAssetsビューに表示されるように処理できない可能性があります。

### 注：

Edit IP Address Rangeをクリックすると、オンデマンドデバイス検出が開始されます。新しいデバイスを特定のIP範囲に追加または削除（内外）する場合は、必ずEdit IP Address Range（IPアドレス範囲の編集）をクリックし（「[IP範囲の編集](#)」の項を参照）、オンデマンドでのデバイスディスカバリを開始するために必要な手順を実行して、新しく追加されたデバイスをCX Cloud Agentの収集インベントリに含める必要があります。

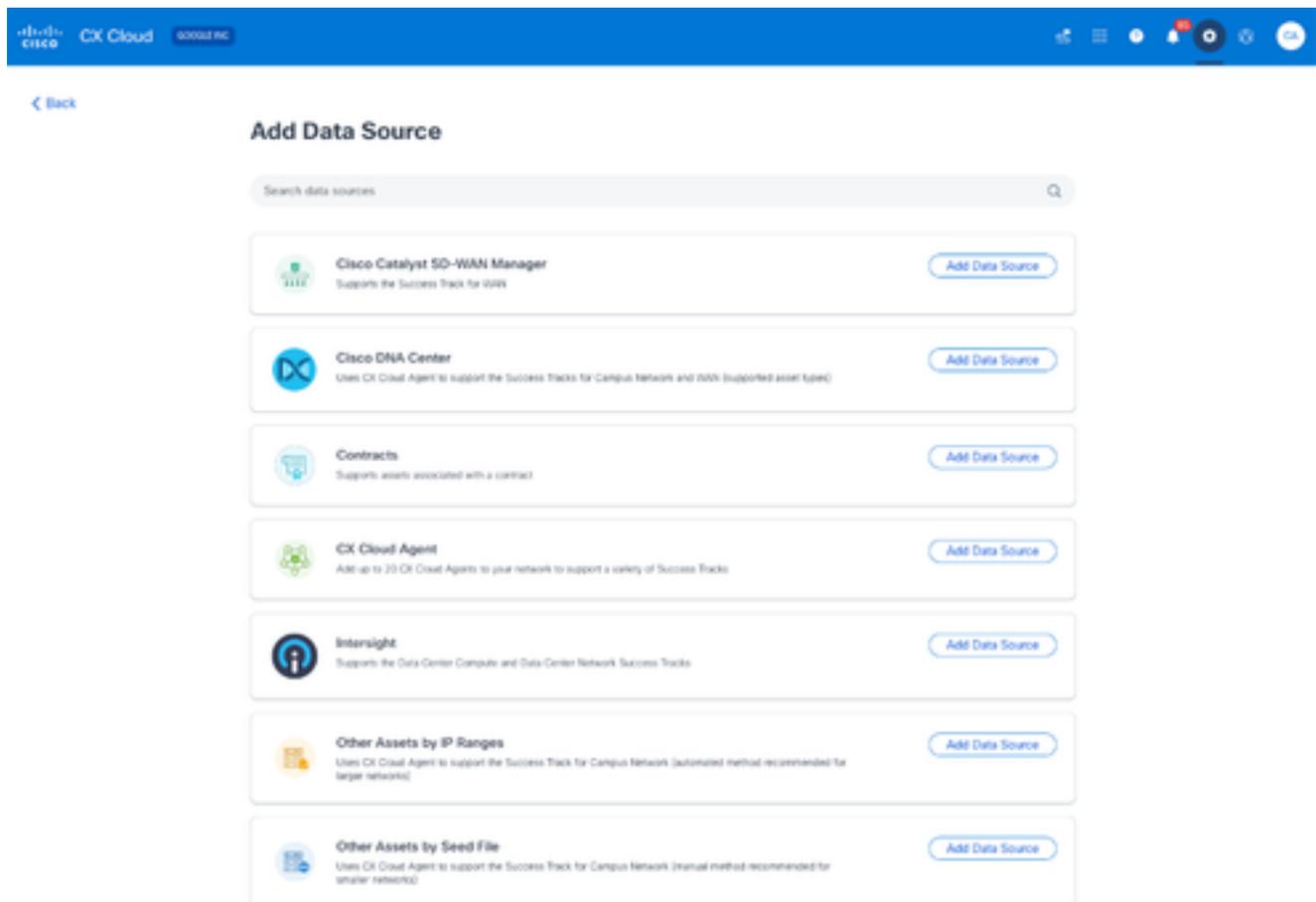
IP範囲を使用してデバイスを追加するには、ユーザが設定UIを使用して適用可能なすべてのクレデンシャルを指定する必要があります。表示されるフィールドは、前のウィンドウで選択したプロトコルによって異なります。SNMPv2cとSNMPv3の両方を選択したり、SSHv2とSSHv1の両方を選択するなど、同じプロトコルを複数選択すると、個々のデバイスの機能に基づいて、CX Cloud Agentによって自動的にプロトコルの選択がネゴシエートされます。

IPアドレスを使用してデバイスを接続する際は、SSHバージョンおよびTelnetクレデンシャルとともに、IP範囲内のすべての関連プロトコルが有効であることを確認する必要があります。これが有効でない場合、接続は失敗します。

## IP範囲による他のアセットの追加

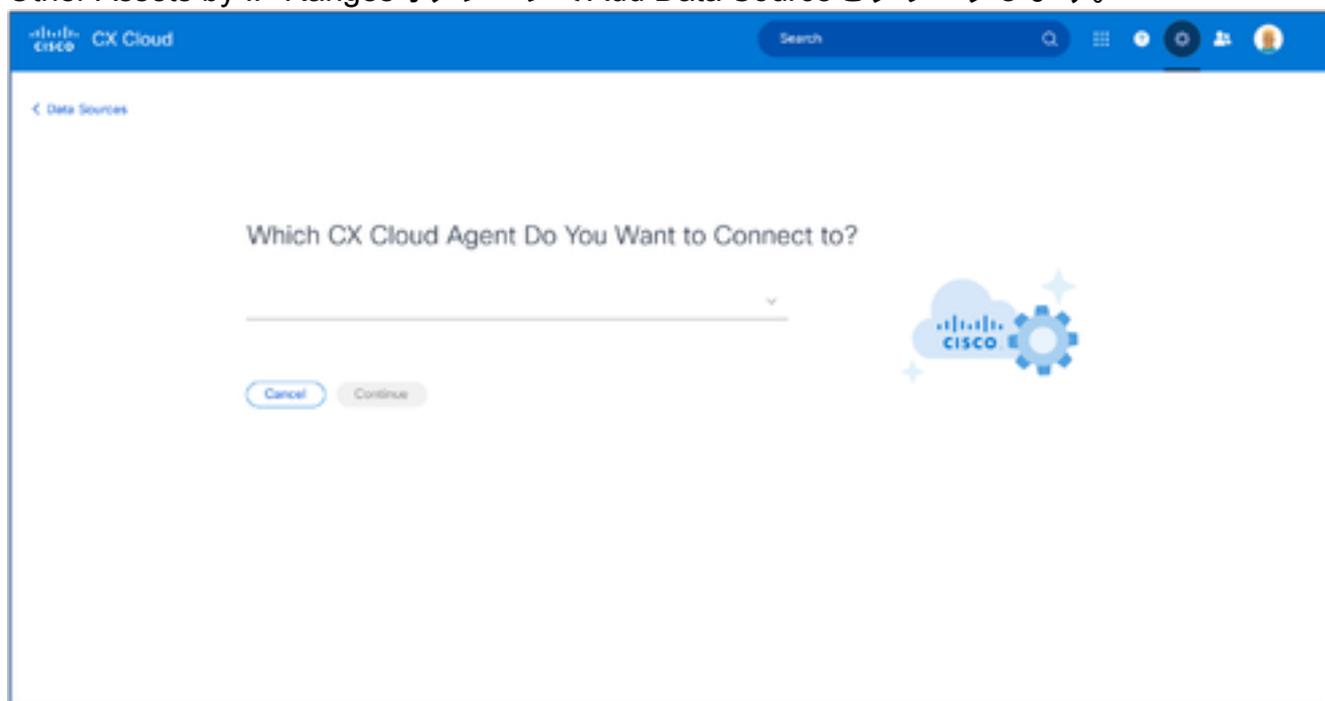
IP範囲を使用してデバイスを追加するには、次の手順を実行します。

1. Admin Center > Data Sourcesウィンドウで、Add Data Sourceをクリックします。



データソースの追加

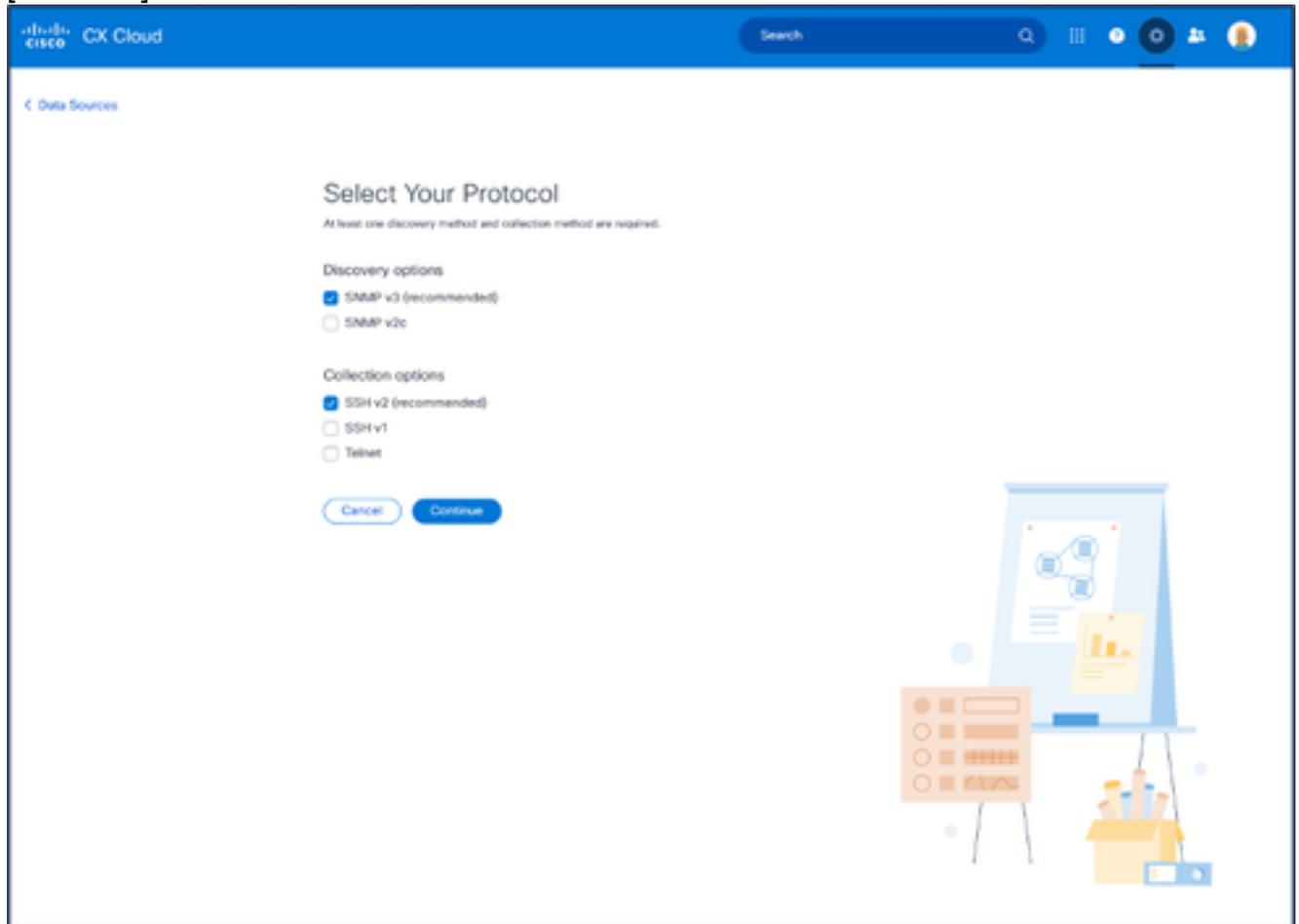
2. Other Assets by IP RangesオプションでAdd Data Sourceをクリックします。



CX Cloud Agentの選択

3. Which CX Cloud Agent Do You Want to Connect toドロップダウンリストから、CX Cloud Agentを選択します。

4. [Continue] をクリックします。Select Your Protocolウィンドウが開きます。



プロトコルの選択

5. Discovery optionsとCollection optionsの適切なチェックボックスをオンにします。

6. [Continue] をクリックします。

CISCO CX Cloud Search

← Data Sources

### Provide Discovery Details

[Edit protocol](#)

Starting IP address: 198.89.09.2  
 Ending IP address: 198.89.09.10

**SNMP v3 credentials**

Username: Manger1505  
 Engine ID: 1uto50102

Authorization algorithm: MD5  
 Authorization password: \*\*\*\*\*

Privacy algorithm: DES  
 Authorization password: \*\*\*\*\*

**SSH v2 credentials**

Username: Manger1505  
 Enable username (optional): 1uto50102

Password: MD5  
 Enable password (optional): \*\*\*\*\*

### Schedule Inventory Collection

Frequency: Weekly  
 Time: 12:00 AM PST  
 Day: Tuesday

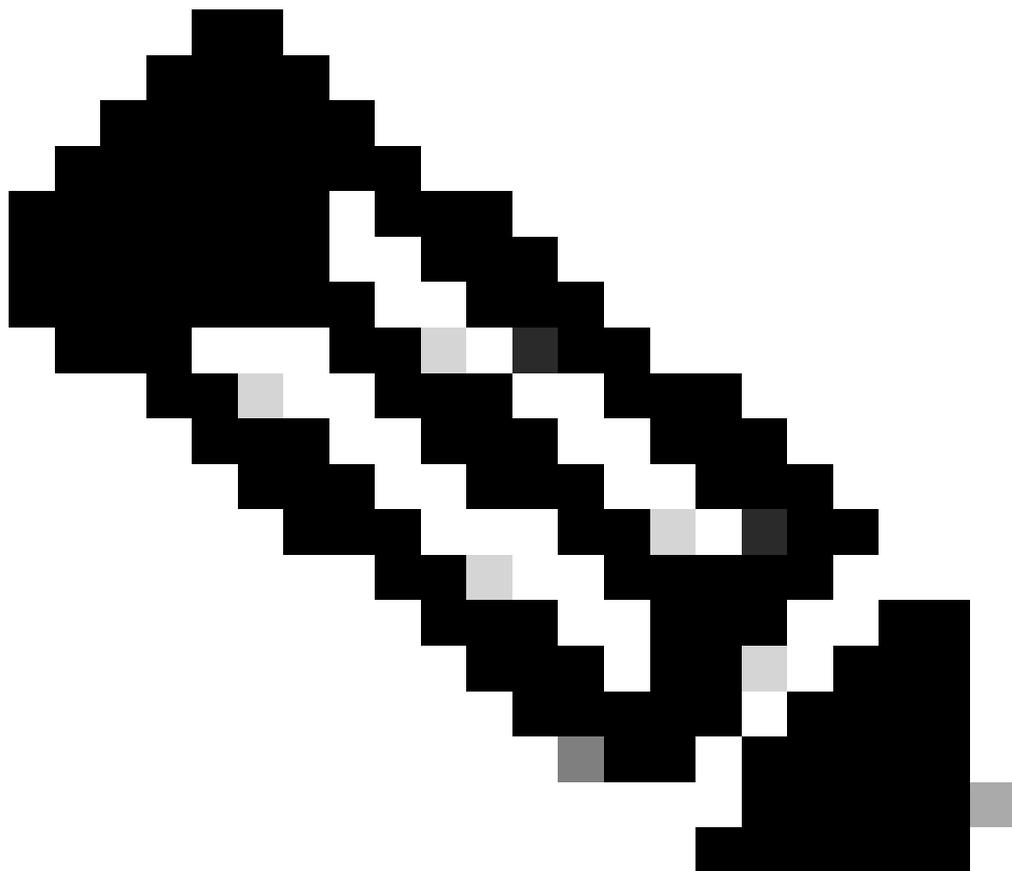
Run the first collection now (may take up to 75 minutes)

[Add Another IP Range](#) [Complete Setup](#) [Delete this IP range](#)



ディスカバリの詳細の提供とインベントリ収集セクションのスケジュール設定

7. 必要な詳細を「ディスカバリの詳細の指定」および「インベントリ収集のスケジュール設定」セクションに入力します。



注：選択したCX Cloud Agentに別のIP範囲を追加するには、Add Another IP RangeをクリックしてSet Your Protocolウィンドウに戻り、このセクションの手順を繰り返します。

---

8. Complete Setupをクリックします。展開が成功すると、確認メッセージが表示されます。

The screenshot displays the Cisco CX Cloud interface. The top navigation bar includes the Cisco logo, 'CX Cloud', a search bar, and user profile icons. The left sidebar lists navigation options: My Portfolio, Account, Asset Groups, Identity & Access, Partner Access, Data Collection, and Data Sources (highlighted). The main content area is titled 'Data Sources' with a sub-header 'Region: United States'. Below this is a search bar and a table listing 4 data sources. A notification message in the top right corner states: 'Your IP ranges are being processed. It may take up to an hour to complete.'

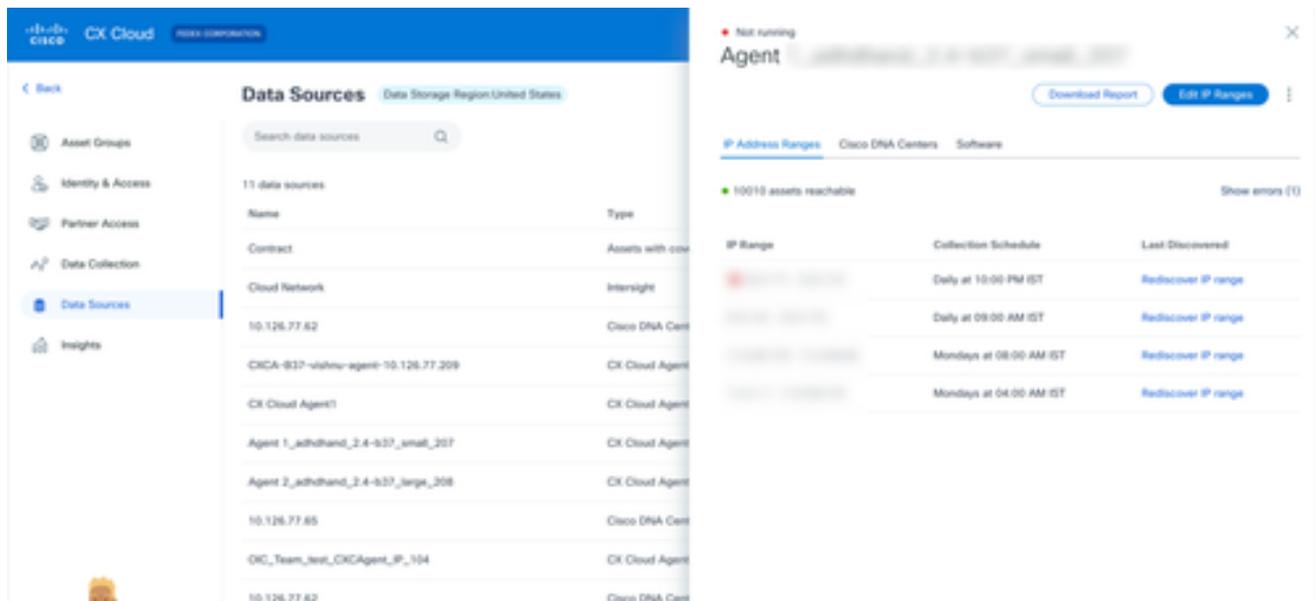
Name	Type	Date Last Updated	Status
CX Cloud Agent 1	CX Cloud Agent v1.2	15 minutes ago	Running
99.387.29.01	Catalyst Center	6 hours ago	Reachable
475.92.988.3	Catalyst Center	1 month ago	Reachable
Merski	Merski - L1	23 hours ago	Last update succeeded

確認メッセージ

## IP範囲の編集

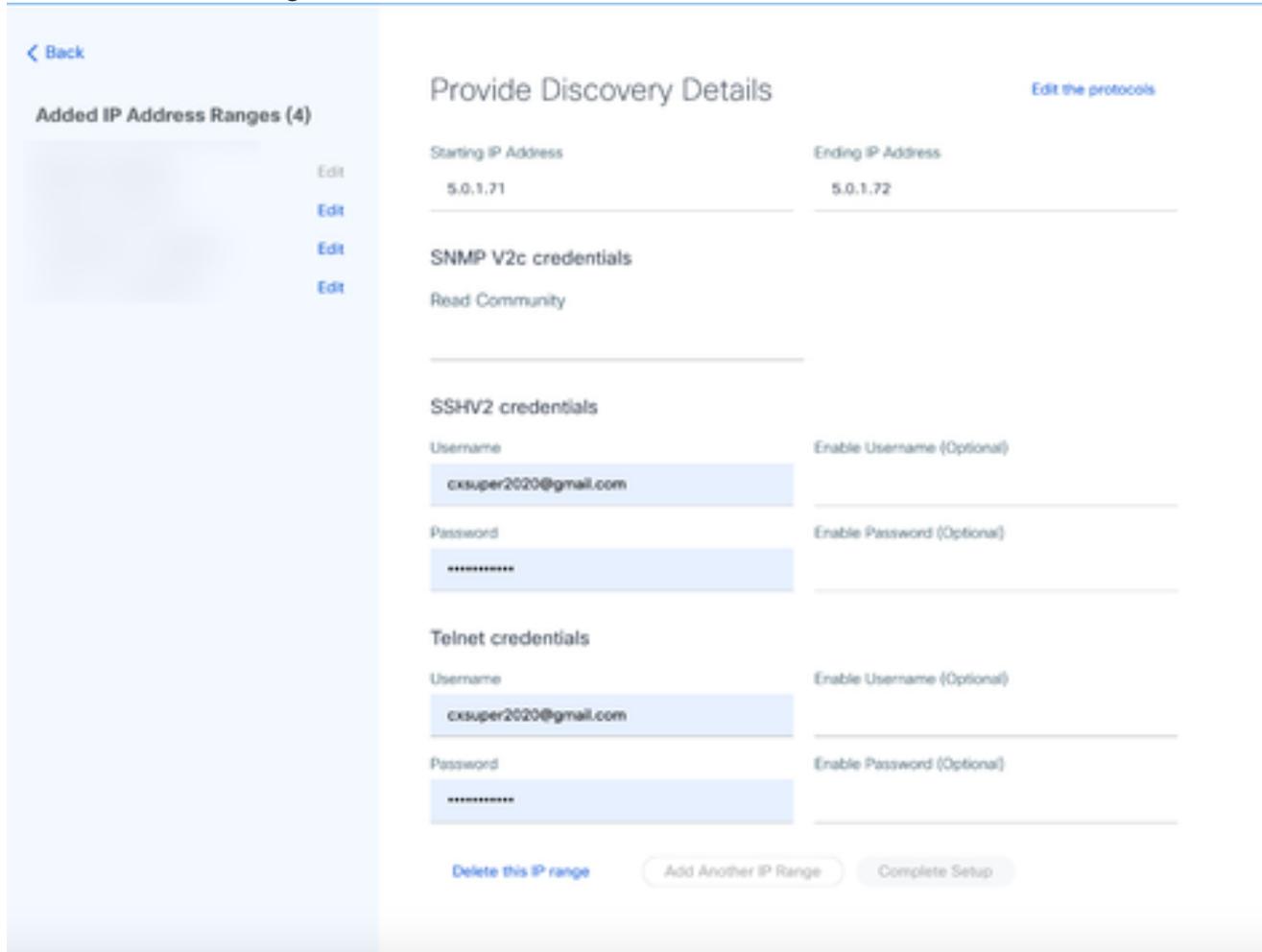
IP範囲を編集するには、

1. Data Sourcesウィンドウに移動します。
2. Data SourcesでIP範囲の編集を必要とするCX Cloud Agentをクリックします。詳細ウィンドウが開きます。



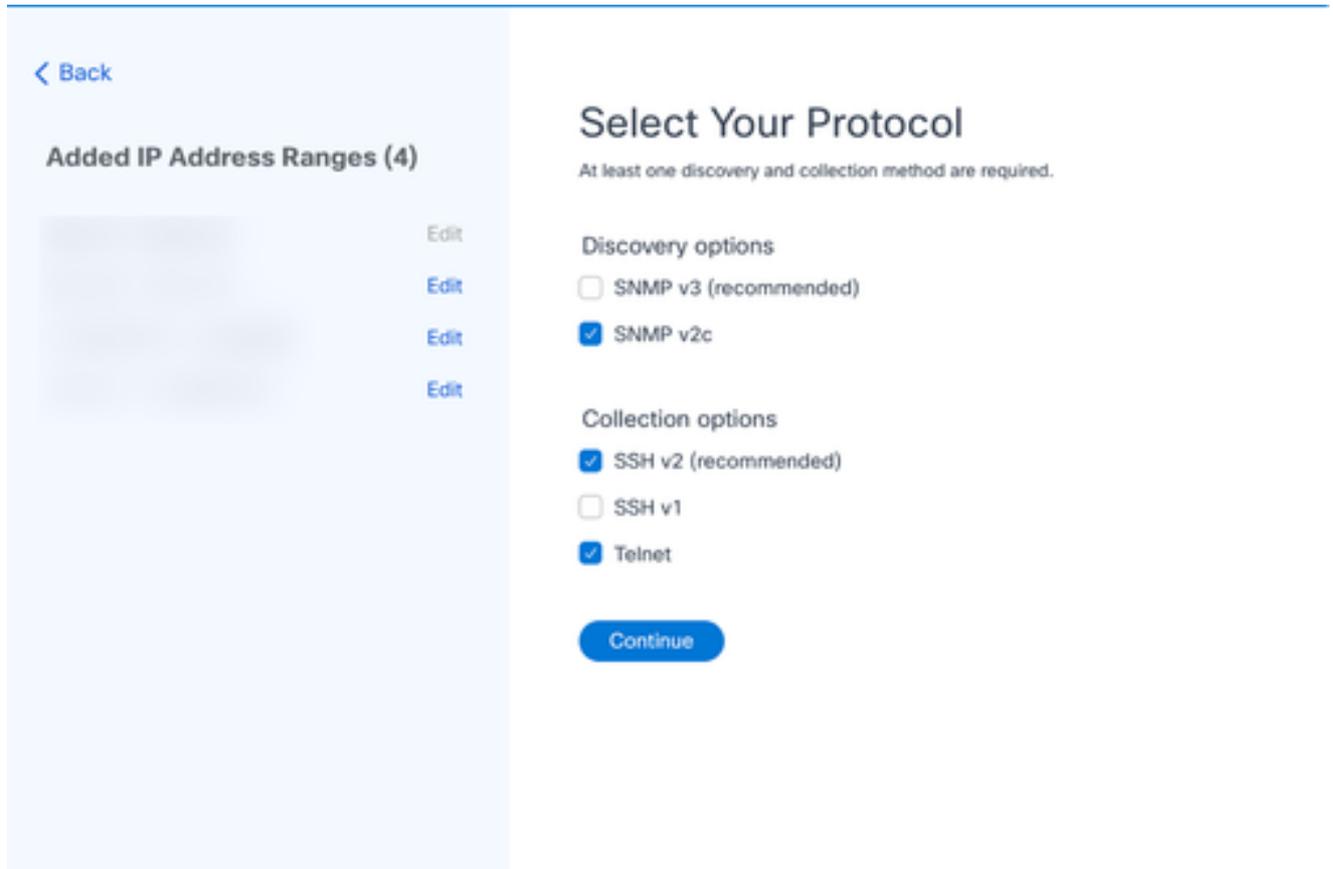
データソース

3. Edit IP Address Rangeをクリックします。「CX Cloudに接続」ウィンドウが開きます。



ディスカバリの詳細の提供

4. Edit the protocolsをクリックします。Select Your Protocolウィンドウが開きます。



プロトコルの選択

5. 該当するチェックボックスをオンにして該当するプロトコルを選択し、ContinueをクリックしてProvide Discovery Detailsウィンドウに戻ります。

[← Back](#)

**Added IP Address Ranges (4)**

[Edit](#)  
[Edit](#)  
[Edit](#)  
[Edit](#)

## Provide Discovery Details [Edit the protocols](#)

Starting IP Address: 5.0.1.71 | Ending IP Address: 5.0.1.72

**SNMP V2c credentials**  
Read Community

---

**SSHV2 credentials**

Username:  | Enable Username (Optional)

Password:  | Enable Password (Optional)

**Telnet credentials**

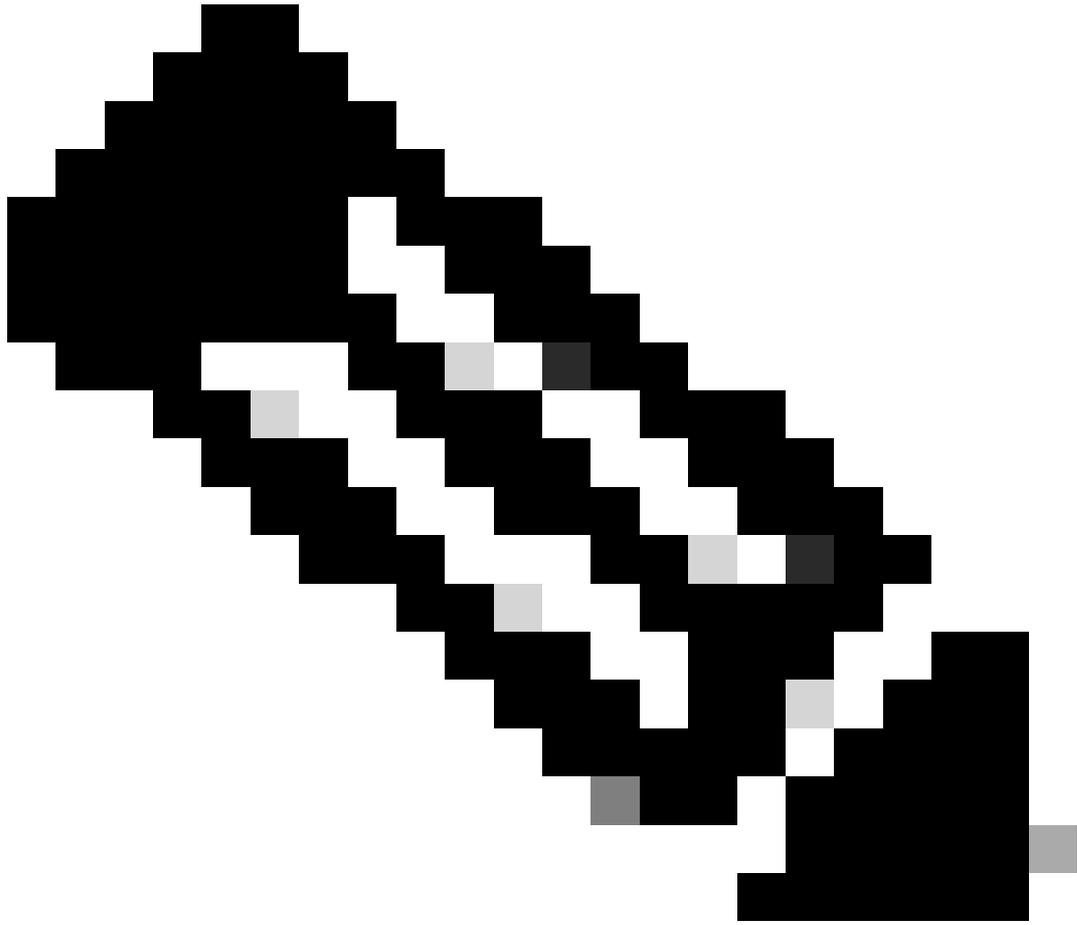
Username:  | Enable Username (Optional)

Password:  | Enable Password (Optional)

[Delete this IP range](#) [Add Another IP Range](#) [Complete Setup](#)

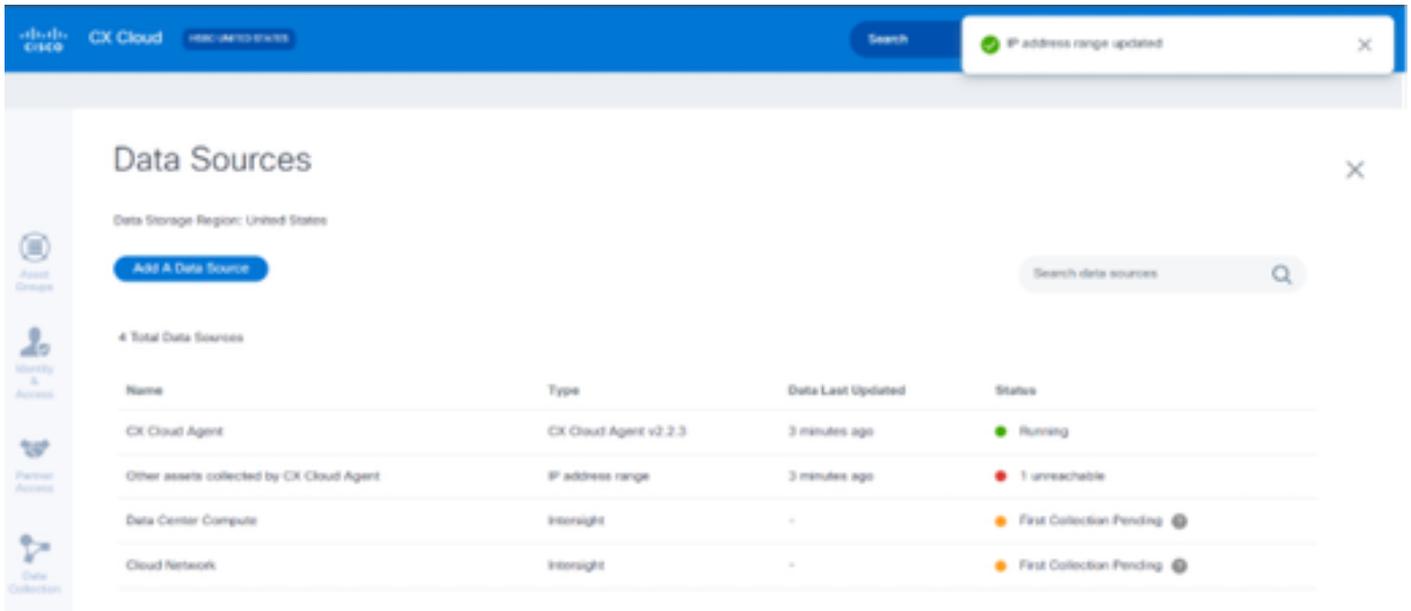
ディスカバリの詳細の提供

6. 必要に応じて詳細を編集し、Complete Setupをクリックします。Data Sourcesウィンドウが開き、新しく追加したIPアドレス範囲の追加を確認するメッセージが表示されます。



注：この確認メッセージでは、変更された範囲内のデバイスが到達可能かどうか、またはそのクレデンシャルが受け入れられるかどうかは確認されません。この確認は、お客様がディスカバリプロセスを開始すると行われます。

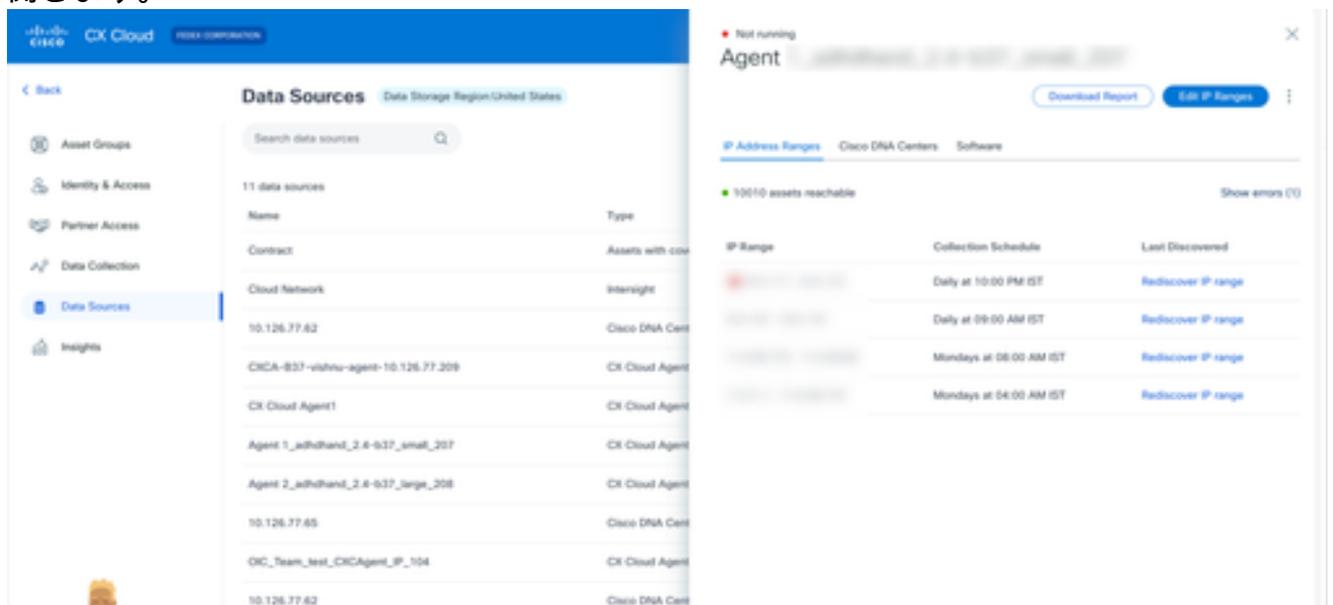
---



## IP範囲の削除

IP範囲を削除するには、次の手順に従います。

1. Data Sourcesウィンドウに移動します。
2. 削除する必要があるIP範囲が指定されたCX Cloud Agentを選択します。詳細ウィンドウが開きます。



データソース

3. Edit IP Rangesをクリックします。Provide Discovery Detailsウィンドウが開きます。

< Back

Added IP Address Ranges (4)

Edit

Edit

Edit

Edit

### Provide Discovery Details

Edit the protocols

Starting IP Address: 5.0.1.71

Ending IP Address: 5.0.1.72

#### SNMP V2c credentials

Read Community

---

#### SSHV2 credentials

Username: cxsuper2020@gmail.com

Enable Username (Optional)

Password: .....

Enable Password (Optional)

---

#### Telnet credentials

Username: cxsuper2020@gmail.com

Enable Username (Optional)

Password: .....

Enable Password (Optional)

Delete this IP range

Add Another IP Range

Complete Setup

ディスカバリの詳細の提供

4. Delete this IP rangeリンクをクリックします。確認メッセージが表示されます。

✕

## Delete This IP Range

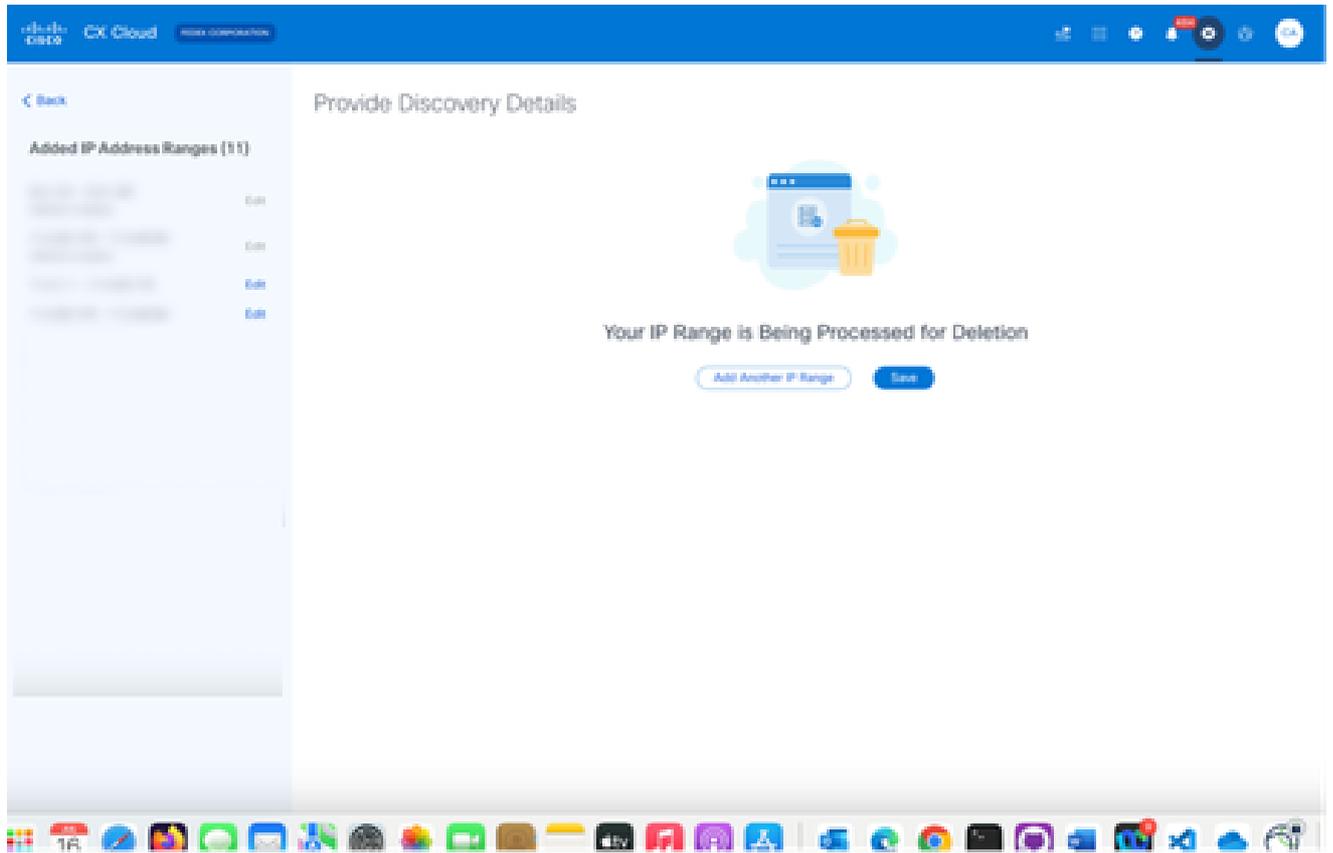
Any edits you've made won't be saved.

Continue Editing

Delete

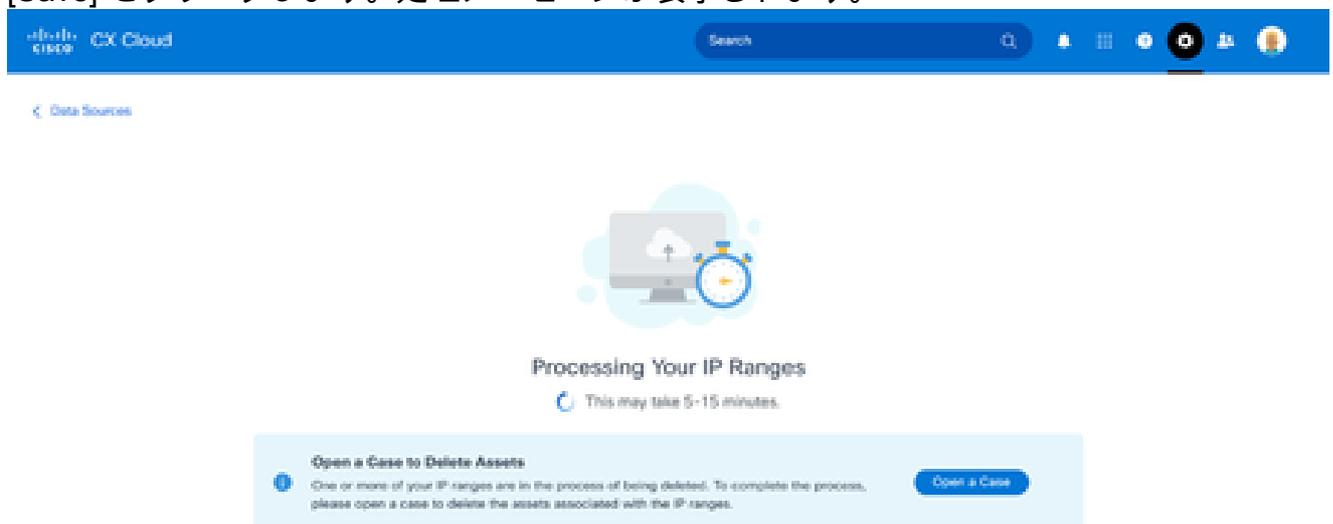
削除の確認メッセージ

5. [Delete] をクリックします。



IP範囲の削除

6. [Save] をクリックします。処理メッセージが表示されます。



7. Open a Caseをクリックしてケースを作成し、IP範囲に関連付けられているアセットを削除します。「データソース」ウィンドウが開き、確認メッセージが表示されます。

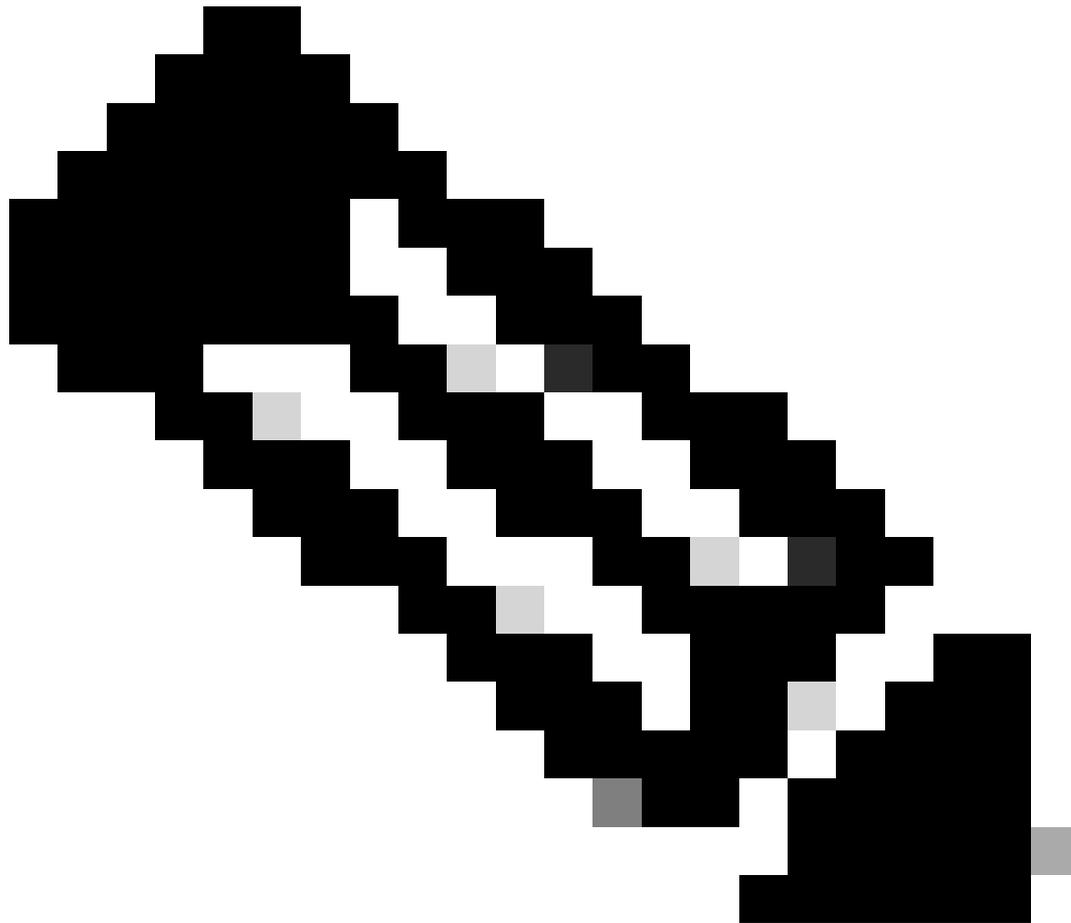
## 複数のコントローラから検出されたデバイスについて

一部のデバイスは、Cisco DNA CenterとCX Cloud Agentへの直接接続の両方で検出され、それらのデバイスから重複データが収集される可能性があります。重複データの収集を避け、1つのコントローラだけでデバイスを管理するには、CX Cloud Agentがデバイスを管理する優先順位を決定する必要があります。

- デバイスが最初にCisco DNA Centerによって検出され、次に直接デバイス接続（シードファイルまたはIP範囲を使用）によって再検出された場合、デバイスの制御ではCisco DNA Centerが優先されます。
- デバイスが最初にCX Cloud Agentへの直接接続によって検出され、次にCisco DNA Centerによって再検出される場合、デバイスの制御ではCisco DNA Centerが優先されます。

## 診断スキャンのスケジュール

お客様は、CX Cloudでオンデマンドの診断スキャンをスケジュールできます。



注：診断スキャンをスケジュールするか、インベントリ収集スケジュールとは少なくとも6～7時間の間隔を空けてオンデマンドスキャンを開始して、重複しないようにすることをお勧めします。複数の診断スキャンを同時に実行すると、スキャンプロセスが遅くなり、スキャンが失敗する可能性があります。

---

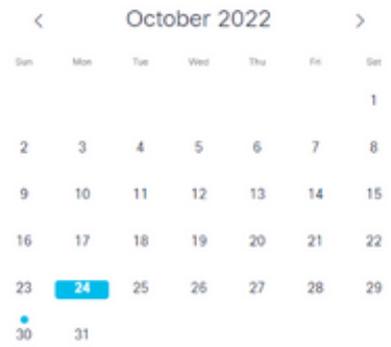
診断スキャンをスケジュールする手順は、次のとおりです。

1. ホームページで設定（歯車）アイコンをクリックします。
2. Data Sourcesページで、左ペインからData Collectionを選択します。
3. Schedule Scanをクリックします。

## Data Collection

Diagnostic Scans ③

Schedule Scan



No Diagnostic Scans Found

Inventory Collection ③

3 Collections

Source	Schedule	
Other assets collected by CX Cloud Agent	Monthly on the 30th at 05:30 PM EDT	⋮
10.197.238.127	Monthly on the 30th at 05:00 PM EDT	⋮
22.1.90.1	Monthly on the 30th at 09:00 PM EDT	⋮

Rapid Problem Resolution

Automate data collection and diagnostics when a support case is opened. This helps Cisco experts diagnose and troubleshoot problems faster.

Enable for Campus Network

データ収集

4. このスキャンのスケジュールを構成します。

### Other assets collected by CX Cloud Agent Inventory Collection Details ×

Schedule History

Weekly  on Sunday  at 12:00 am  EDT

Created: Oct 3, 2022

Save Scheduled Collection

スキャンスケジュールの構成

5. デバイスリストで、スキャンするすべてのデバイスを選択し、Addをクリックします。

## New Scheduled Scan

Data Sources: Other assets collected by CX Cloud Agent

Schedule: Frequency at Time IST Save Changes

Description (Optional)

Device	Source IP	IP Address
<input type="checkbox"/> Device_22_0_2_1	10.127.249.156	22.0.2.1
<input type="checkbox"/> Device_22_0_32_1	10.127.249.156	22.0.32.1
<input type="checkbox"/> Device_22_0_36_1	10.127.249.156	22.0.36.1
<input type="checkbox"/> Device_22_0_41_1	10.127.249.156	22.0.41.1
<input type="checkbox"/> Device_22_0_51_1	10.127.249.156	22.0.51.1
<input type="checkbox"/> Device_22_0_55_1	10.127.249.156	22.0.55.1
<input type="checkbox"/> Device_22_0_61_1	10.127.249.156	22.0.61.1
<input type="checkbox"/> Device_22_0_63_1	10.127.249.156	22.0.63.1
<input type="checkbox"/> Device_22_0_64_1	10.127.249.156	22.0.64.1
<input type="checkbox"/> Device_22_0_70_1	10.127.249.156	22.0.70.1

Add >

< Remove

Device	Source IP	IP Address
Devices are part of selected list		

1 2 Next

### スキャンのスケジュール

6. スケジュールが完了したら、Save Changesをクリックします。

診断スキャンとインベントリ収集のスケジュールは、[データ収集]ページで編集および削除できません。

The screenshot shows the 'Data Collection' page with a sidebar on the left containing navigation icons for Asset Groups, Identity & Access, Partner Access, Data Collection (highlighted), Data Sources, Insights, and Automation. The main content area is divided into two sections: 'Diagnostic Scans' and 'Inventory Collection'.

**Diagnostic Scans**

Asset Count	Source	Schedule
1	10.127.249.152	Not scannable
10	10.127.249.152	Daily at 07:00 PM IST

A 'Schedule Scan' button is visible above the table. A calendar for October 2022 is shown on the right, with a tooltip for the 4th containing 'Edit Schedule' and 'Delete Schedule' options.

**Inventory Collection**

Source	Schedule
Other assets collected by CX Cloud Agent	Daily at 04:00 AM IST
	Daily at 12:30 AM IST
172.20.224.70/live.cisco.com	Monthly on the 9th at 11:30 PM IST
10.127.249.152	Daily at 02:00 AM IST

Below the table, there is a 'Rapid Problem Resolution' section with a toggle for 'Enable for Campus Network' and a link to 'View detailed instructions'.

スケジュールの編集および削除オプションを使用したデータ収集

## CX Cloud Agent VMの中規模および大規模設定へのアップグレード

VMのアップグレード後は、次の操作を実行できません。

- 大規模または中規模の構成から小規模な構成への縮小
- 大規模な構成から中規模な構成への縮小
- 中規模から大規模の構成へのアップグレード

VMをアップグレードする前に、障害発生時のリカバリのためにスナップショットを作成することを推奨します。詳細については、『[CX Cloud VMのバックアップと復元](#)』を参照してください。

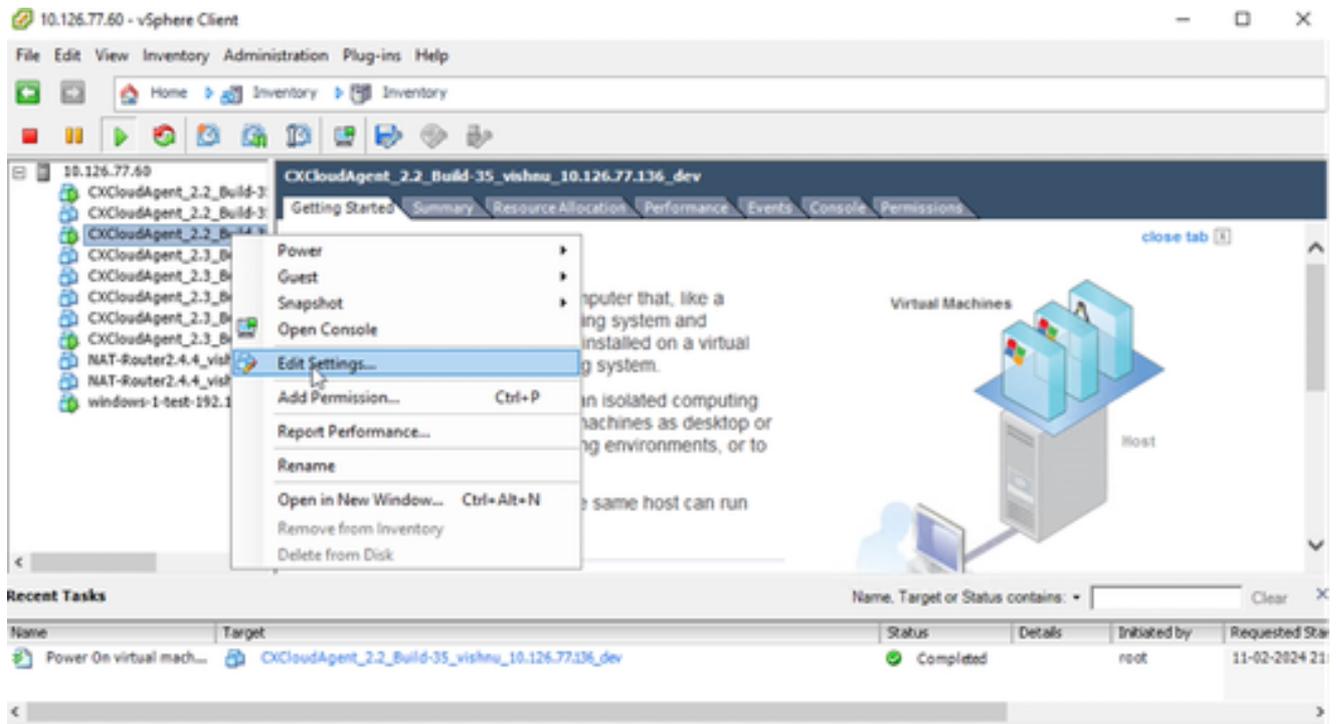
## VMware vSphere Thick Clientを使用した再設定

既存のVMware vSphere Thick Clientを使用してVM設定をアップグレードするには、次の手順を実行します。



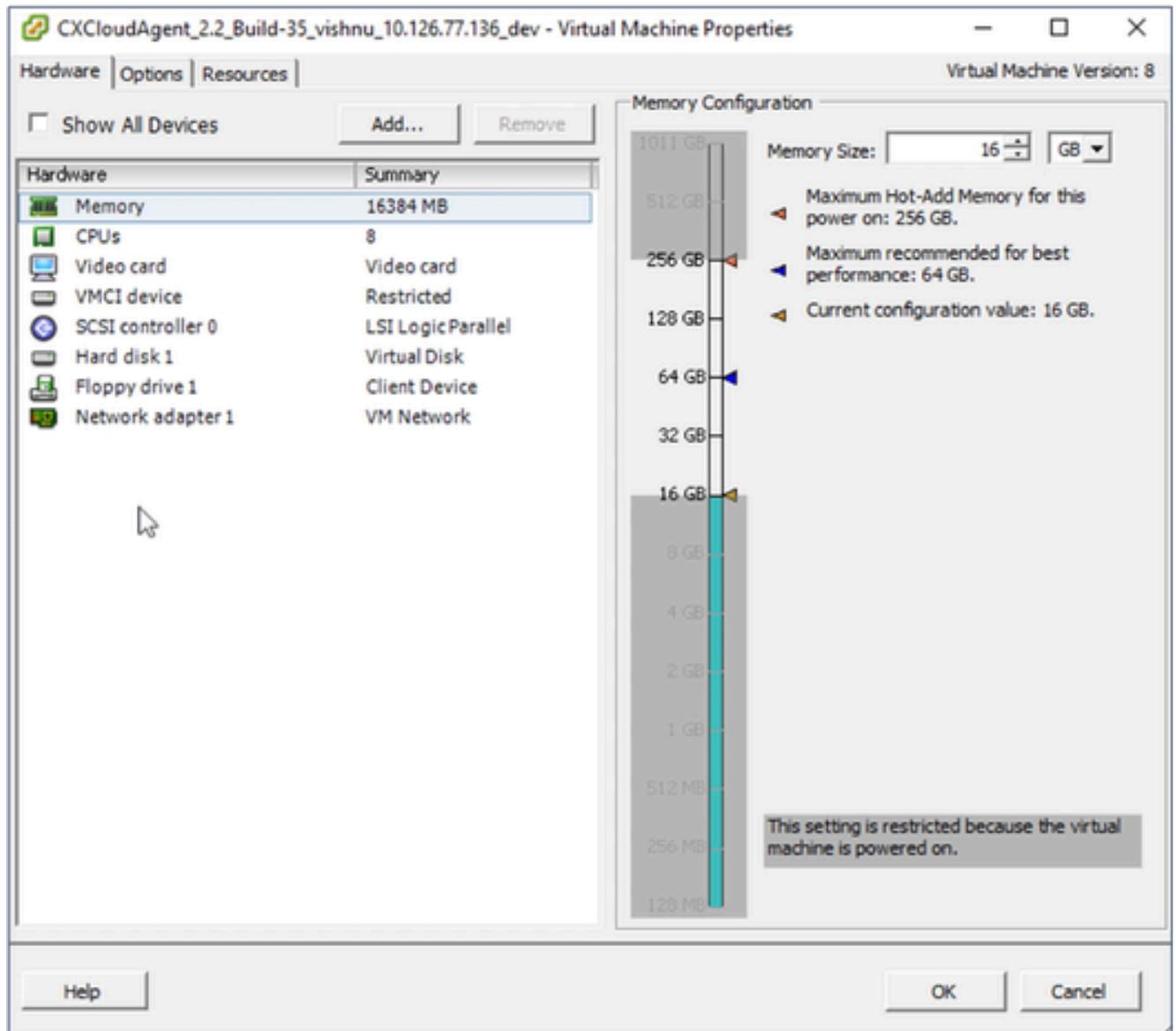
vSphere クライアント

1. VMware vSphere Clientにログインします。ホームページにVMのリストが表示されます。



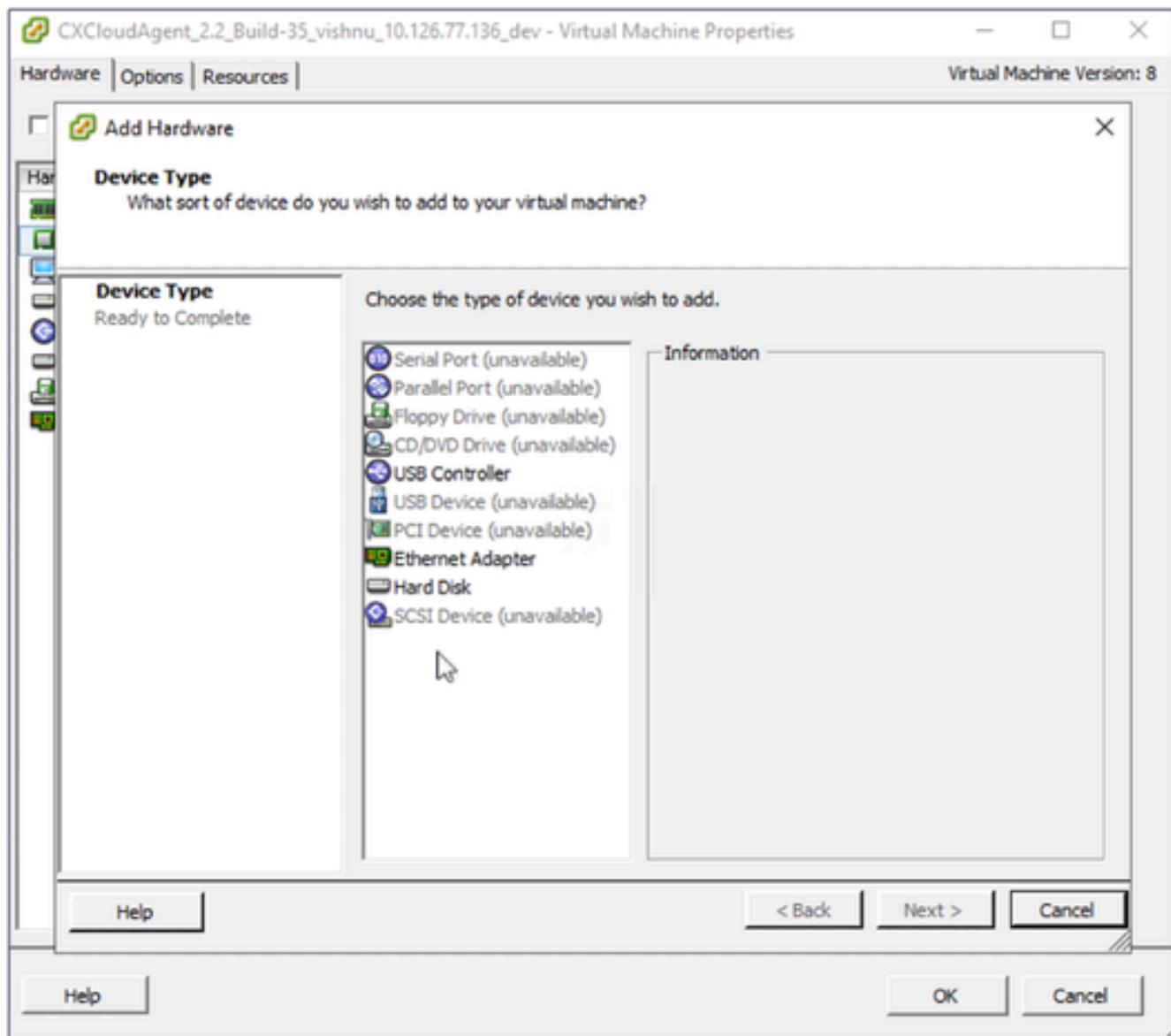
設定の編集

2. ターゲットVMを右クリックし、メニューからEdit Settingsを選択します。VM Propertiesウィンドウが開きます。



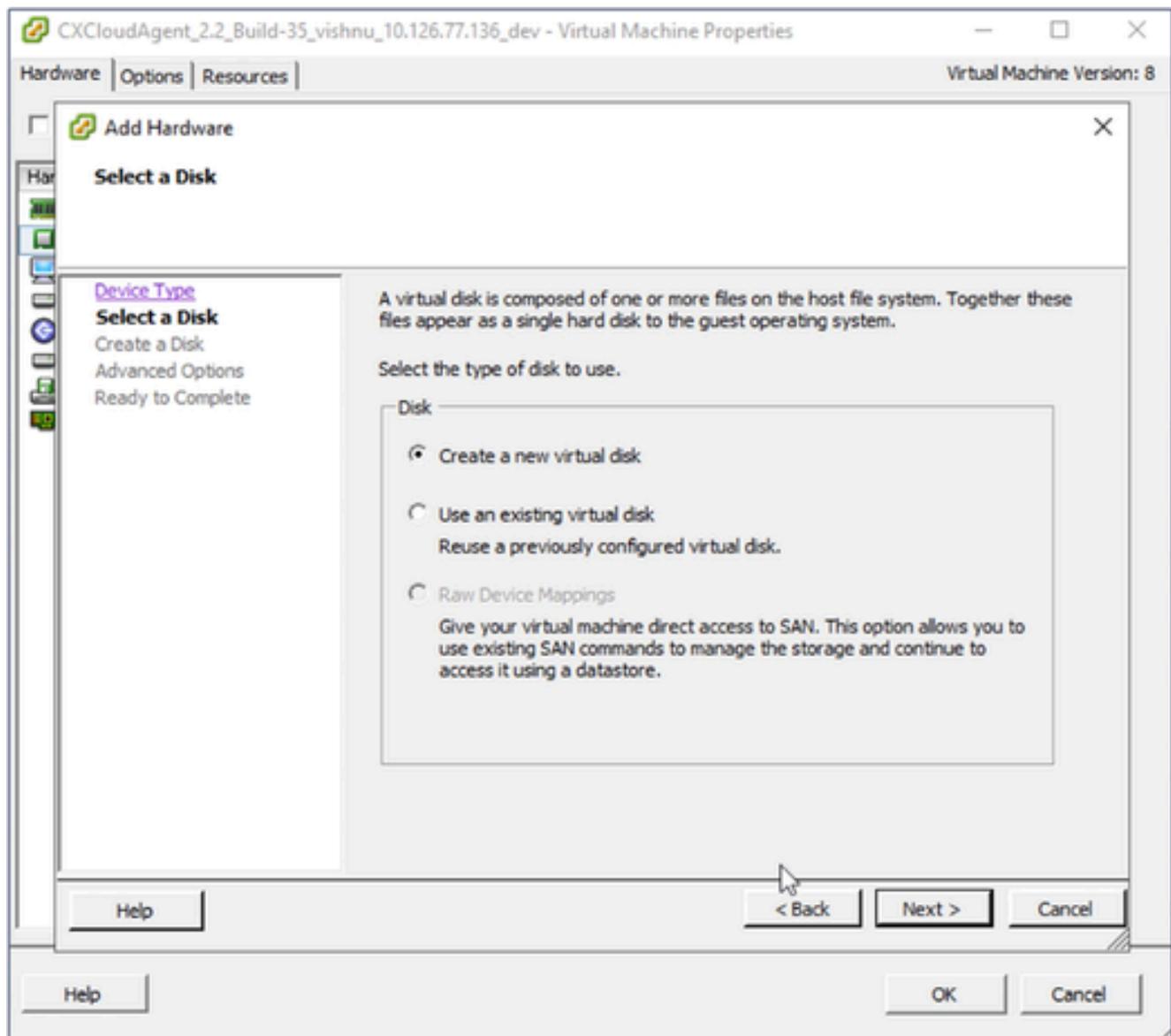
VMのプロパティ

3. Memory Sizeの値を指定に従って更新します。  
中 : 32 GB(32768 MB)  
大 : 64 GB(65536 MB)
4. CPUを選択し、指定に従って値を更新します。  
中 : 16コア ( 8ソケット\*2コア/ソケット )  
大 : 32コア ( 16ソケット\*2コア/ソケット )
5. [Add] をクリックします。Add Hardwareウィンドウが開きます。



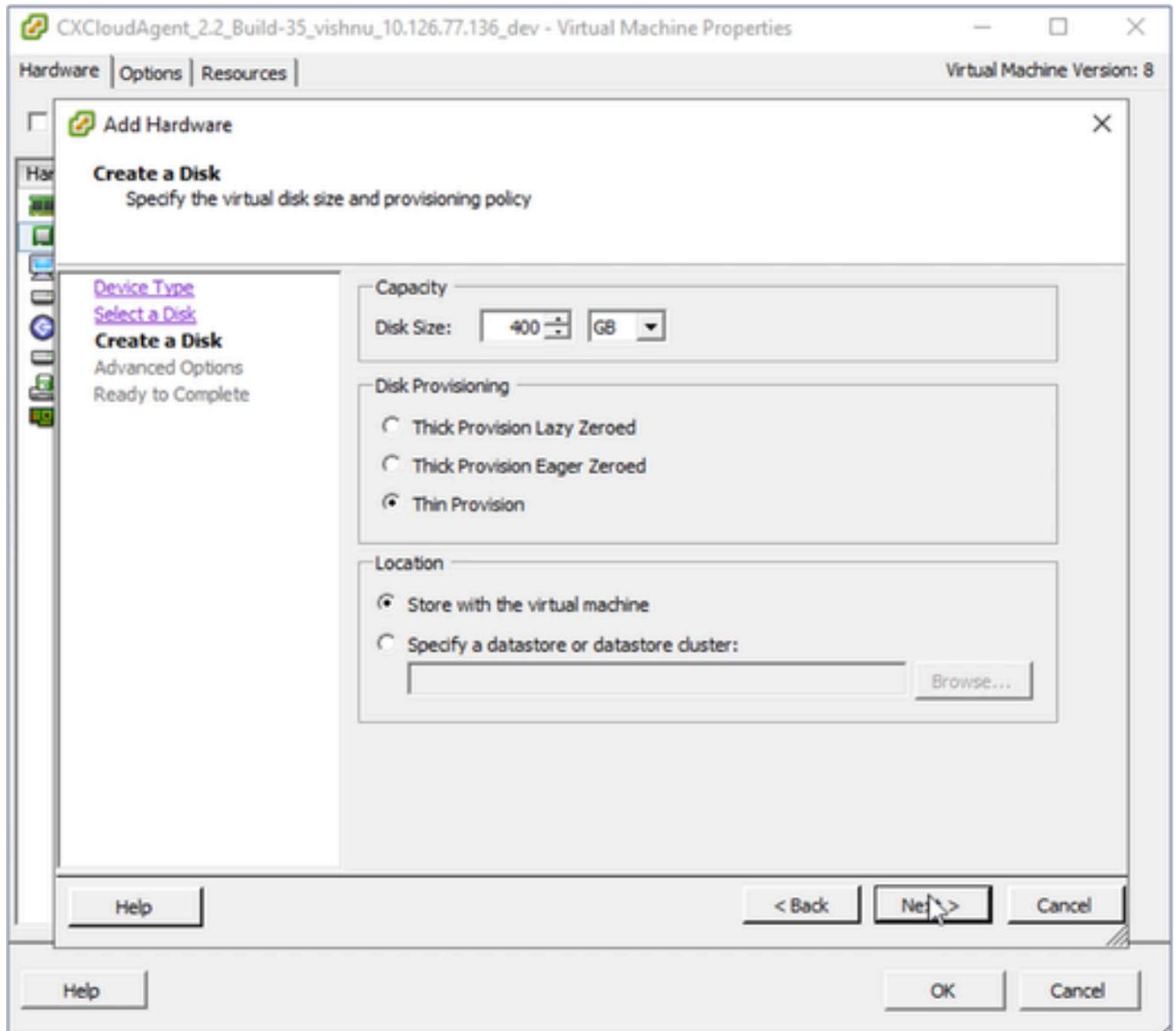
デバイスタイプ

6. Device TypeとしてHard Diskを選択します。
7. [Next] をクリックします。



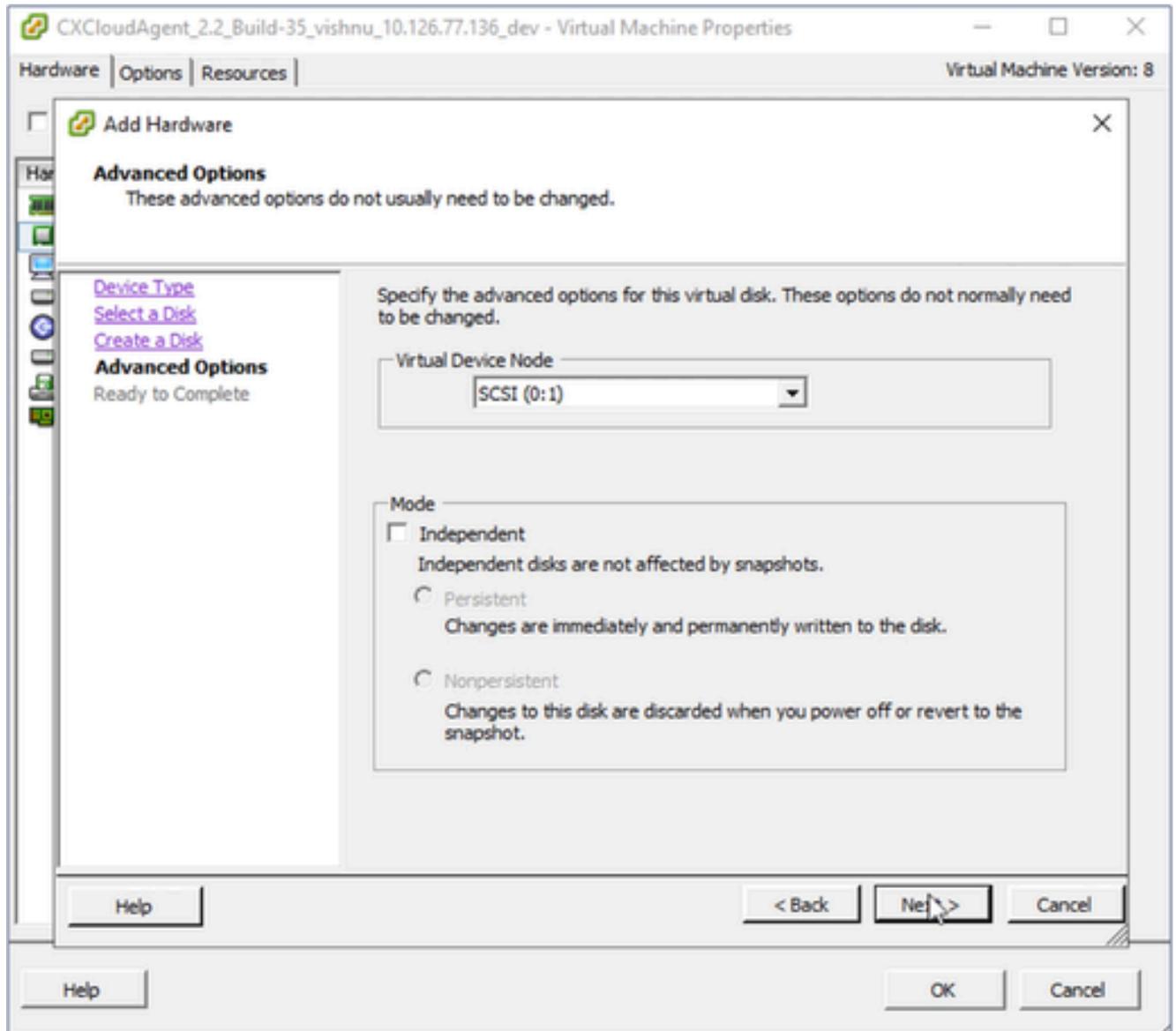
ディスクの選択

8. Create a new virtual diskオプションボタンを選択し、Nextをクリックします。



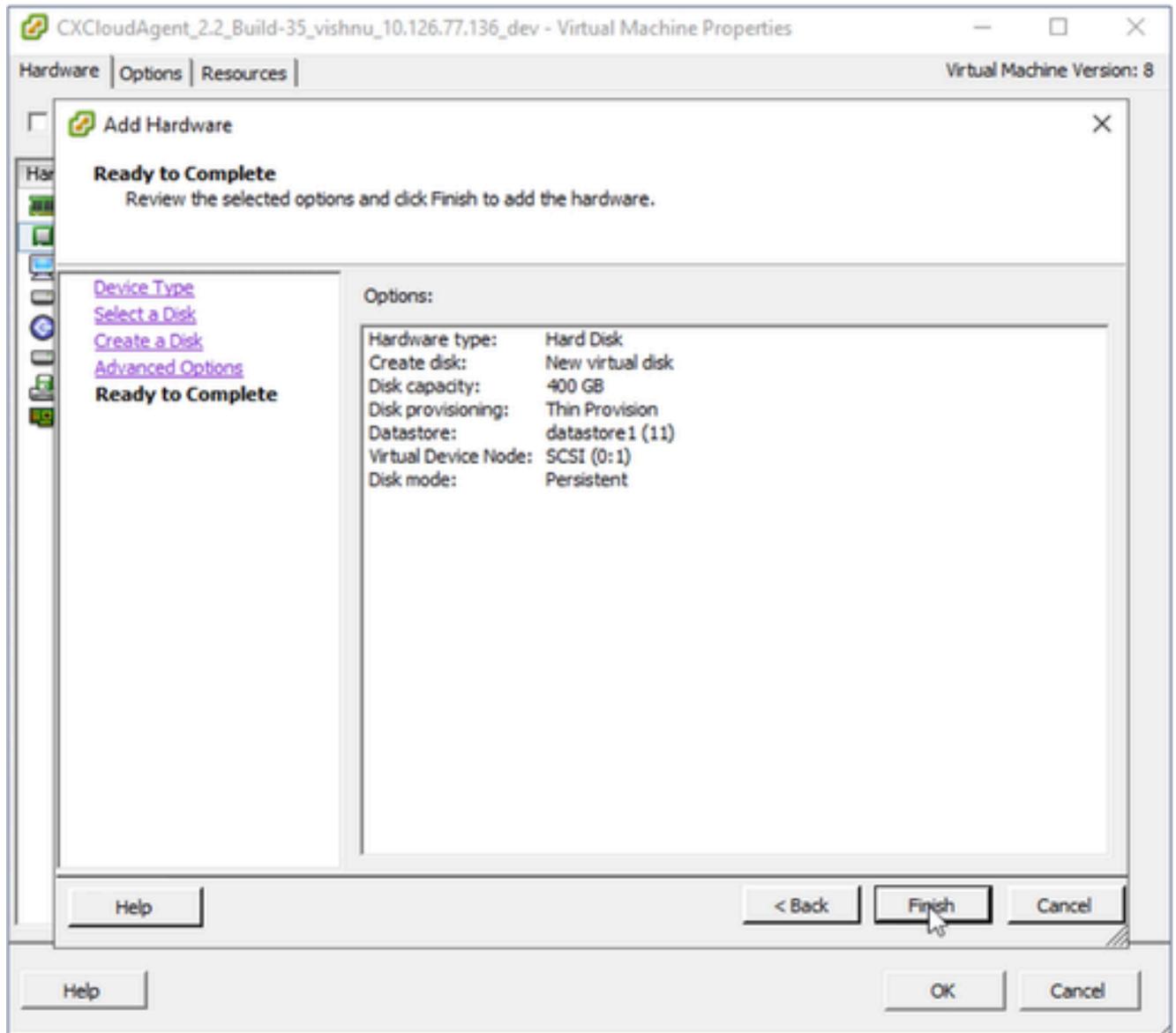
ディスクの作成

9. Capacity > Disk Sizeを指定に従って更新します。  
中小規模：400 GB ( 初期サイズは200 GB、総容量は600 GBまで増加 )  
小規模から大規模まで：1000 GB ( 初期サイズは200 GB、総容量は1200 GBに増加 )
10. Disk ProvisioningのThin Provisionオプションボタンを選択します。
11. [Next] をクリックします。Advanced Optionsウィンドウが表示されます。



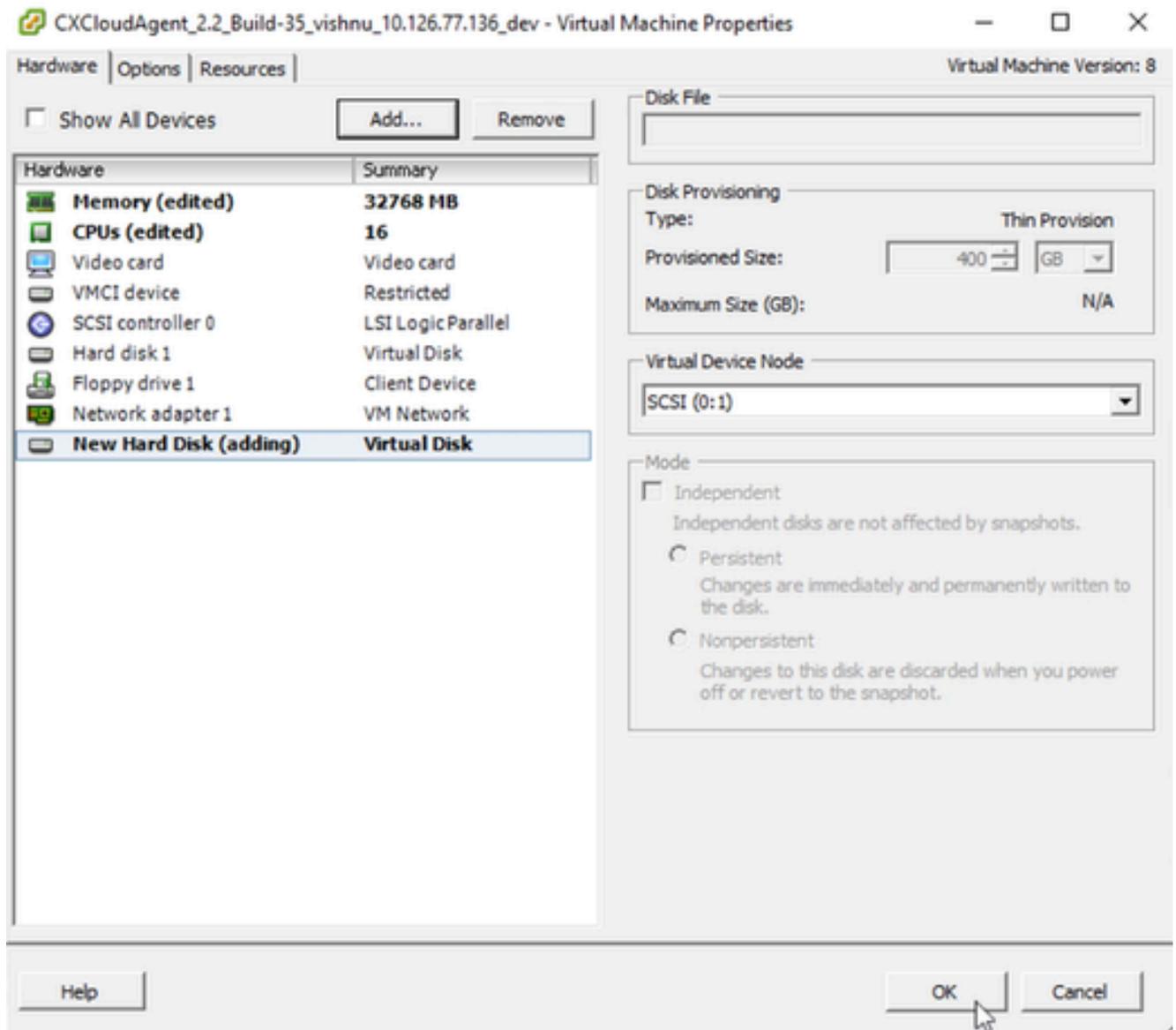
詳細オプション

12. 変更しないでください。[Next] をクリックして次に進みます。



終了準備の完了 ( Ready to Complete )

13. [Finish] をクリックします。



ハードウェア

14. OKをクリックして、再設定を完了します。完了した再設定が[最近のタスク]パネルに表示されます。

10.126.77.60 - vSphere Client

File Edit View Inventory Administration Plug-ins Help

Home Inventory Inventory

10.126.77.60

- CXCloudAgent\_2.2\_Build-3
- CXCloudAgent\_2.2\_Build-3
- CXCloudAgent\_2.2\_Build-3
- CXCloudAgent\_2.3\_Build-7
- CXCloudAgent\_2.3\_Build-7
- CXCloudAgent\_2.3\_Build-7
- CXCloudAgent\_2.3\_Build-7
- CXCloudAgent\_2.3\_Build-7
- NAT-Router2.4.4\_vishnu\_1
- NAT-Router2.4.4\_vishnu\_1
- windows-test-192.168.77

CXCloudAgent\_2.2\_Build-35\_vishnu\_10.126.77.136\_dev

Getting Started Summary Resource Allocation Performance Events Console Permissions

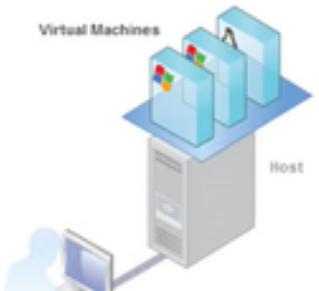
close tab

### What is a Virtual Machine?

A virtual machine is a software computer that, like a physical computer, runs an operating system and applications. An operating system installed on a virtual machine is called a guest operating system.

Because every virtual machine is an isolated computing environment, you can use virtual machines as desktop or workstation environments, as testing environments, or to consolidate server applications.

Virtual machines run on hosts. The same host can run many virtual machines.



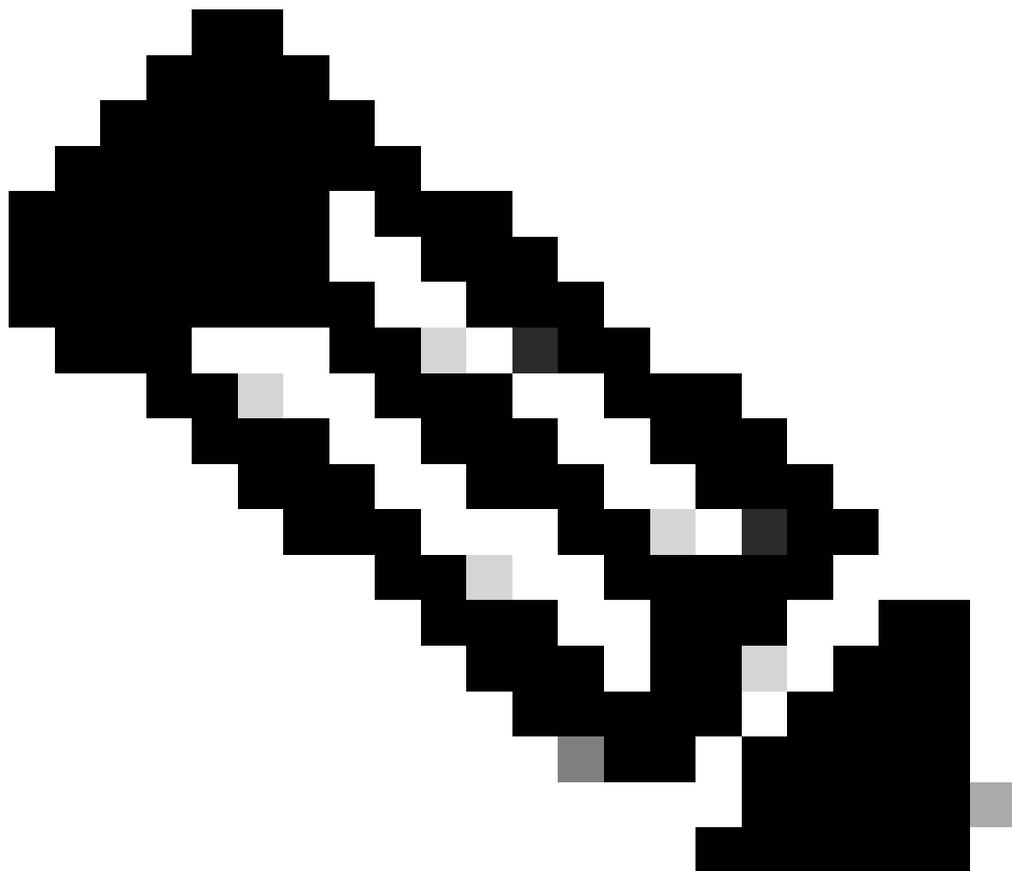
Recent Tasks

Name, Target or Status contains: Clear

Name	Target	Status	Details	Initiated by
Reconfigure virtual machine	CXCloudAgent_2.2_Build-35_vishnu_10.126.77.136_dev	Completed		root
Power On virtual machine	CXCloudAgent_2.2_Build-35_vishnu_10.126.77.136_dev	Completed		root

Tasks root

最近のタスク

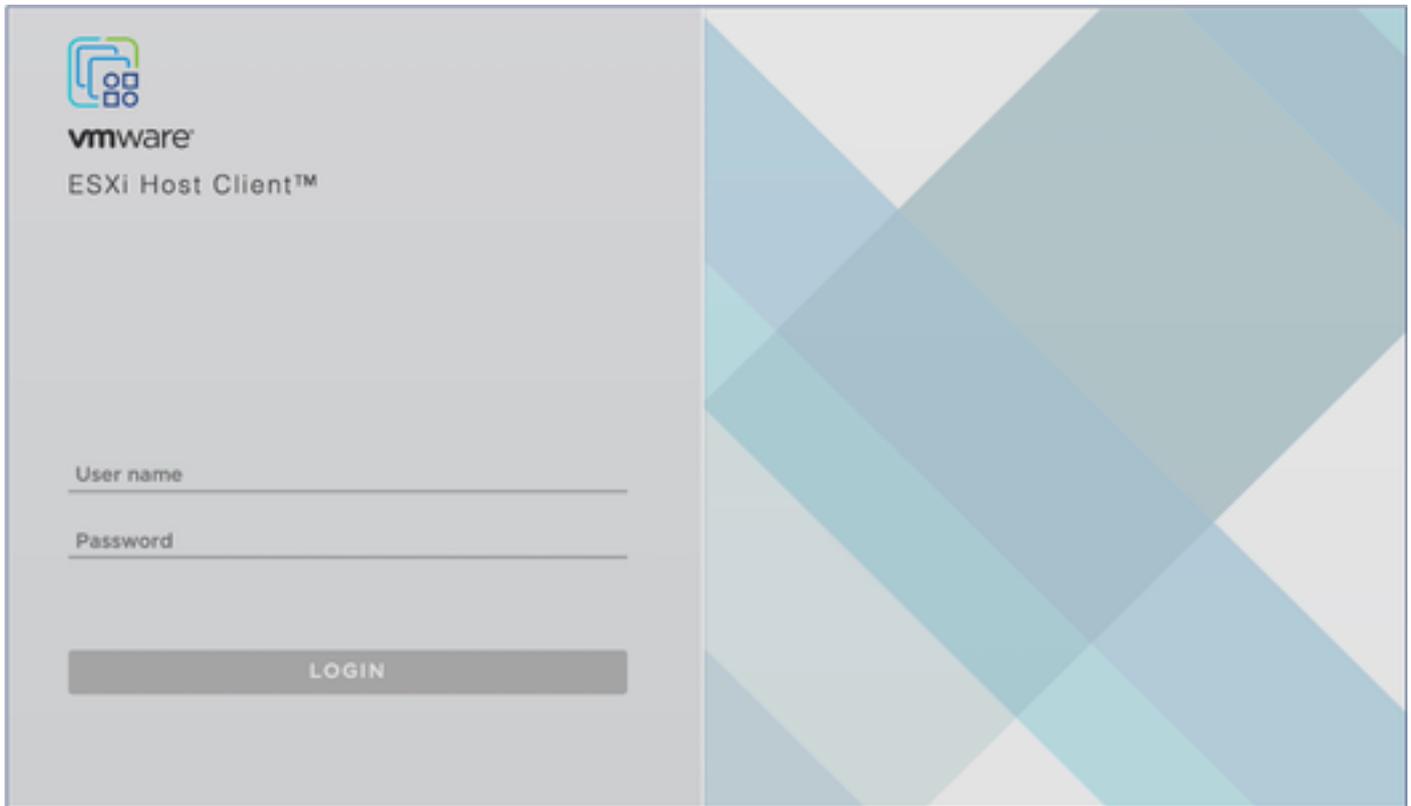


注：設定の変更が完了するまでに約5分かかります。

---

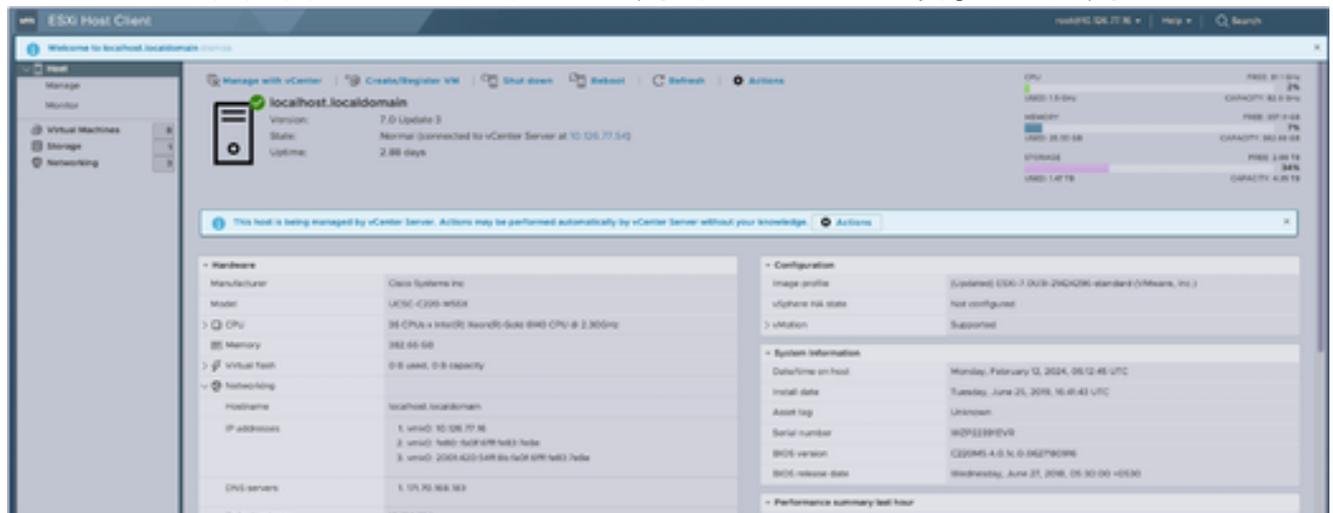
## WebクライアントESXi v6.0を使用した再設定

WebクライアントESXi v6.0を使用してVM構成を更新するには、次の手順を実行します。



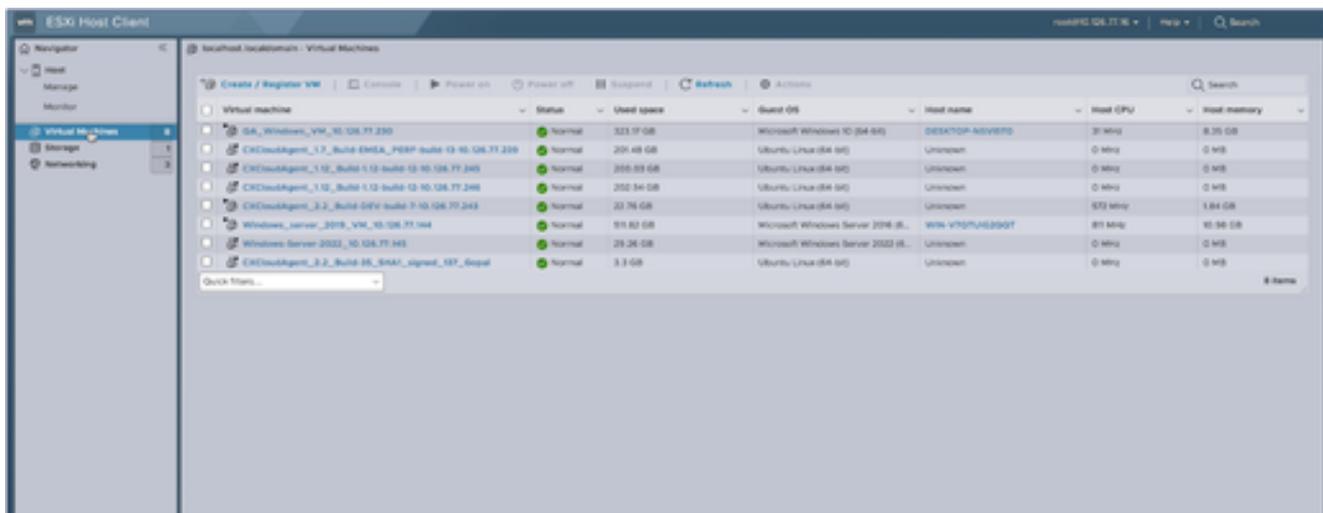
ESXiクライアント

1. VMware ESXiクライアントにログインします。ホームページが表示されます。



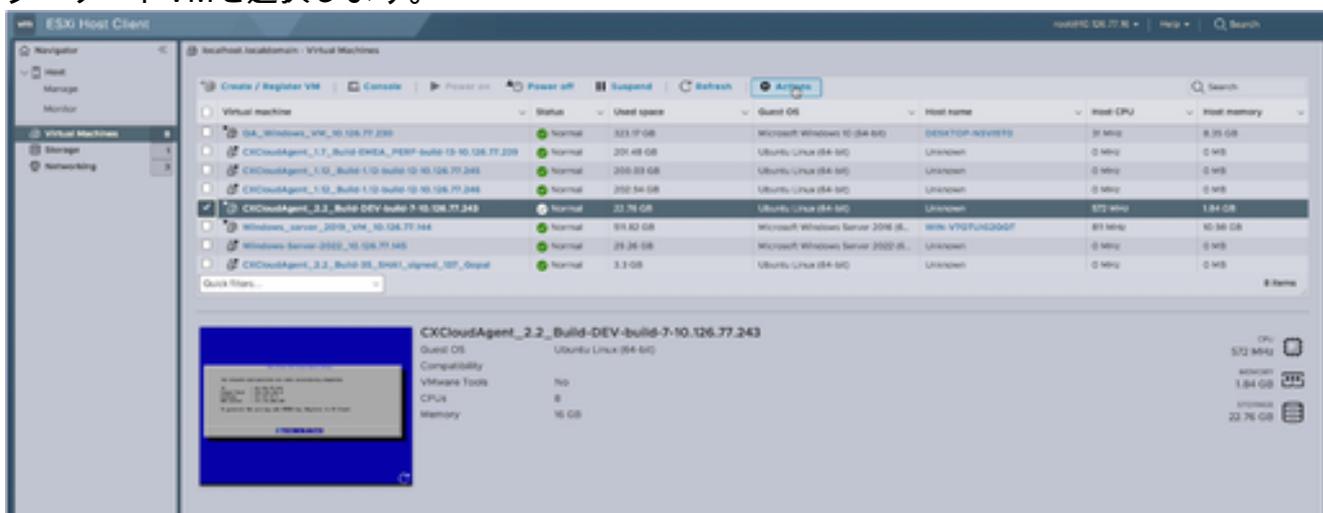
ESXiホームページ

2. Virtual Machineをクリックして、VMのリストを表示します。



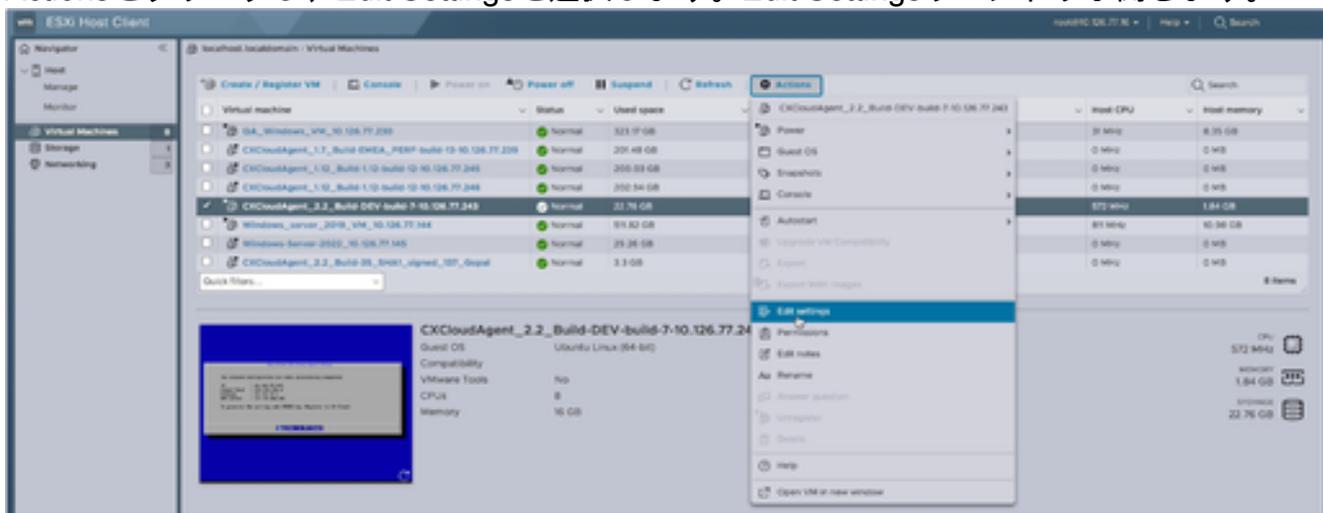
VMのリスト

3. ターゲットVMを選択します。

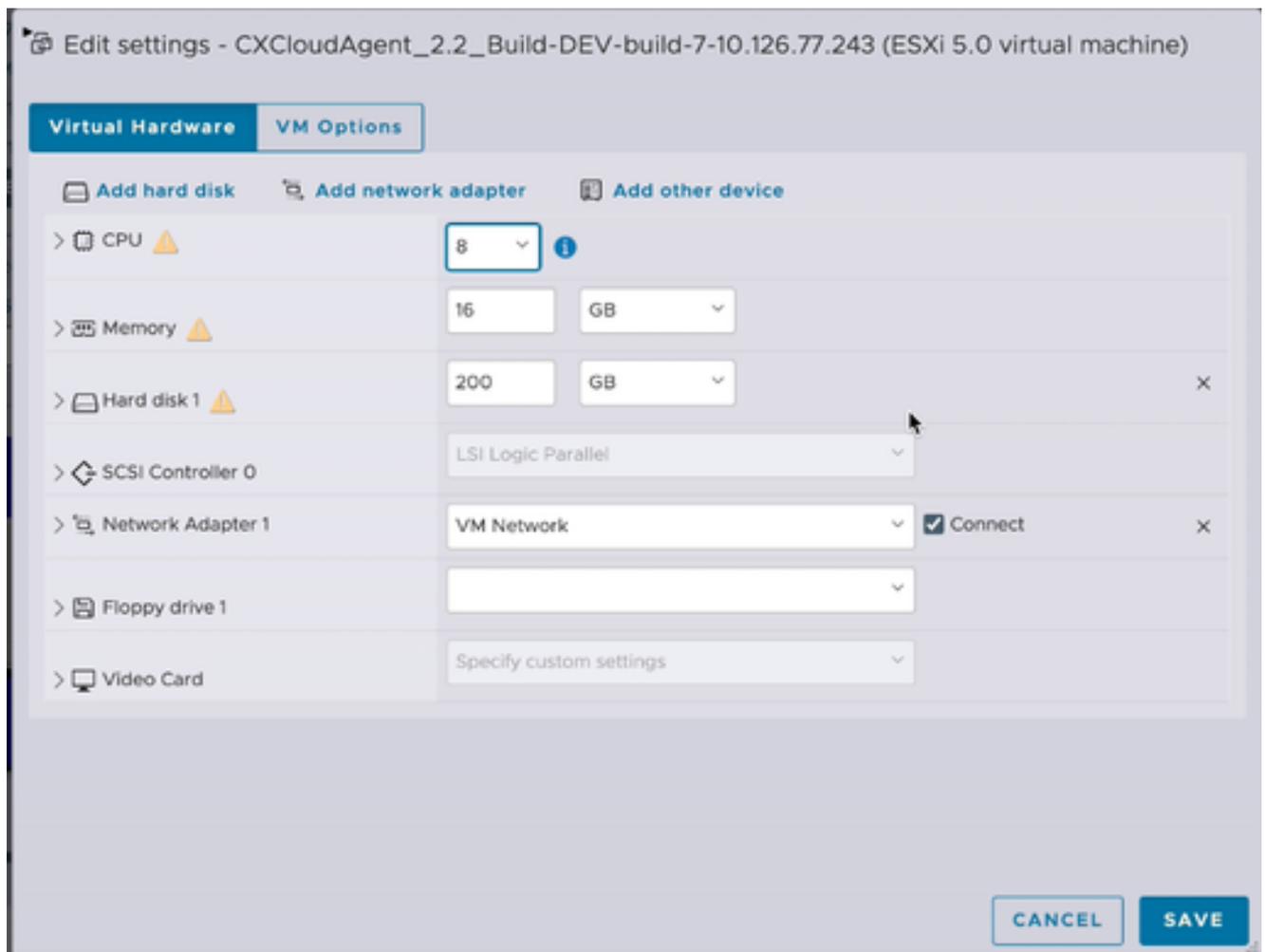


ターゲットVM

4. Actionsをクリックし、Edit Settingsを選択します。Edit Settingsウィンドウが開きます。

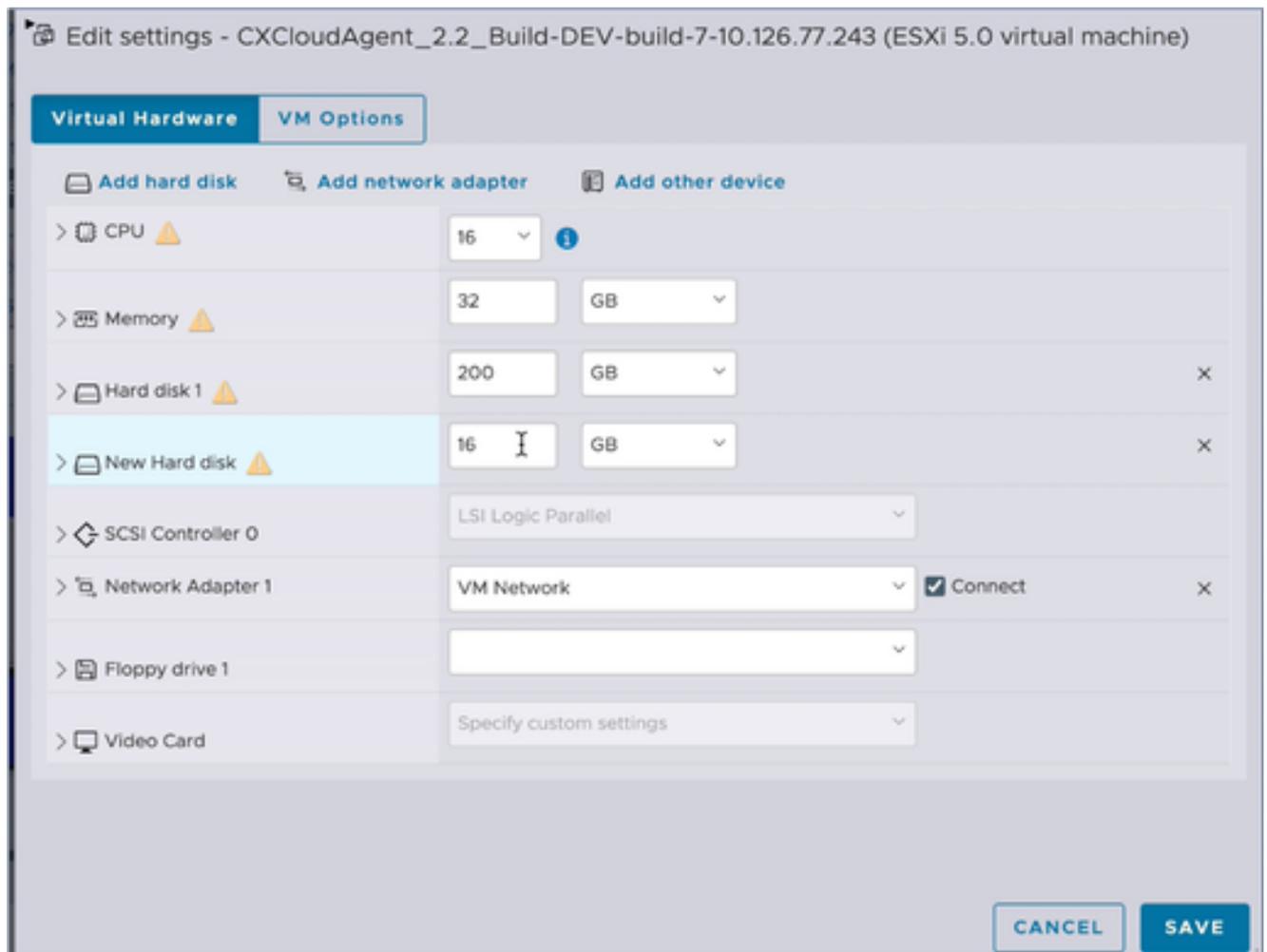


[アクション ( Actions ) ]



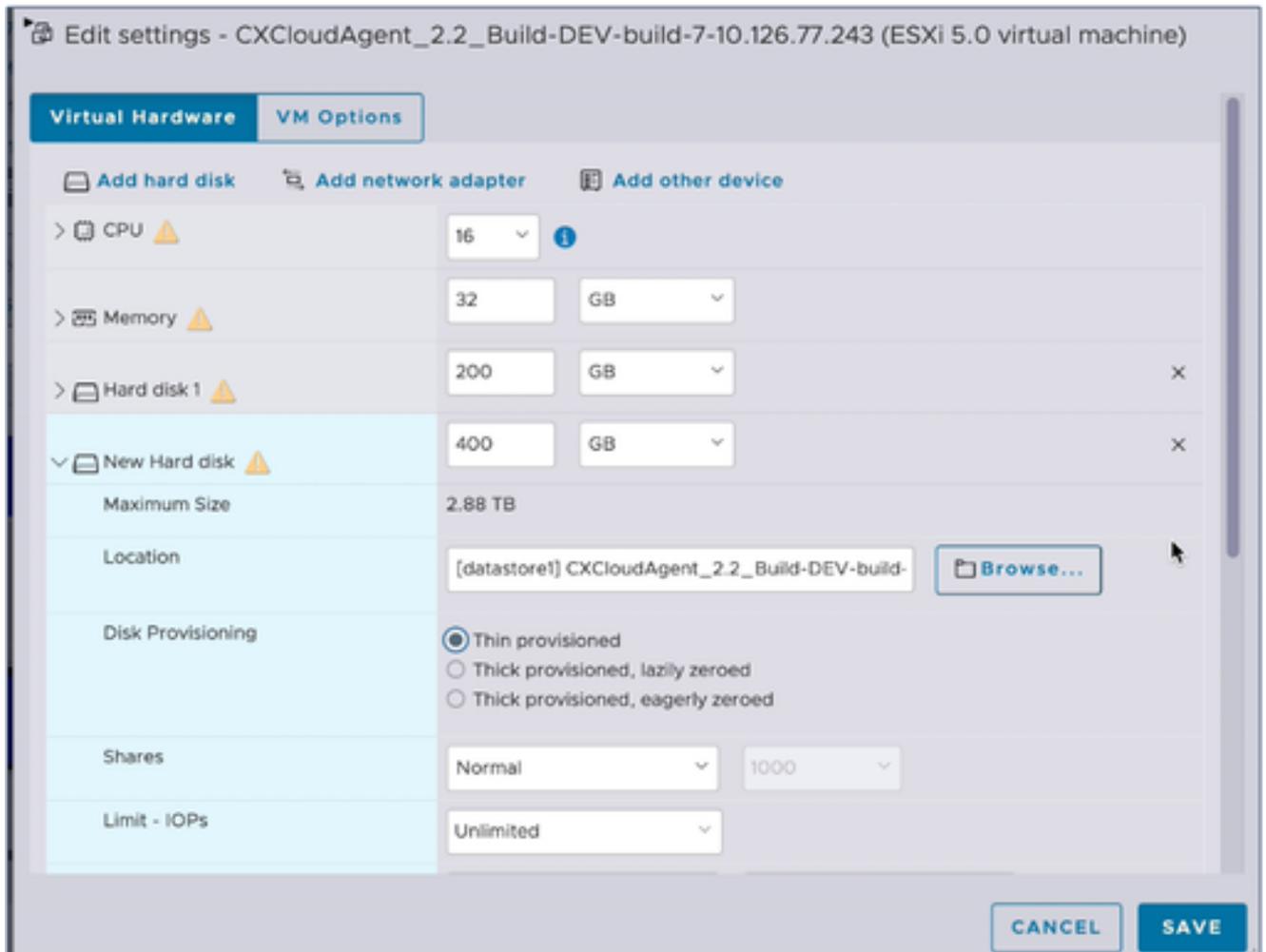
#### 設定の編集

5. 指定に従ってCPU値を更新します。  
中：16コア（8ソケット\*2コア/ソケット）  
大：32コア（16ソケット\*2コア/ソケット）
6. 指定に従ってMemory値を更新します。  
中：32 GB  
大：64 GB
7. Add hard disk > New standard hard diskの順にクリックします。新しいハードディスクエントリがEdit settingsウィンドウに表示されます。



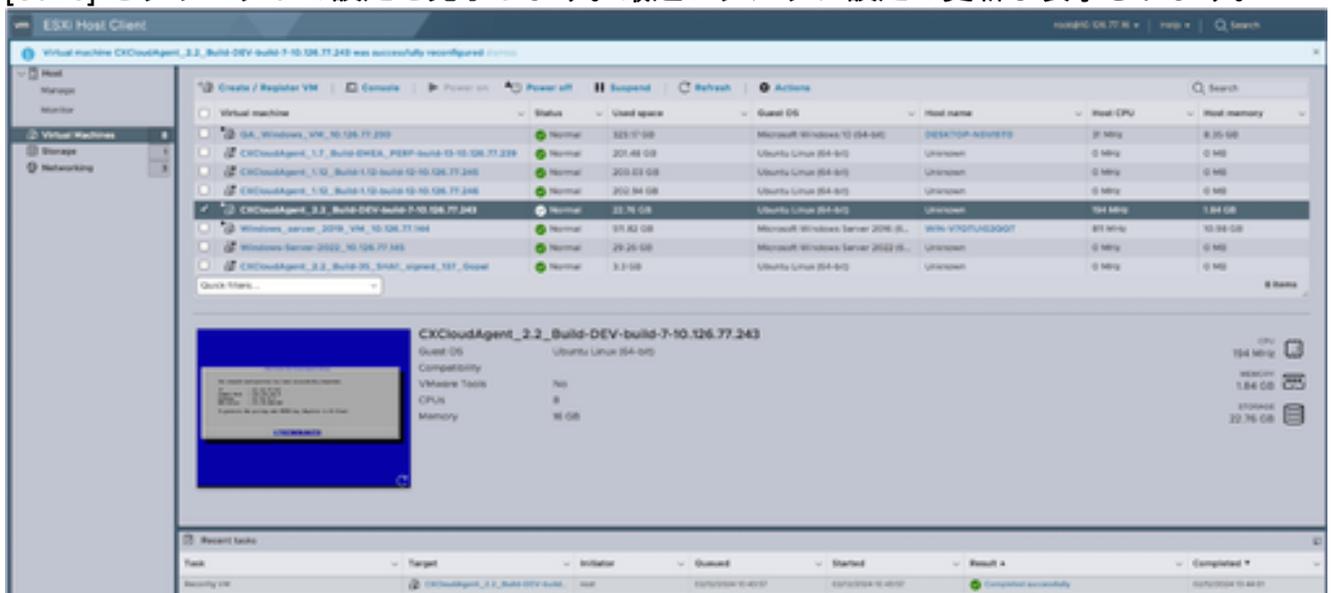
設定の編集

- 指定に従って新しいハードディスクの値を更新します。  
中小規模：400 GB ( 初期サイズは200 GB、総容量は600 GBまで増加 )  
小規模から大規模まで：1000 GB ( 初期サイズは200 GB、総容量は1200 GBに増加 )
- 矢印をクリックしてNew Hard diskを展開します。プロパティが表示されます。



設定の編集

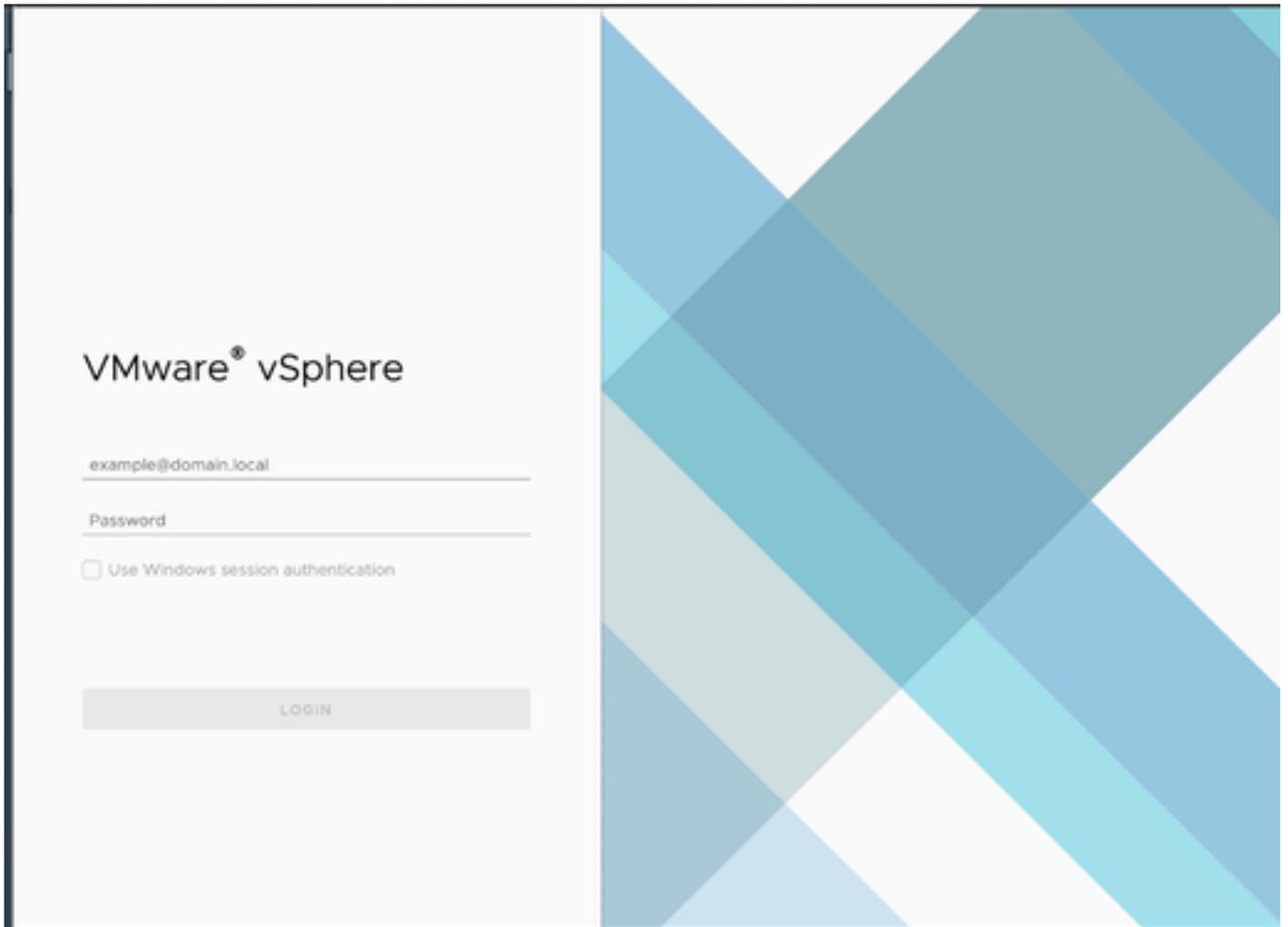
10. シンプロビジョニングオプションボタンを選択します。
11. [Save] をクリックして設定を完了します。最近のタスクに設定の更新が表示されます。



最近のタスク

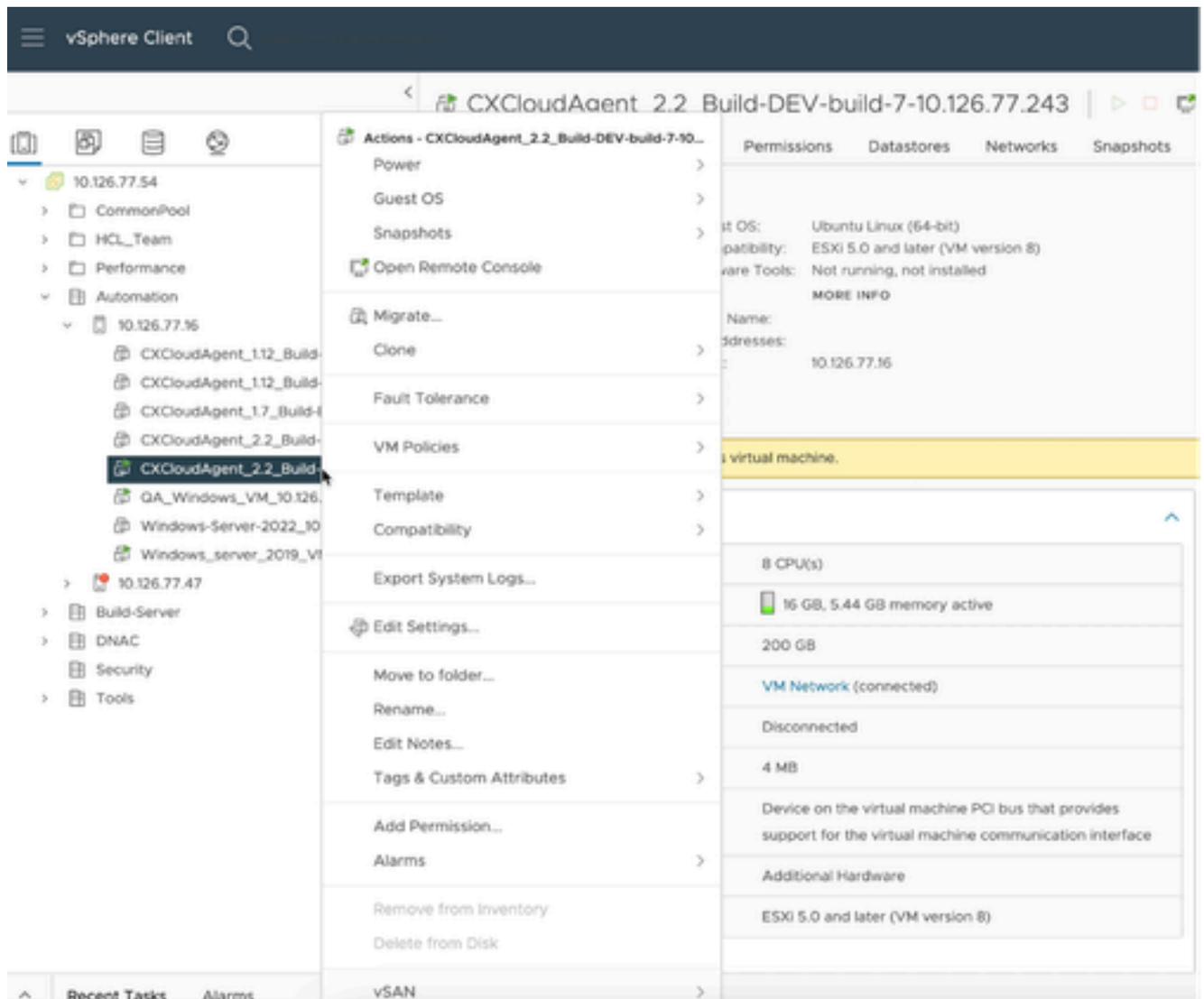
## WebクライアントvCenterを使用した再設定

WebクライアントvCenterを使用してVM設定を更新するには、次の手順を実行します。



vCenter

1. vCenterにログインします。ホームページが表示されます。



VMのリスト

2. ターゲットVMを右クリックし、メニューからEdit Settingsを選択します。Edit Settingsウィンドウが開きます。

> CPU	8 ▾	ⓘ
> Memory	16 ▾	GB ▾
> Hard disk 1 	200	GB ▾
> SCSI controller 0	LSI Logic Parallel	
> Network adapter 1	VM Network ▾	<input checked="" type="checkbox"/> Connected
> Video card	Specify custom settings ▾	
VMCI device		
> Other	Additional Hardware	

CANCEL

OK

## 設定の編集

3. 次のようにCPU値を更新します。

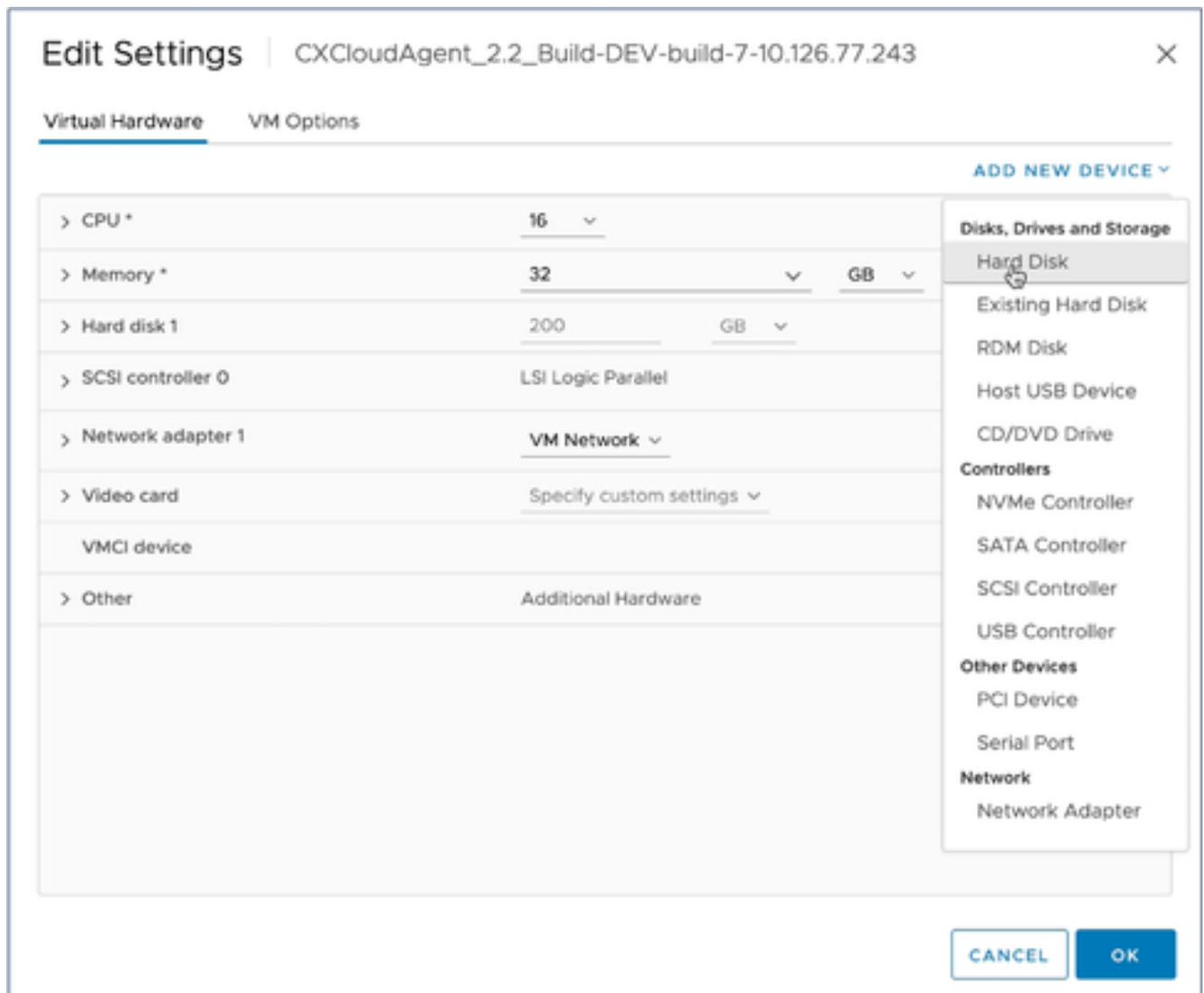
中：16コア（8ソケット\*2コア/ソケット）

大：32コア（16ソケット\*2コア/ソケット）

4. 指定に従ってMemoryの値を更新します。

中：32 GB

大：64 GB



設定の編集

5. Add New Deviceをクリックして、Hard Diskを選択します。「New Hard disk」エントリが追加されます。

**Edit Settings** | CXCloudAgent\_2.2\_Build-DEV-build-7-10.126.77.243
✕

Virtual Hardware
VM Options

[ADD NEW DEVICE ▾](#)

> CPU *	16 ▾	(i)
> Memory *	32 ▾	GB ▾
> Hard disk 1	200	GB ▾
▾ New Hard disk *	16	GB ▾
Maximum Size	3.02 TB	
VM storage policy	Datastore Default ▾	
Location	Store with the virtual machine ▾	
Disk Provisioning	Thick Provision Lazy Zeroed ▾	
Sharing	Unspecified ▾	
Shares	Normal ▾	1000 ▾
Limit - IOPs	Unlimited ▾	
Disk Mode	Dependent ▾	
Virtual Device Node	SCSI controller 0 ▾	SCSI(0:1) New Hard disk ▾
> SCSI controller 0	LSI Logic Parallel	
> Network adapter 1	VM Network ▾	<input checked="" type="checkbox"/> Connected

CANCEL
OK

設定の編集

6. 指定に従って新しいハードディスクメモリを更新:
- 中小規模：400 GB ( 初期サイズは200 GB、総容量は600 GBまで増加 )
  - 小規模から大規模まで：1000 GB ( 初期サイズは200 GB、総容量は1200 GBに増加 )

> CPU *	16 ▾	ⓘ
> Memory *	32 ▾	GB ▾
> Hard disk 1	200	GB ▾
▾ New Hard disk *	400	GB ▾
Maximum Size	3.02 TB	
VM storage policy	Datastore Default ▾	
Location	Store with the virtual machine ▾	
Disk Provisioning	Thin Provision ▾	
Sharing	Unspecified ▾	
Shares	Normal ▾	1000 ▾
Limit - IOPs	Unlimited ▾	
Disk Mode	Dependent ▾	
Virtual Device Node	SCSI controller 0 ▾	SCSI(0:1) New Hard disk ▾
> SCSI controller 0	LSI Logic Parallel	
> Network adapter 1	VM Network ▾	🟢 Connected

CANCEL

OK

設定の編集

7. Disk Provisioning ドロップダウンリストから Thin Provision を選択します。
8. OK をクリックして、アップグレードを完了します。

## 導入とネットワーク設定

CX Cloud Agent を導入するには、次のいずれかのオプションを選択します。

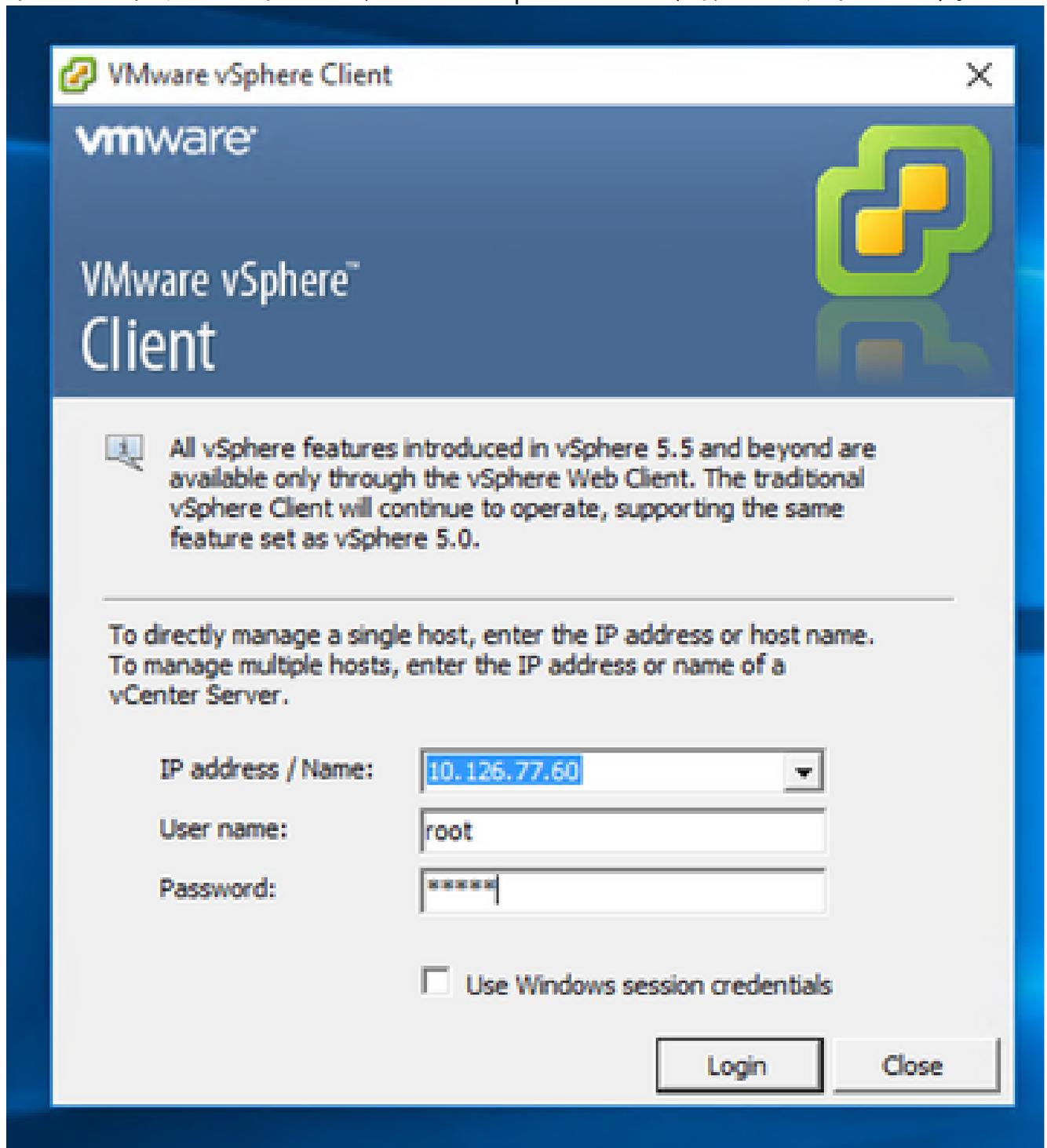
- VMware vSphere/vCenter Thick Client ESXi 5.5/6.0 を選択するには、[Thick Client](#) に移動します。
- VMware vSphere/vCenter Web Client ESXi 6.0 を選択するには、[Web Client](#) または [vSphere Center](#) に移動します。
- Oracle Virtual Box 5.2.30 を選択するには、[Oracle VM](#) に移動します。
- Microsoft Hyper-V を選択するには、[Hyper-V](#)

## OVA の導入

## シッククライアント ESXi 5.5/6.0 のインストール

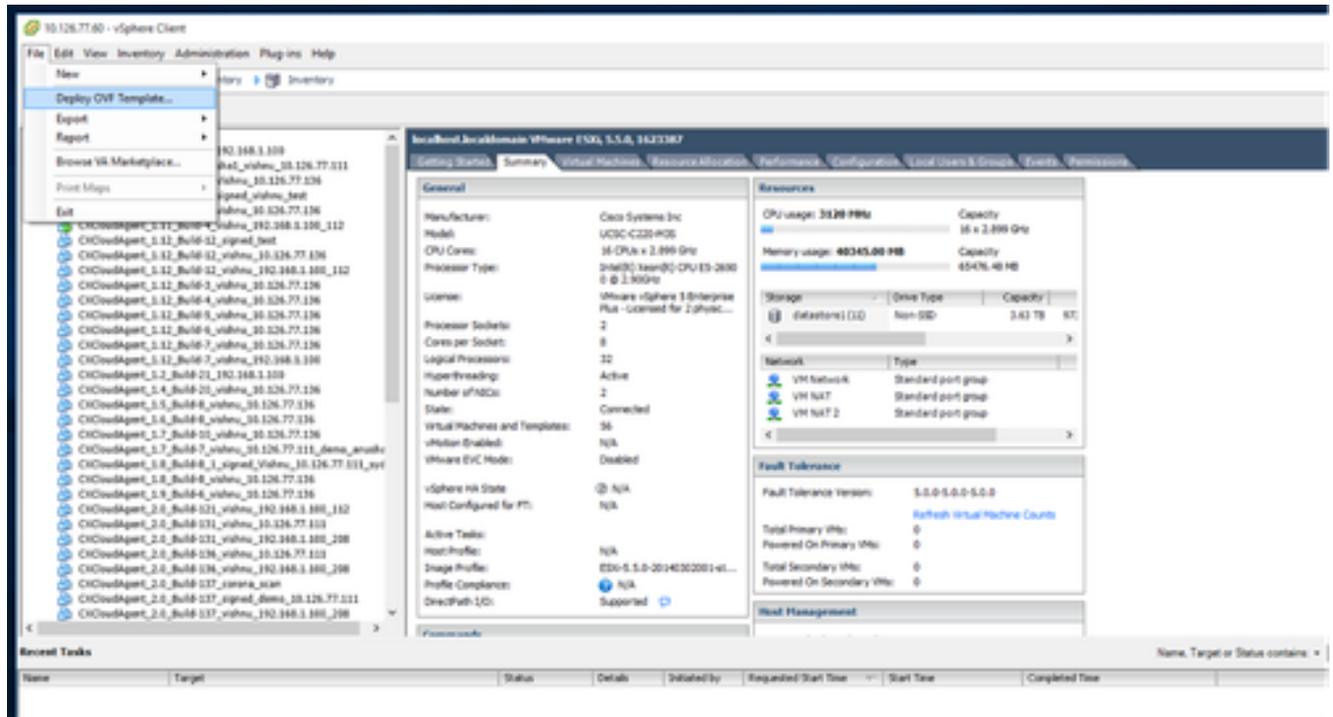
このクライアントでは、vSphereシッククライアントを使用してCX Cloud Agent OVAを導入できません。

1. イメージをダウンロードしたら、VMware vSphere Clientを起動してログインします。



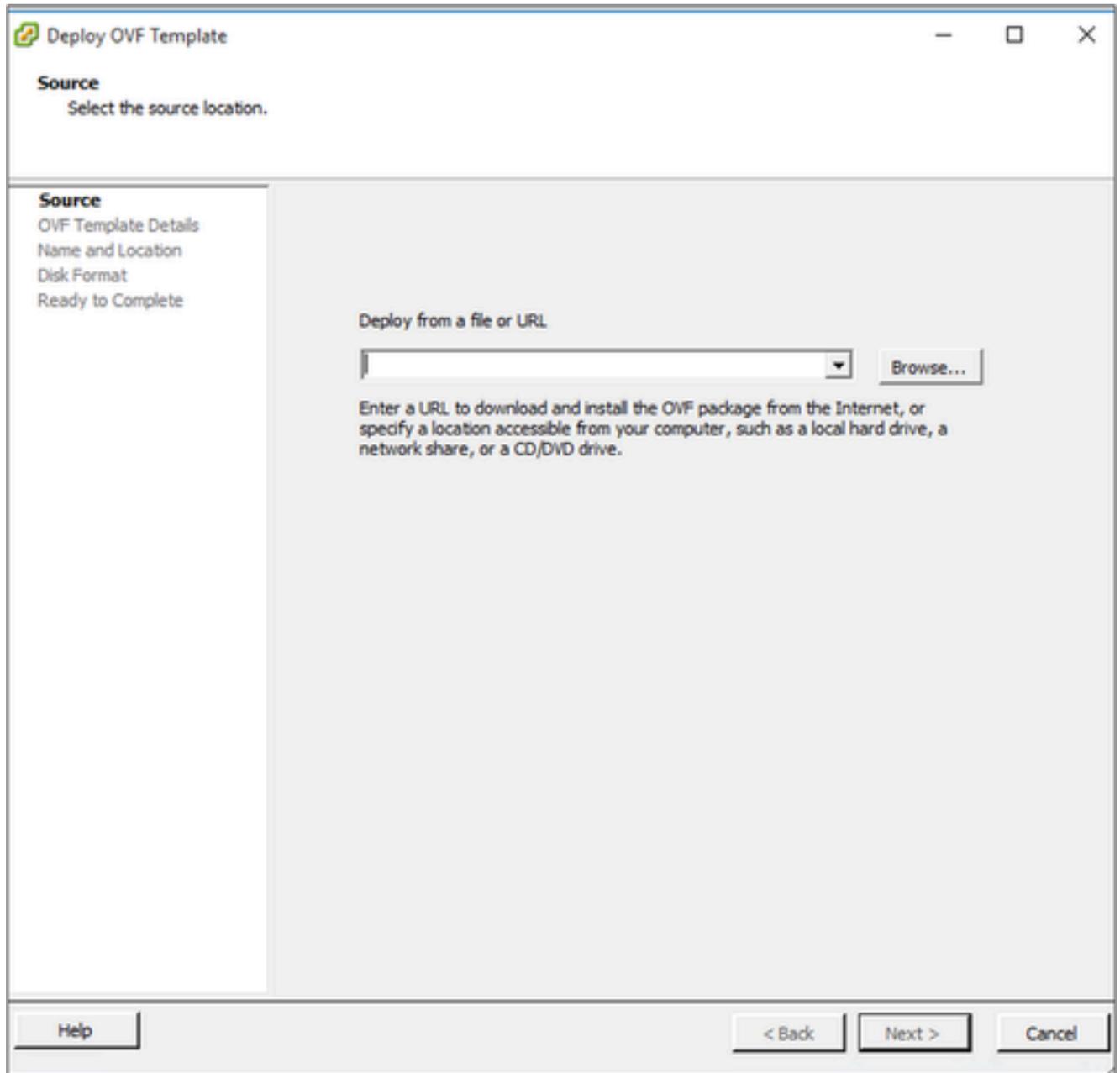
ログイン

2. メニューから、File > Deploy OVF Templateの順に選択します。



vSphere クライアント

3. OVAファイルを参照して選択し、Nextをクリックします。



OVA パス

4. OVF Detailsを確認し、Nextをクリックします。

**OVF Template Details**

Verify OVF template details.

**SOURCE**  
**OVF Template Details**  
Name and Location  
Disk Format  
Network Mapping  
Ready to Complete

Product:	CXCloudAgent_2.0_Build-144
Version:	2.0
Vendor:	Cisco Systems, Inc
Publisher:	<input checked="" type="checkbox"/> CISCO SYSTEMS, INC.
Download size:	1.1 GB
Size on disk:	3.1 GB (thin provisioned) 200.0 GB (thick provisioned)
Description:	CXCloudAgent_2.0_Build-144

Help      < Back      Next >      Cancel

テンプレートの詳細

5. 一意の名前を入力して、Nextをクリックします。

**Name and Location**

Specify a name and location for the deployed template

[Source](#)  
[OVF Template Details](#)  
**Name and Location**  
Disk Format  
Network Mapping  
Ready to Complete

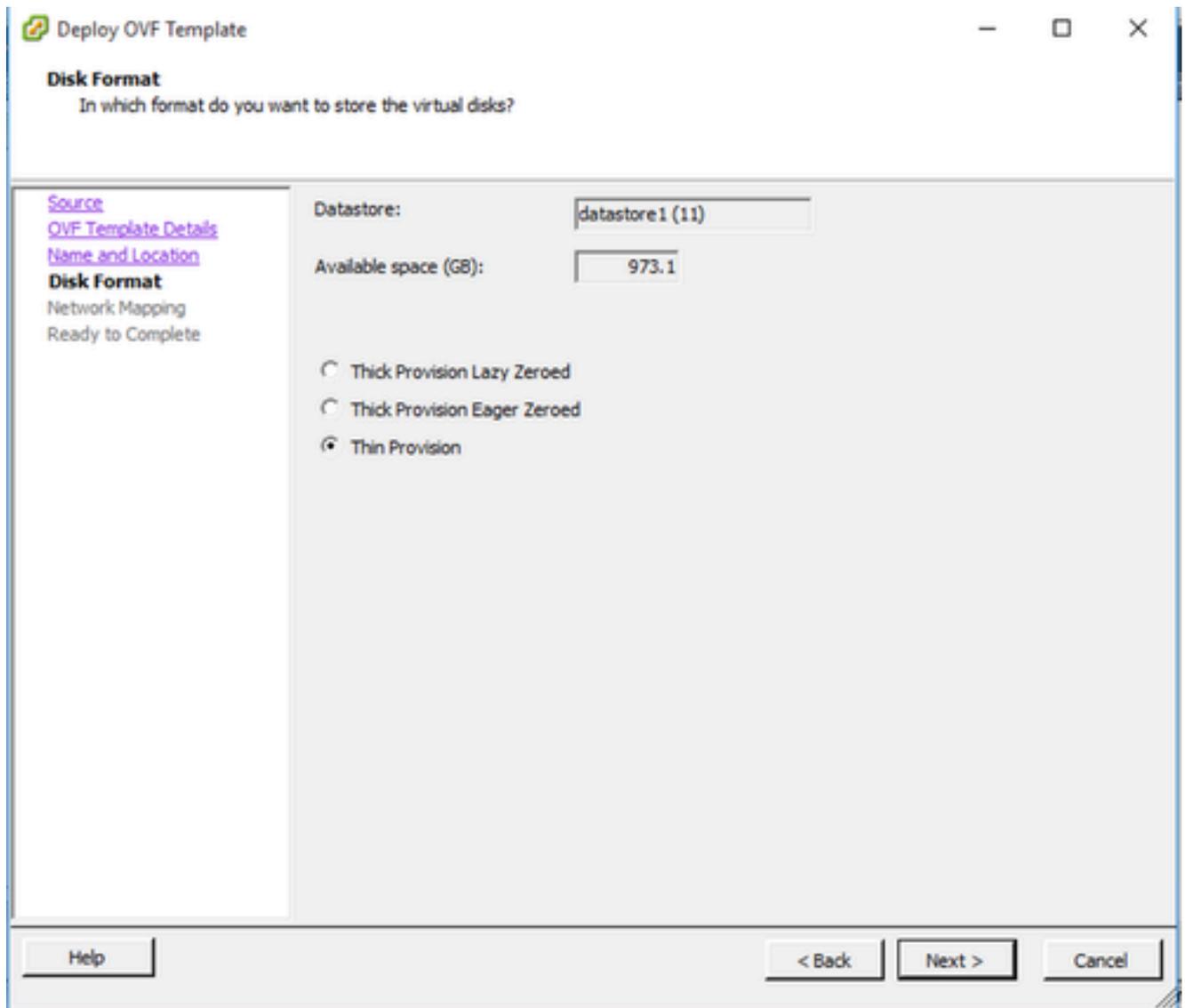
Name:  
CXCloudAgent\_2.0\_Build-144\_DEMO

The name can contain up to 80 characters and it must be unique within the inventory folder.

Help < Back Next > Cancel

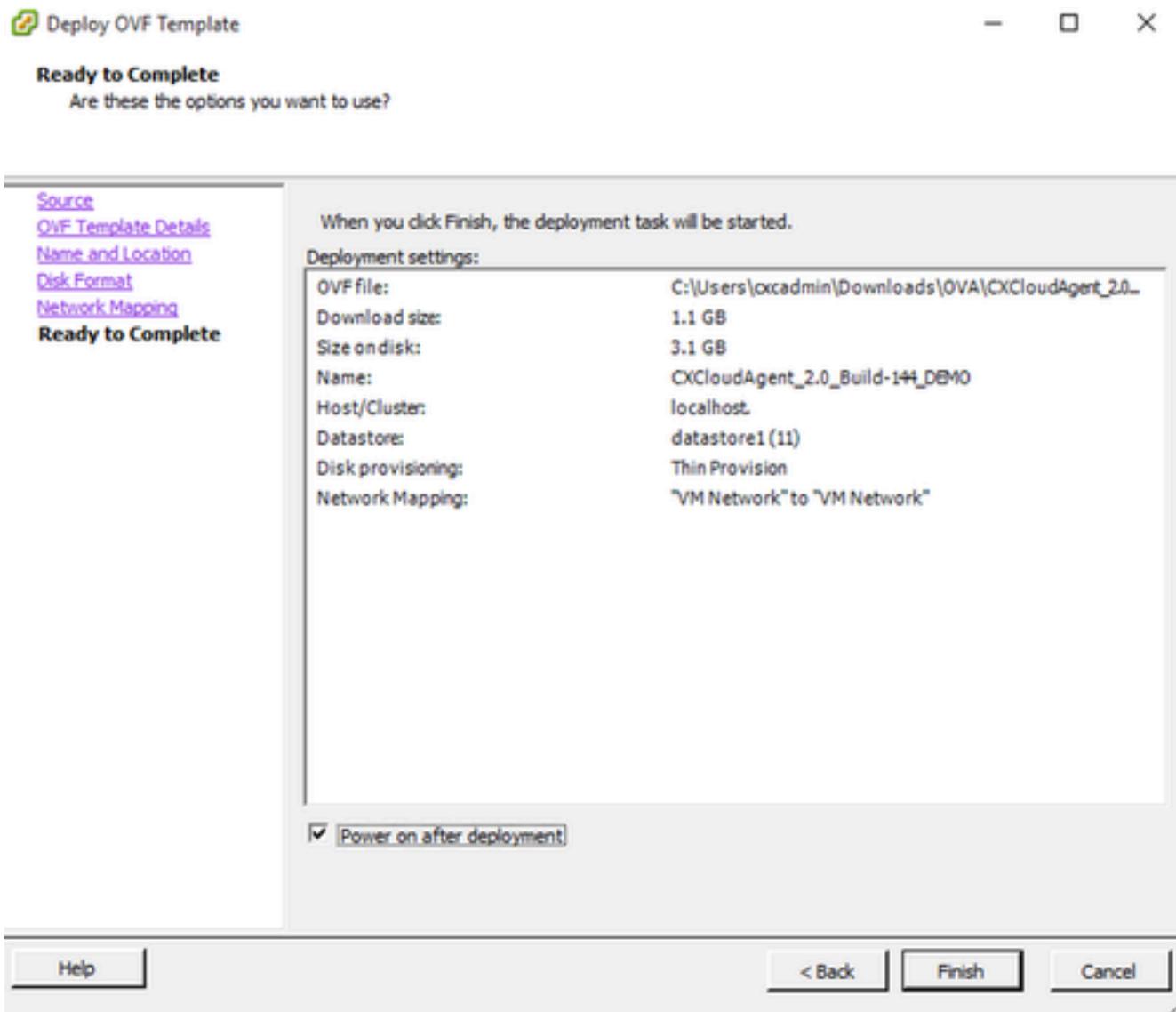
名前と場所

6. Disk Formatを選択し、Nextをクリックします（Thin Provisionを推奨）。



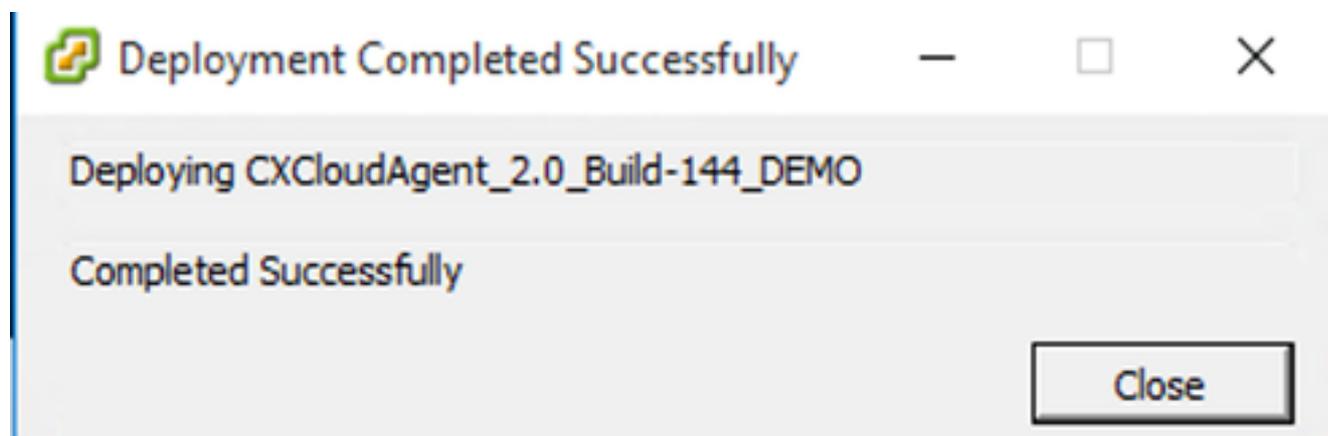
ディスクの書式設定

7. Power on after deployment チェックボックスを選択して、Closeをクリックします。



終了準備の完了 ( Ready to Complete )

導入には数分かかる場合があります。展開が成功すると、確認の表示が行われます。



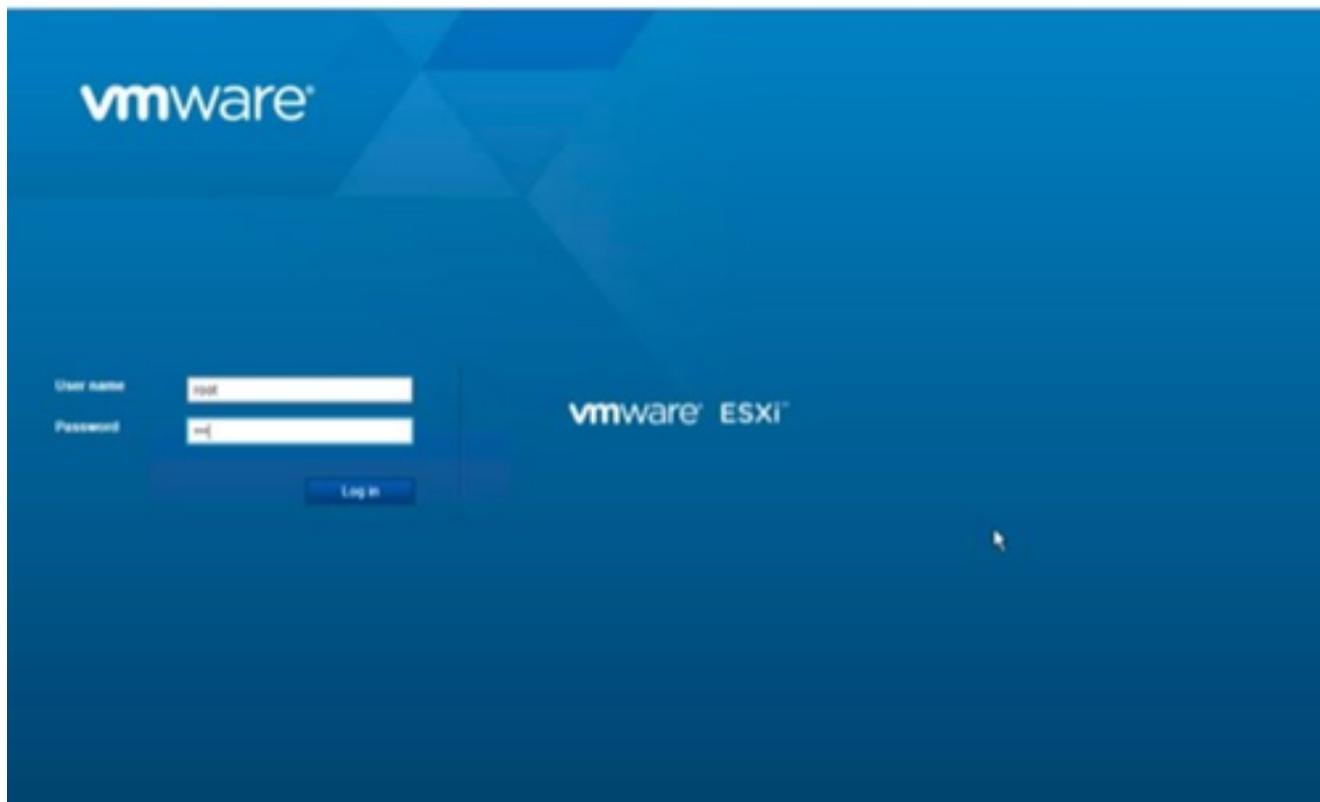
導入の完了

8. 導入したVMを選択し、コンソールを開いて [Network Configuration](#) に移動し、次の手順に進みます。

## Web クライアント ESXi 6.0 のインストール

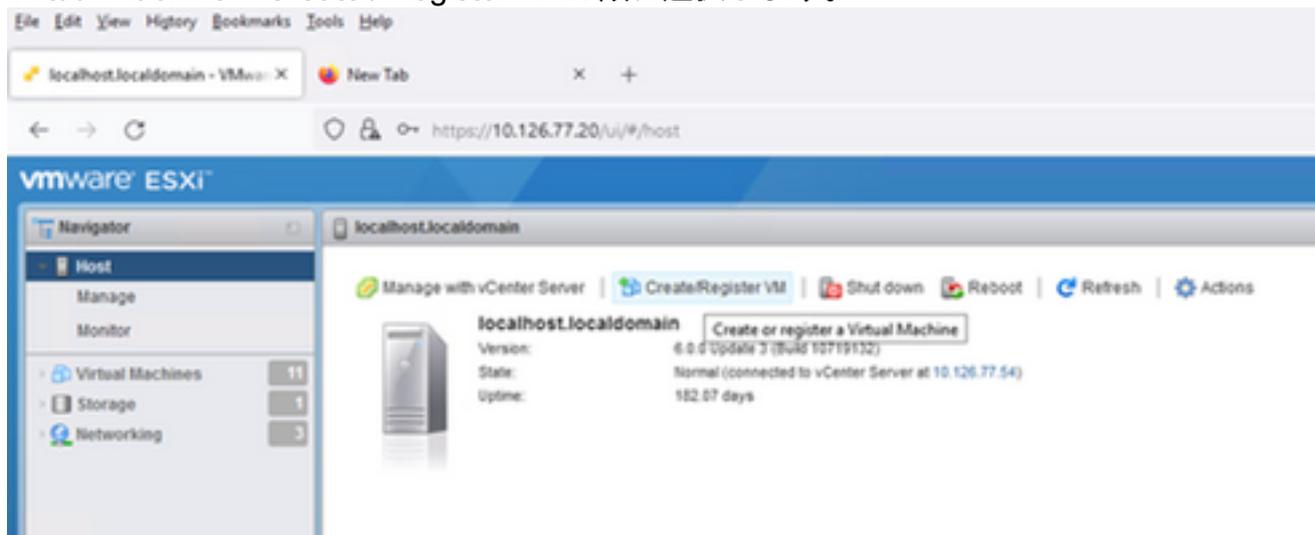
このクライアントは、vSphere Webを使用してCX Cloud Agent OVAを導入します。

1. VMの導入に使用するESXi/ハイパーバイザクレデンシャルを使用して、VMWare UIにログインします。



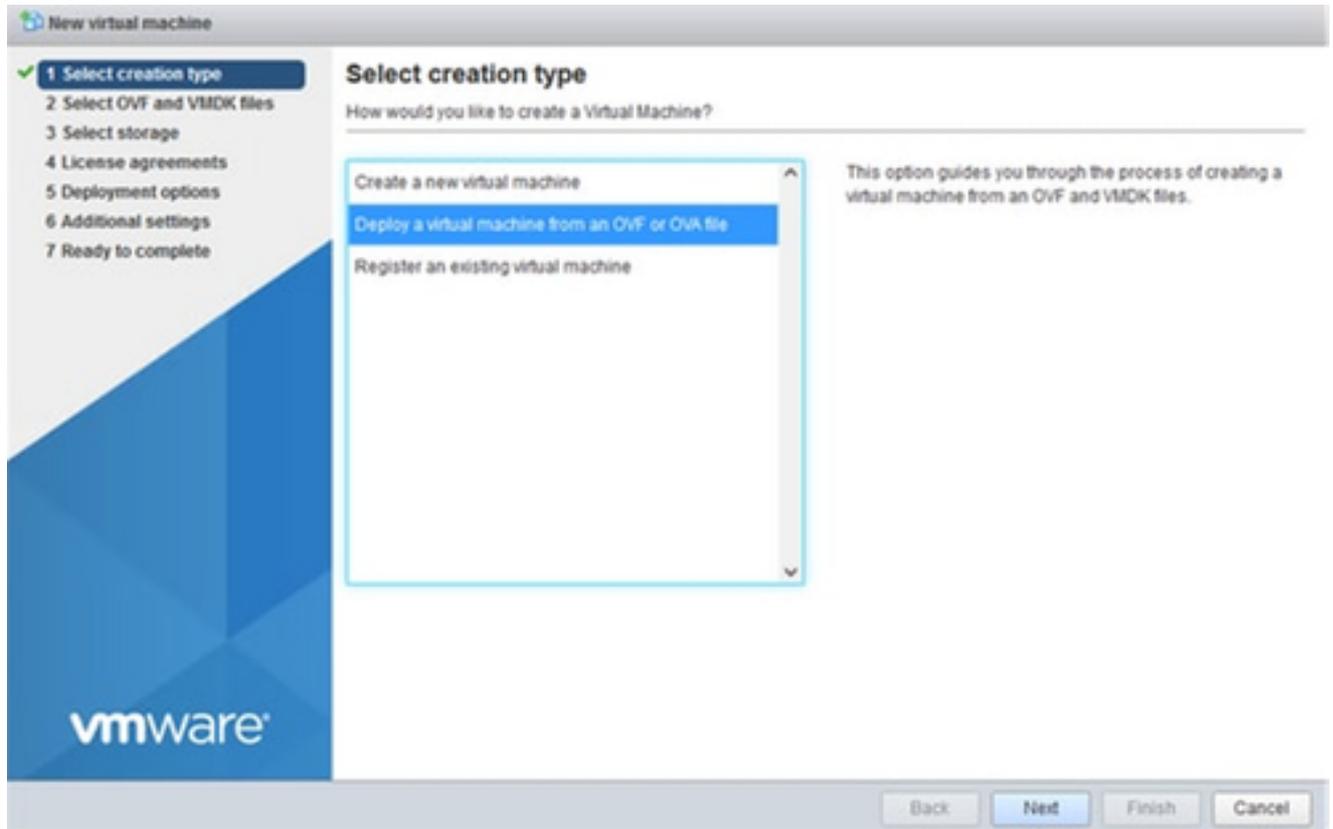
VMware ESXi のログイン

2. Virtual Machine > Create / Register VMの順に選択します。



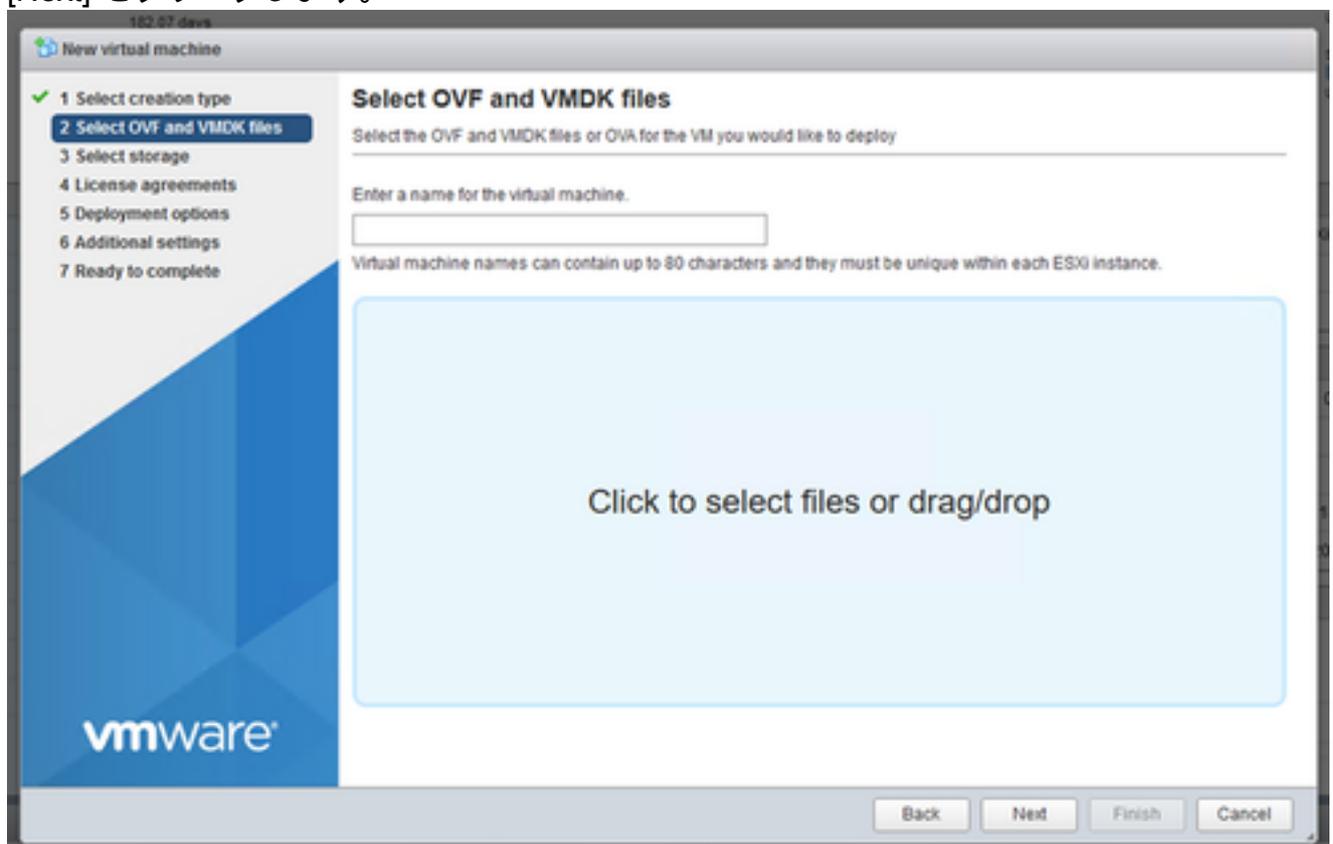
VM の作成

3. [OVF または OVA ファイルから仮想マシンを導入 ( Deploy a virtual machine from OVF or OVA file ) ] を選択して、[次へ ( Next ) ] をクリックします。



作成タイプの選択

4. VMの名前を入力し、ファイルを参照して選択するか、ダウンロードしたOVAファイルをドラッグアンドドロップします。
5. [Next] をクリックします。



OVA の選択

6. [標準ストレージ ( Standard Storage ) ] を選択し、[次へ ( Next ) ] をクリックします。

Name	Capacity	Free	Type	Thin pro...	Access
datastore1	4.35 TB	3.57 TB	VMFS5	Supported	Single

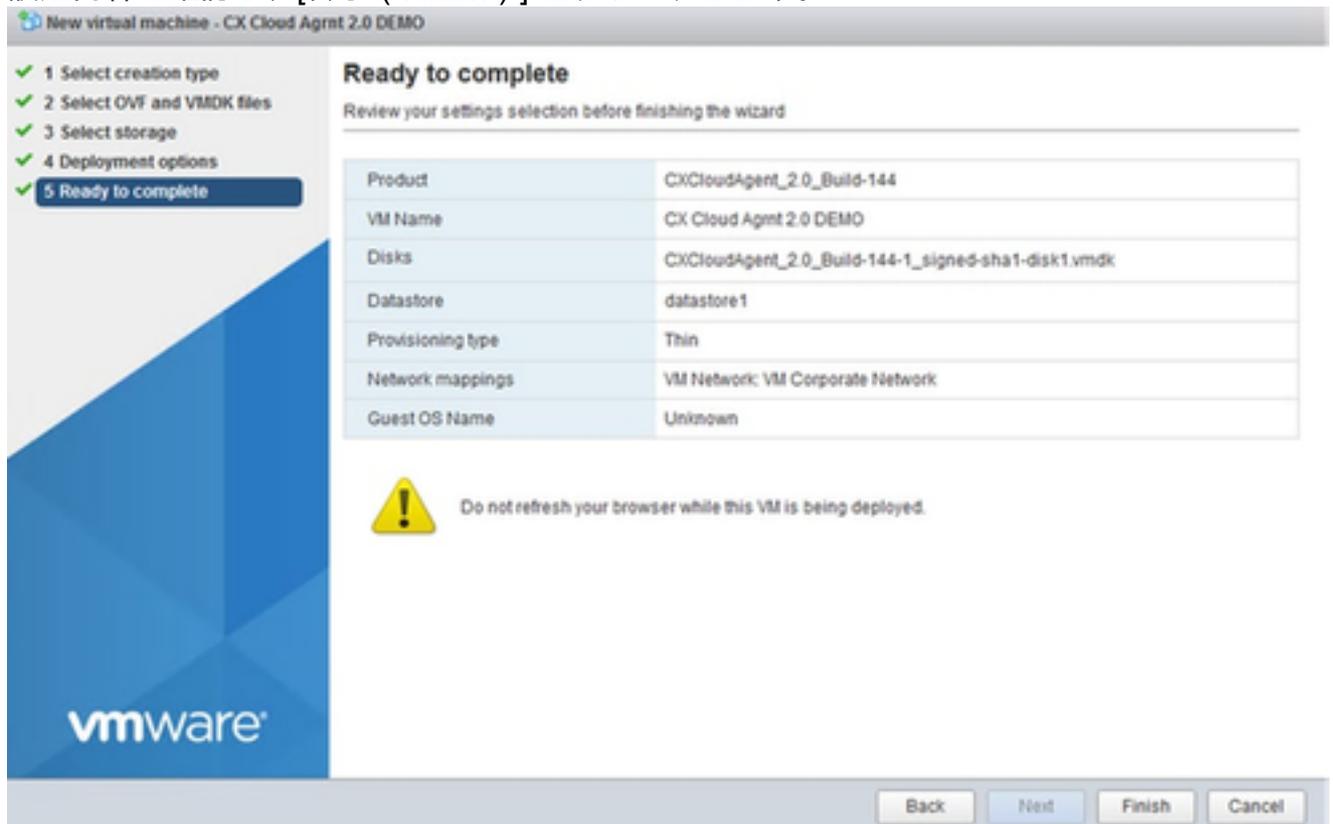
ストレージの選択

7. 適切なDeploymentオプションを選択し、Nextをクリックします。

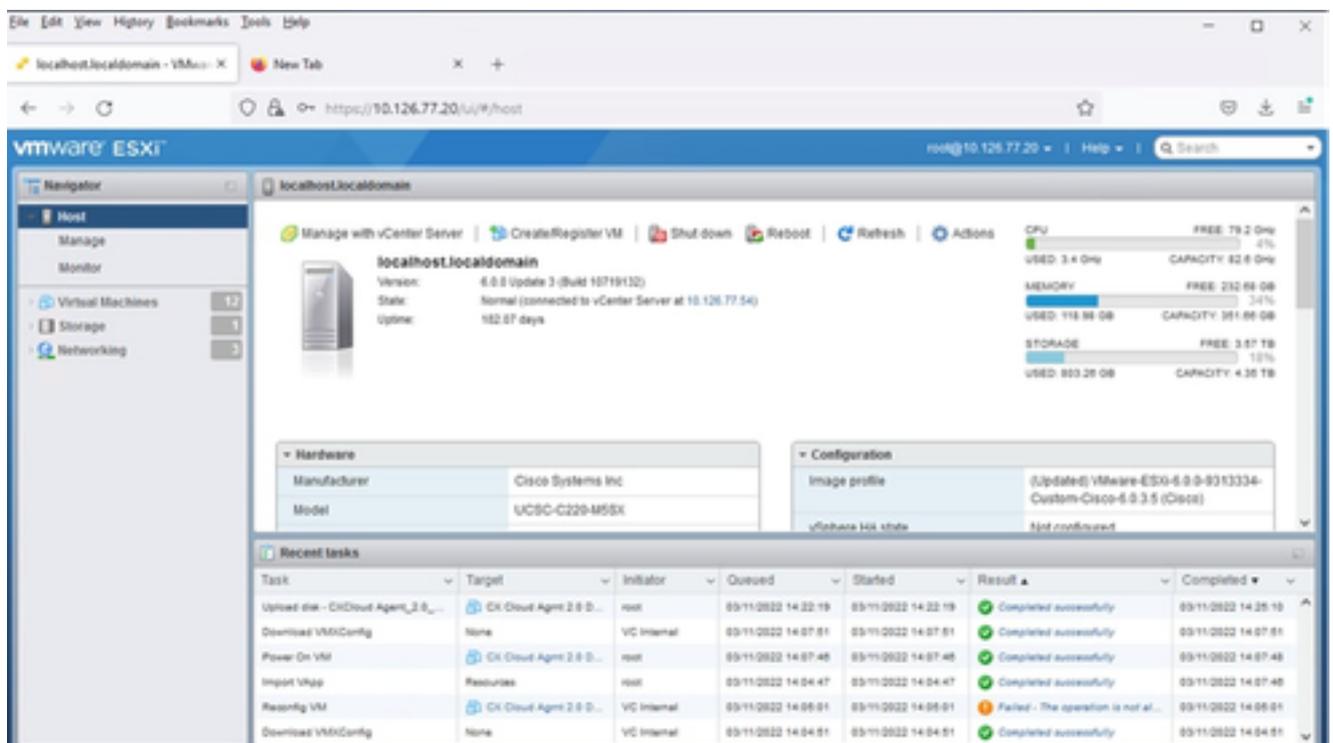
Network mappings	VM Network	VM Corporate Network
Disk provisioning	<input checked="" type="radio"/> Thin <input type="radio"/> Thick	
Power on automatically	<input checked="" type="checkbox"/>	

導入オプション

8. 設定内容を確認し、[終了 ( Finish ) ] をクリックします。

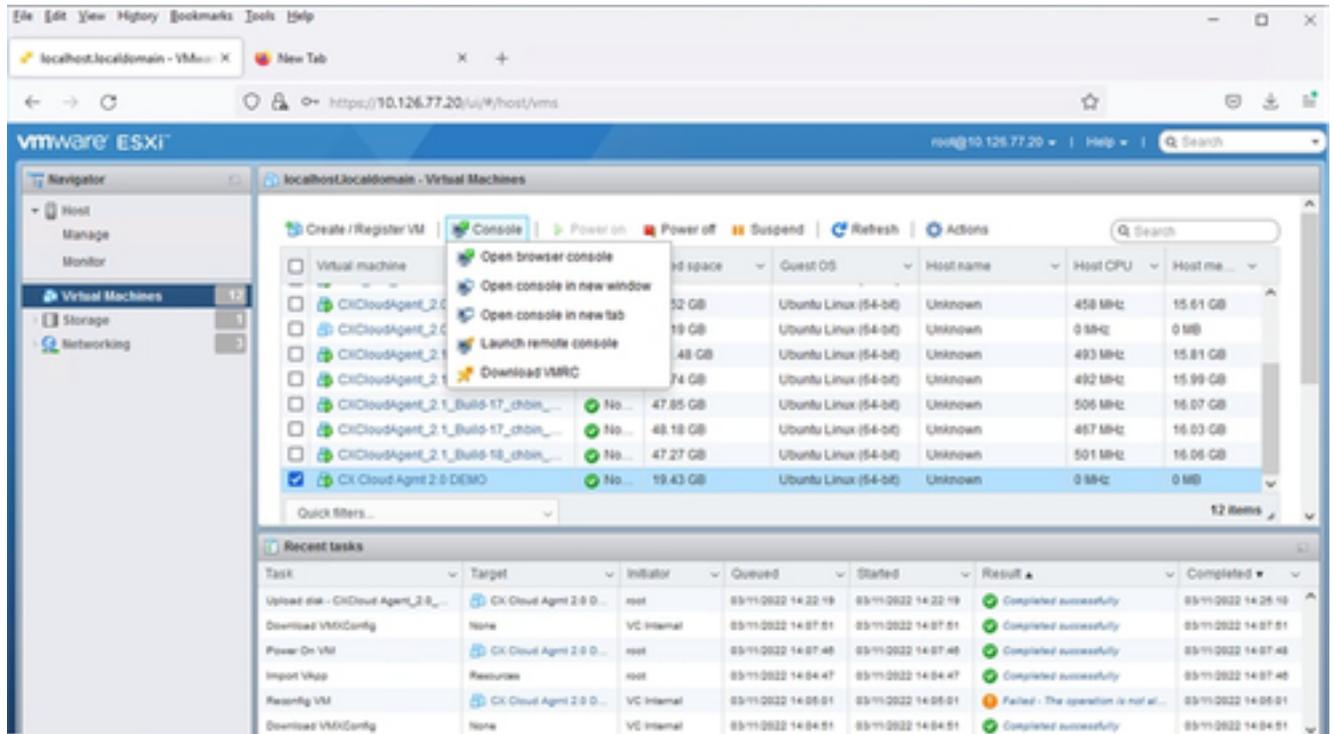


終了準備の完了 ( Ready to Complete )



正常終了

9. 導入したばかりのVMを選択し、Console > Open browser consoleの順に選択します。



コンソール

10. [Network Configuration](#)に移動して、次の手順に進みます。

Web クライアント vCenter のインストール

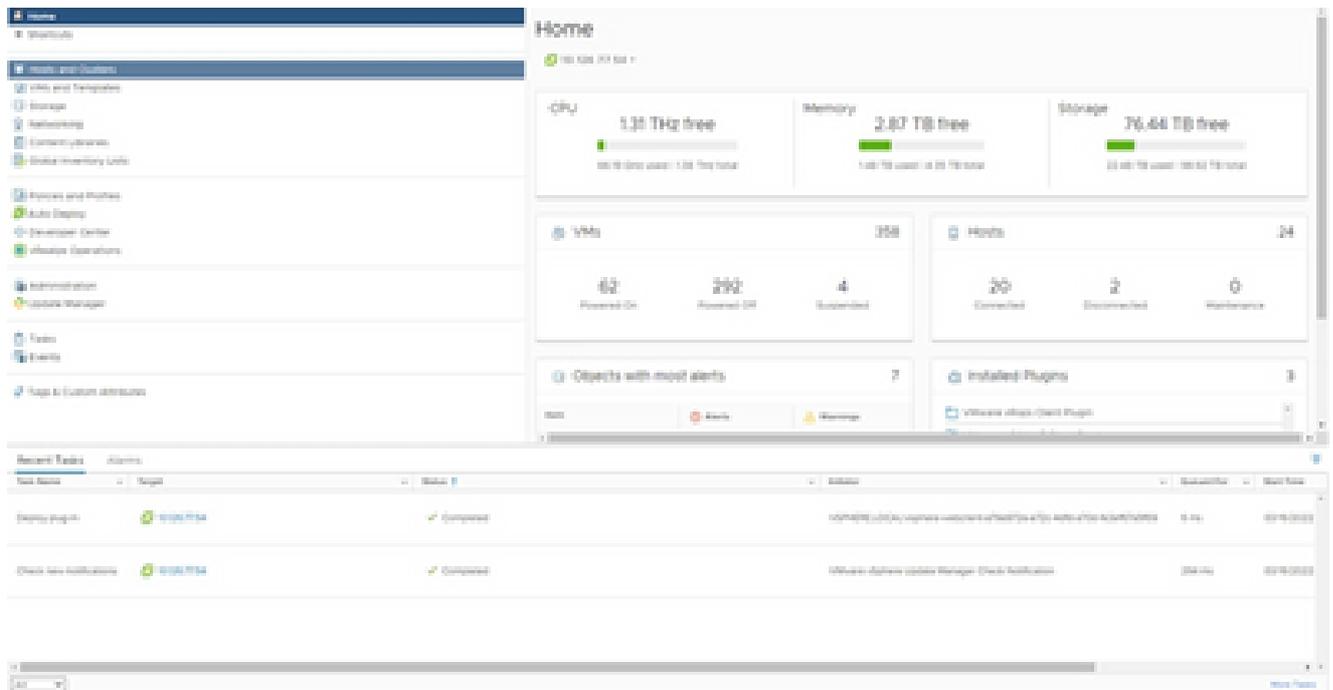
次の手順を実行します。

1. ESXi/ハイパーバイザクレデンシアルを使用してvCenterクライアントにログインします。



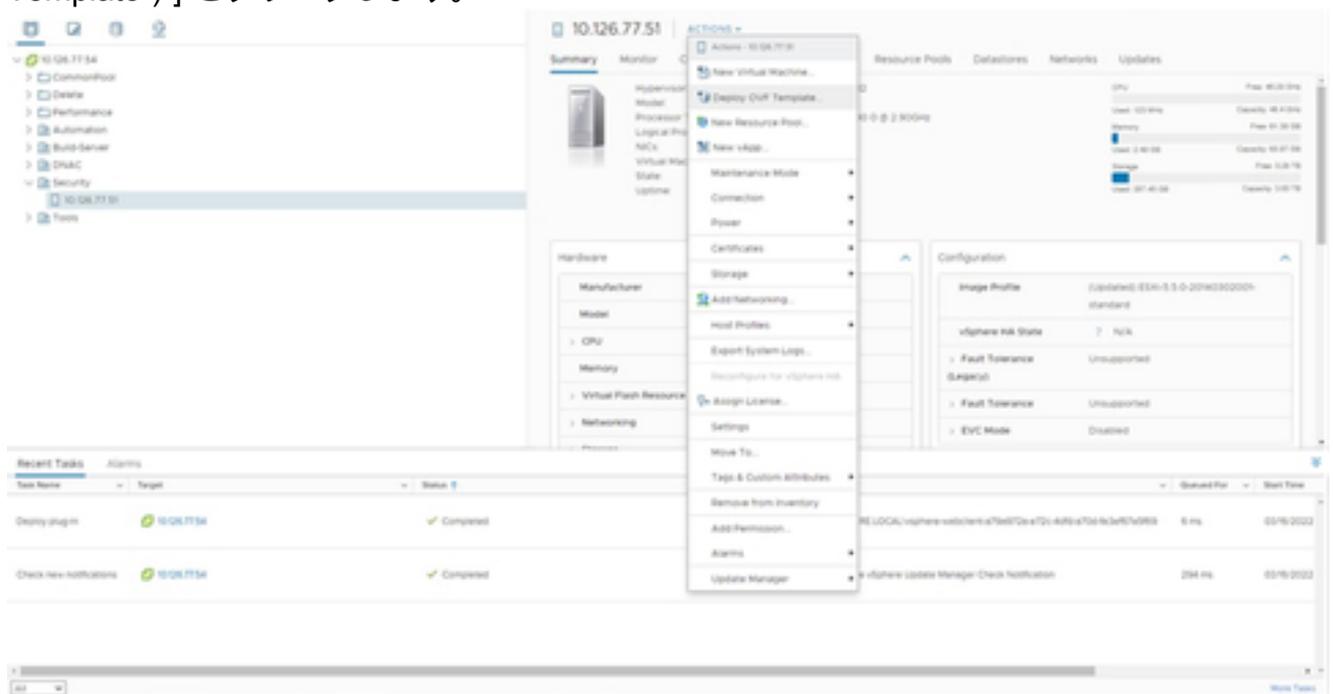
ログイン

2. Homeページから、Hosts and Clustersをクリックします。

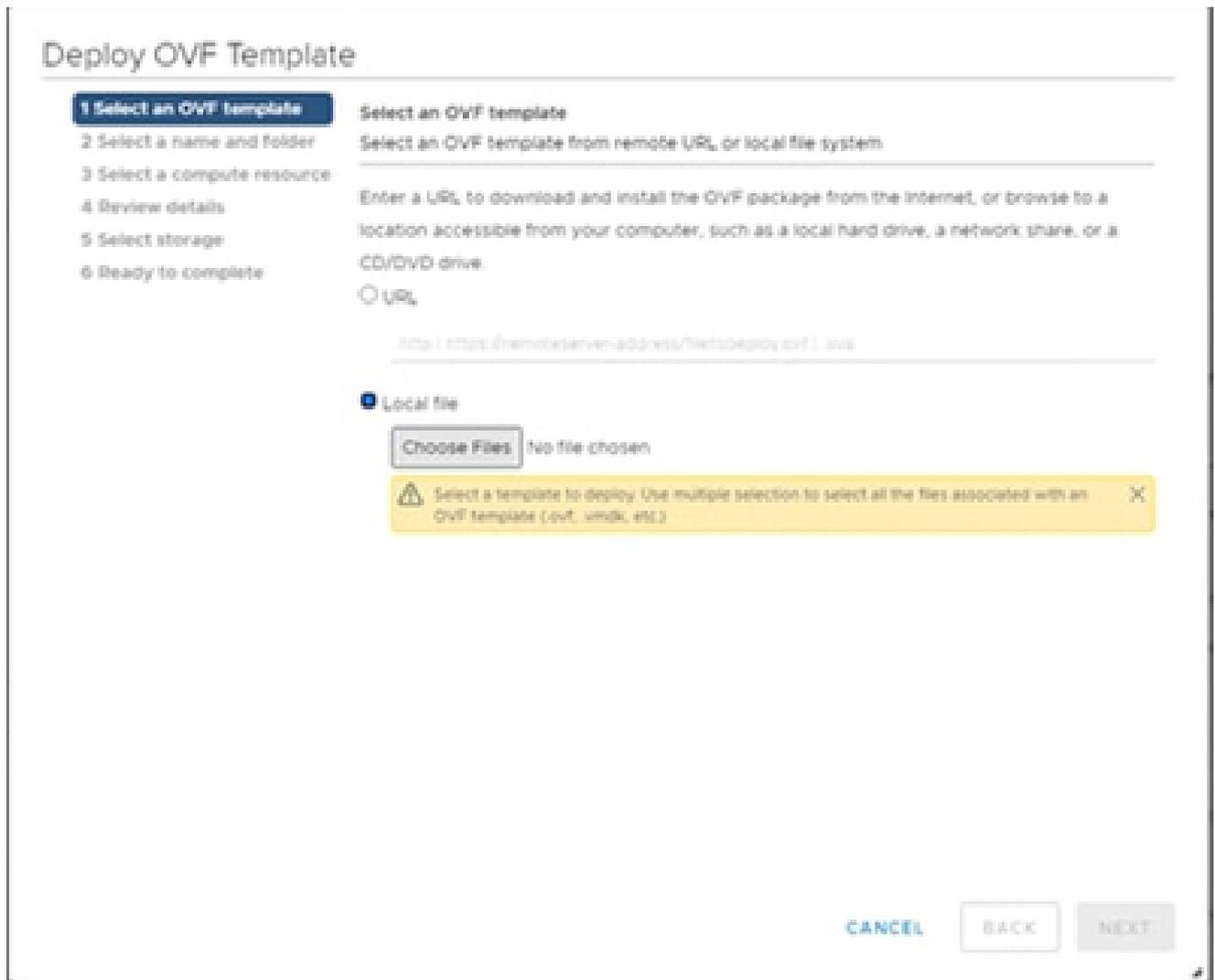


ホームページ

3. VM を選択し、[アクション ( Action ) ] > [OVF テンプレートの導入 ( Deploy OVF Template ) ] をクリックします。



[アクション ( Actions ) ]



テンプレートの選択(Select Template)

4. URLを直接追加するか、参照してOVAファイルを選択し、Nextをクリックします。
5. 一意の名前を入力し、必要に応じて場所を参照します。
6. [Next] をクリックします。

## Deploy OVF Template

✓ 1 Select an OVF template

2 Select a name and folder

3 Select a compute resource

4 Review details

5 Select storage

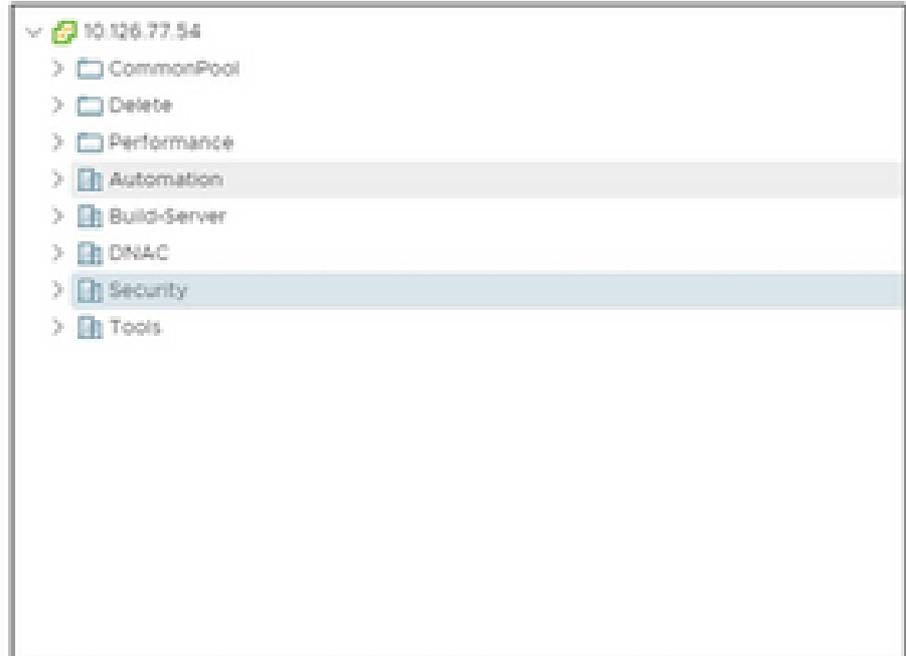
6 Ready to complete

Select a name and folder

Specify a unique name and target location

Virtual machine name: CXCloudAgent\_2.0\_Build-144-demo

Select a location for the virtual machine.



CANCEL

BACK

NEXT

名前とフォルダ

7. コンピューティングリソースを選択し、Nextをクリックします。

## Deploy OVF Template

- ✓ 1 Select an OVF template
- ✓ 2 Select a name and folder
- 3 Select a compute resource**
- 4 Review details
- 5 Select storage
- 6 Ready to complete

Select a compute resource

Select the destination compute resource for this operation

▼ Security

> 10.126.77.51

Compatibility

✓ Compatibility checks succeeded.

CANCEL

BACK

NEXT

コンピュータリソースの選択

8. 詳細を確認し、[次へ ( Next ) ] をクリックします。

## Deploy OVF Template

- ✓ 1 Select an OVF template
- ✓ 2 Select a name and folder
- ✓ 3 Select a compute resource
- 4 Review details**
- 5 Select storage
- 6 Select networks
- 7 Ready to complete

### Review details

Verify the template details.

Publisher	DigiCert SHA2 Assured ID Code Signing CA (Trusted certificate)
Product	CxCloudAgent_3.0_Build-144
Version	2.0
Vendor	Cisco Systems, Inc
Description	CxCloudAgent_3.0_Build-144
Download size	1.1 GB
Size on disk	3.1 GB (thin provisioned)
	200.0 GB (thick provisioned)

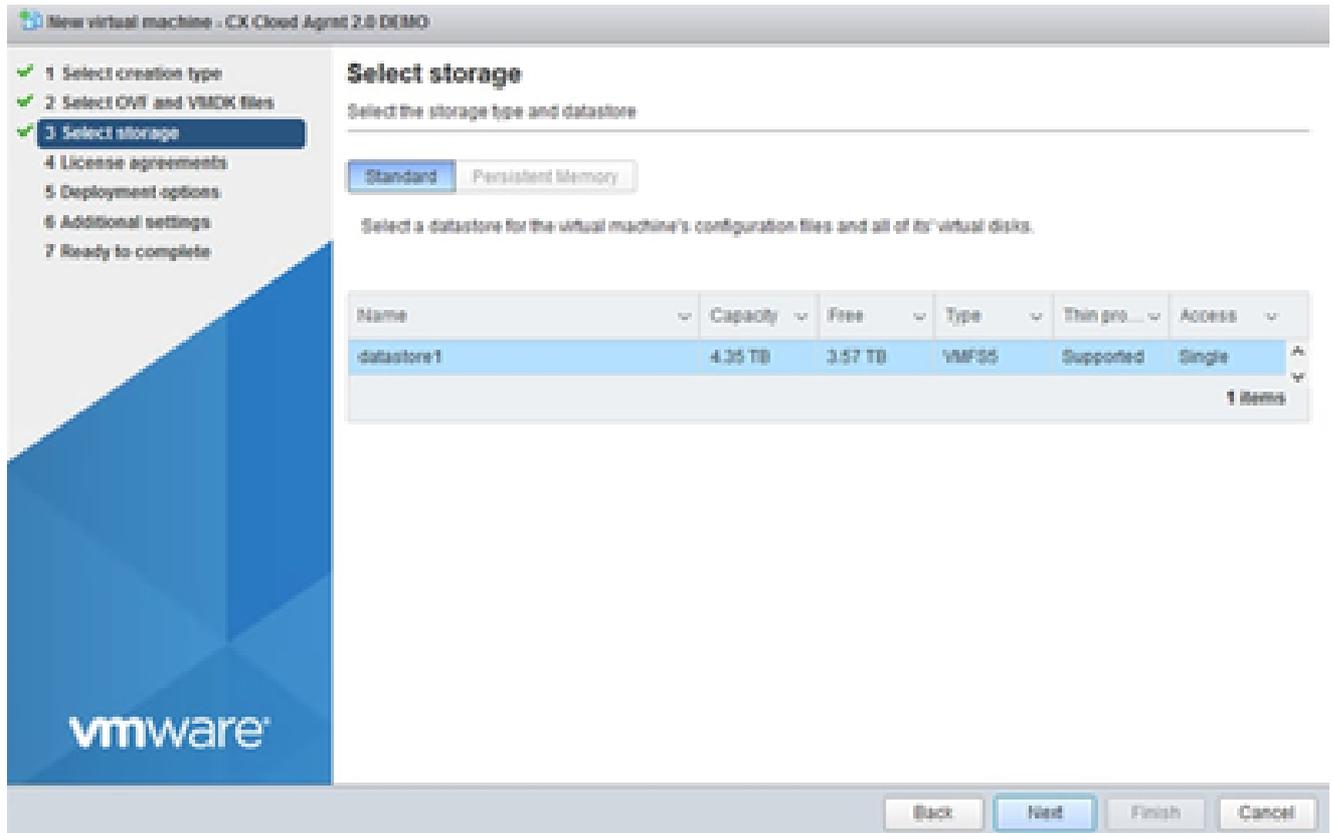
CANCEL

BACK

NEXT

詳細の確認

9. 仮想ディスク形式を選択し、[次へ ( Next ) ] をクリックします。



ストレージの選択

10. [Next] をクリックします。

## Deploy OVF Template

- ✓ 1 Select an OVF template
- ✓ 2 Select a name and folder
- ✓ 3 Select a compute resource
- 4 Review details**
- 5 Select storage
- 6 Select networks
- 7 Ready to complete

### Review details

Verify the template details.

Publisher	DigiCert SHA2 Assured ID Code Signing CA (Trusted certificate)
Product	CxCloudAgent_3.0_Build-144
Version	2.0
Vendor	Cisco Systems, Inc
Description	CxCloudAgent_3.0_Build-144
Download size	1.1 GB
Size on disk	3.1 GB (thin provisioned)
	200.0 GB (thick provisioned)

CANCEL

BACK

NEXT

ネットワークの選択

11. [Finish] をクリックします。

# Deploy OVF Template

- ✓ 1 Select an OVF template
- ✓ 2 Select a name and folder
- ✓ 3 Select a compute resource
- ✓ 4 Review details
- ✓ 5 Select storage
- ✓ 6 Select networks
- 7 Ready to complete**

Ready to complete  
Click Finish to start creation.

Provisioning type	Deploy from template
Name	CxCloudAgent_2.0_Build-144-demo
Template name	CxCloudAgent_2.0_Build-144-1_signed-sha1
Download size	11 GB
Size on disk	3.1 GB
Folder	Security
Resource	10.126.77.51
Storage mapping	1
All disks	Datastore: datastore1 (23); Format: Thin provision
Network mapping	1
VM Network	VM Network
IP allocation settings	
IP protocol	IPv4
IP allocation	Static - Manual

CANCEL BACK FINISH

終了準備の完了 ( Ready to Complete )

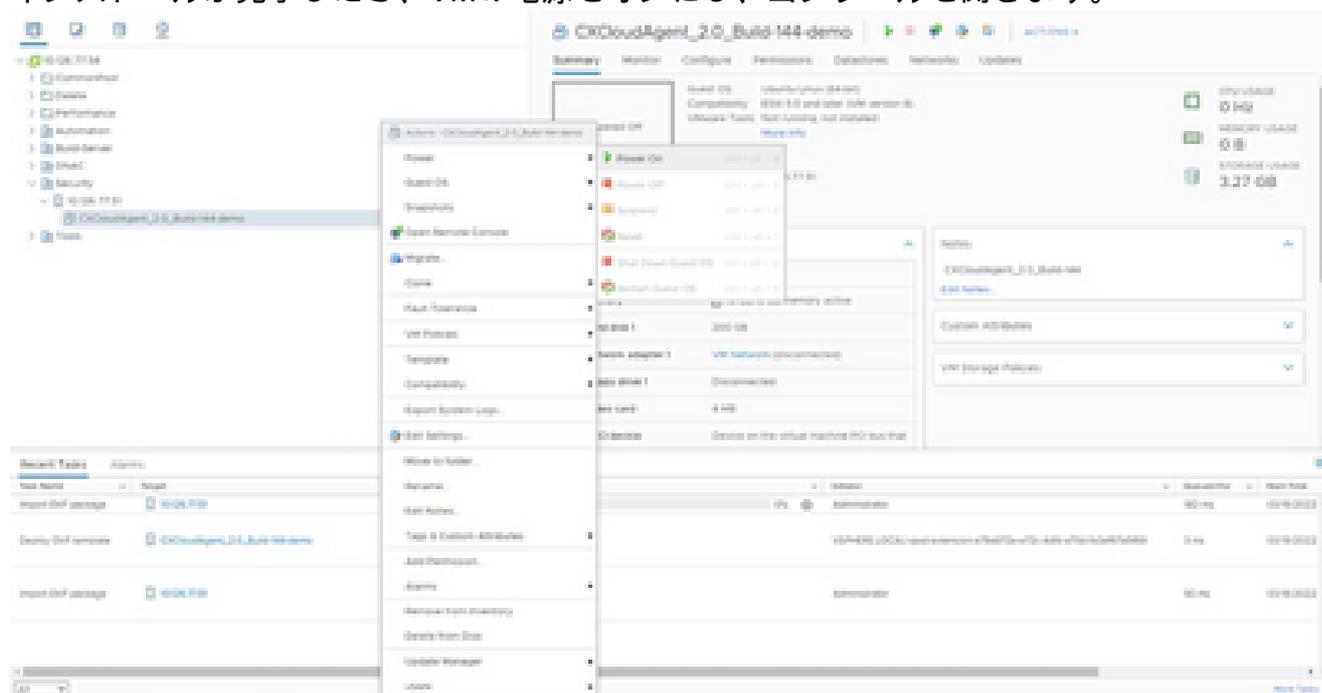
## 12. 新しく追加されたVMの名前をクリックして、ステータスを表示します。

The screenshot shows the vSphere interface. The top part displays the details for the VM 'CxCloudAgent\_2.0\_Build-144-demo'. The 'Powered Off' status is shown. The 'VM Hardware' section lists: CPU (0 CPUs), Memory (16 GB, 0 GB memory action), Hard disk 1 (200 GB), Network adapter 1 (VM Network (connected)), Floppy disk 1 (Disconnected), Video card (4 MB), and VMX device (Device on the virtual machine PC bus that). The 'Recent Tasks' table at the bottom shows the following entries:

Task Name	Progress	Status	Owner	Start Time	End Time
Import OVF template	100%	Completed	Administrator	10/19/2022	10/19/2022
Deploy OVF template	100%	Completed	Administrator	10/19/2022	10/19/2022
Import OVF template	100%	Completed	Administrator	10/19/2022	10/19/2022

追加されたVM

### 13. インストールが完了したら、VMの電源をオンにし、コンソールを開きます。



[コンソールを開く ( Open Console )]

### 14. ネットワーク設定に移動し、次の手順に進みます。

## Oracle Virtual Box 5.2.30 のインストール

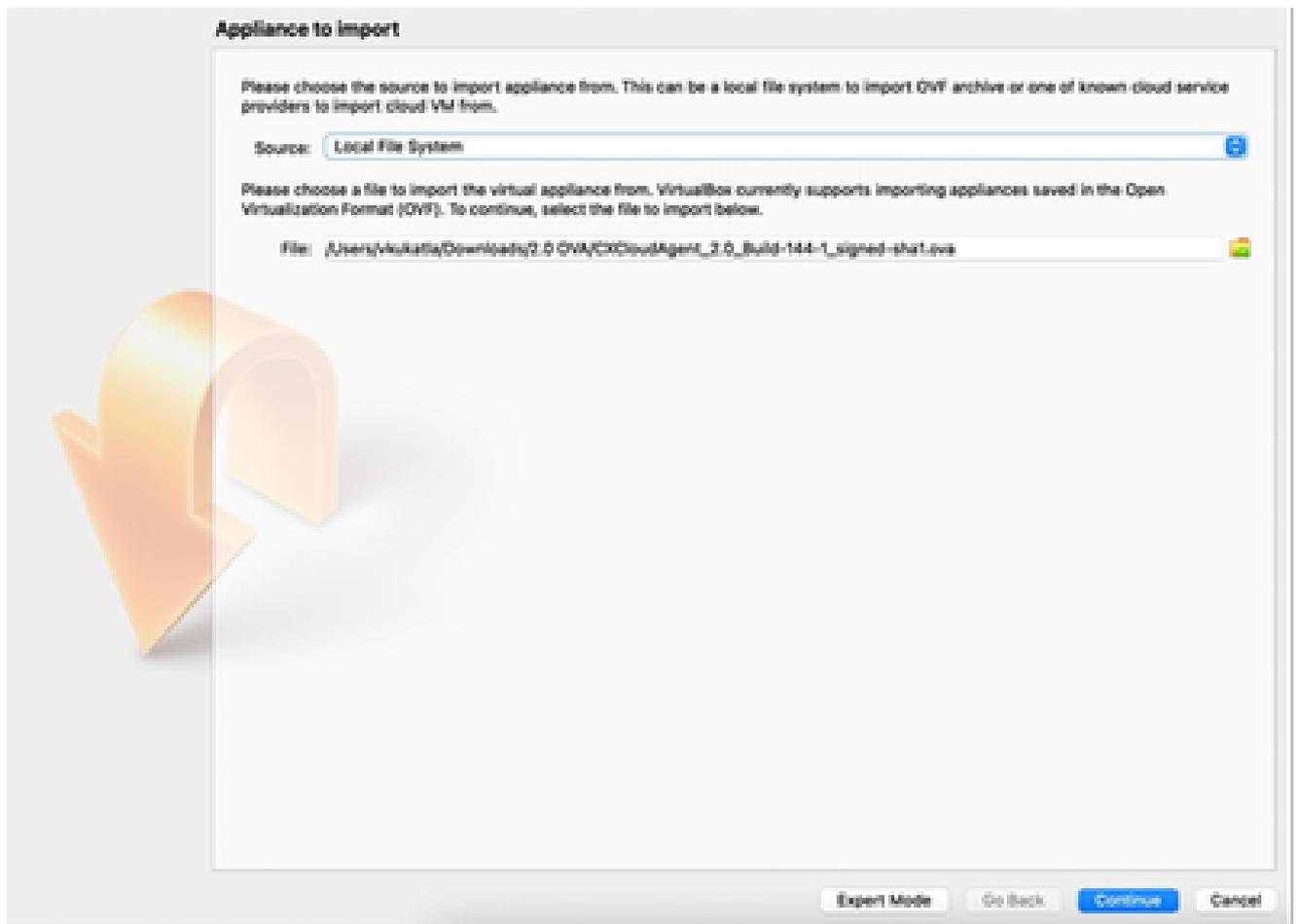
このクライアントは、Oracle Virtual Boxを介してCX Cloud Agent OVAを導入します。

### 1. Oracle VM UIを開き、File> Import Applianceを選択します。



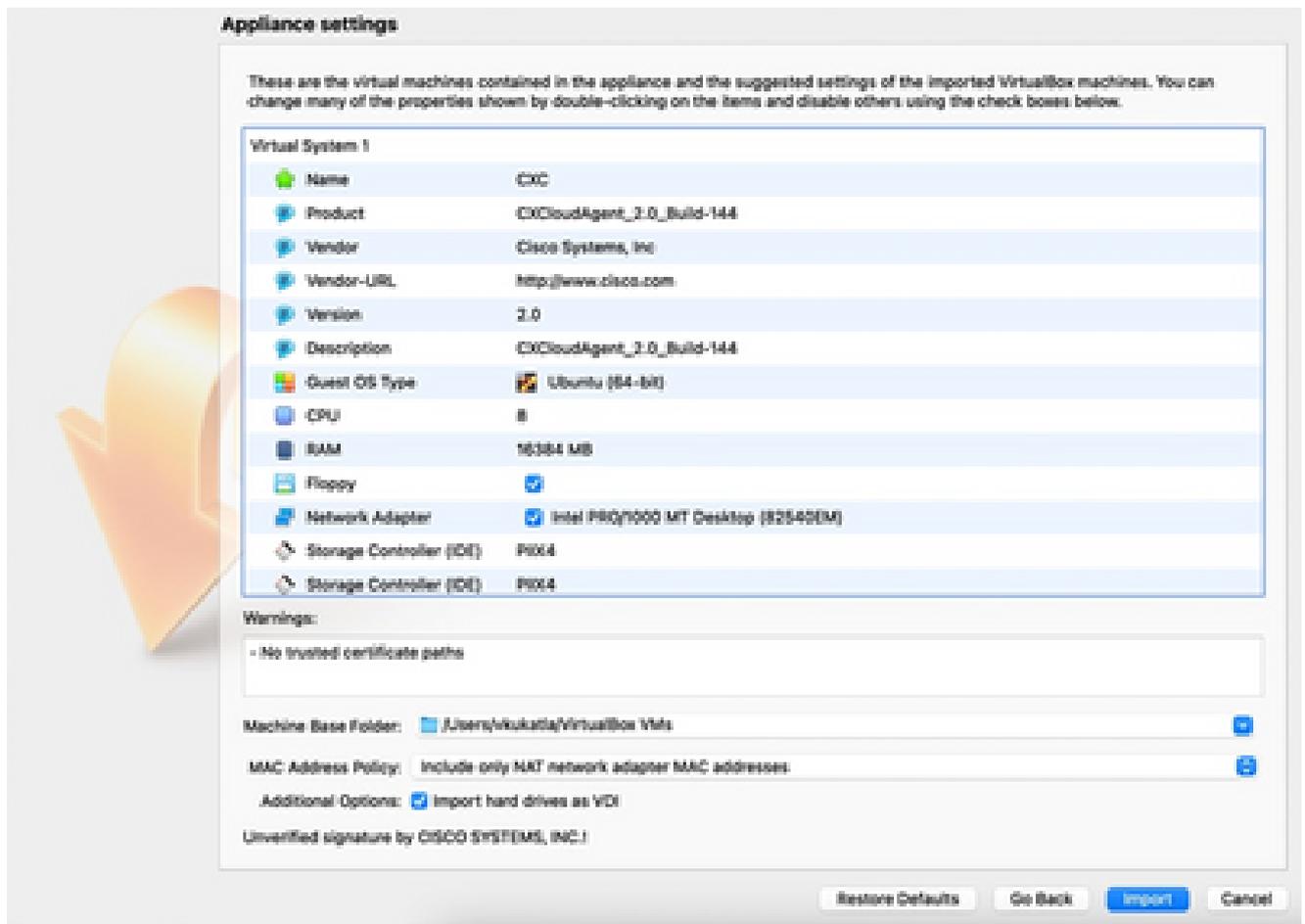
Oracle VM

### 2. インポートする OVA ファイルを参照します。



ファイルの選択

3. [Import] をクリックします。

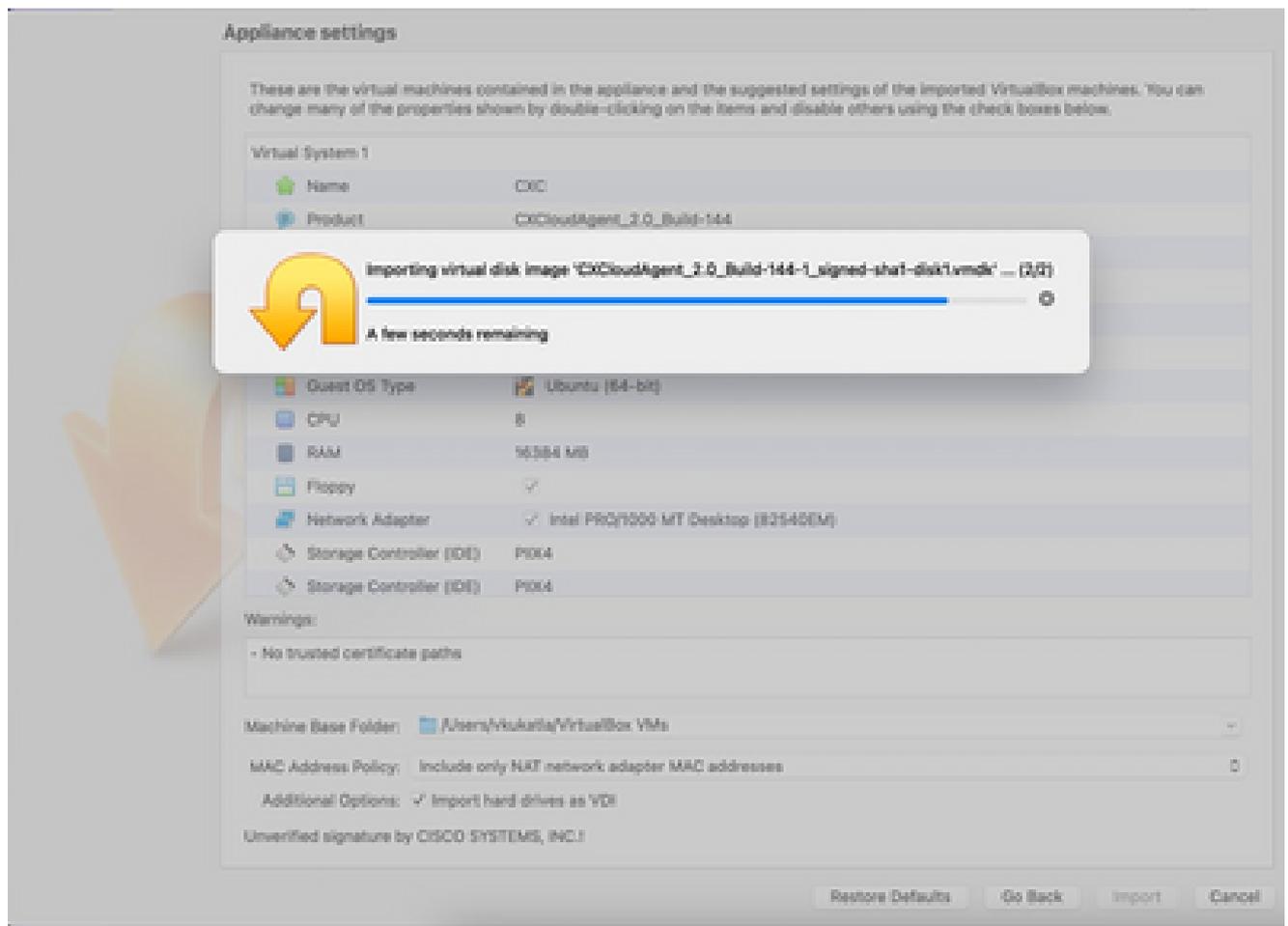


ファイルのインポート

#### 4. 導入したばかりのVMを選択し、Startをクリックします。



VM コンソールの起動



インポートしています

## 5. VMの電源をオンにします。コンソールが表示されず。



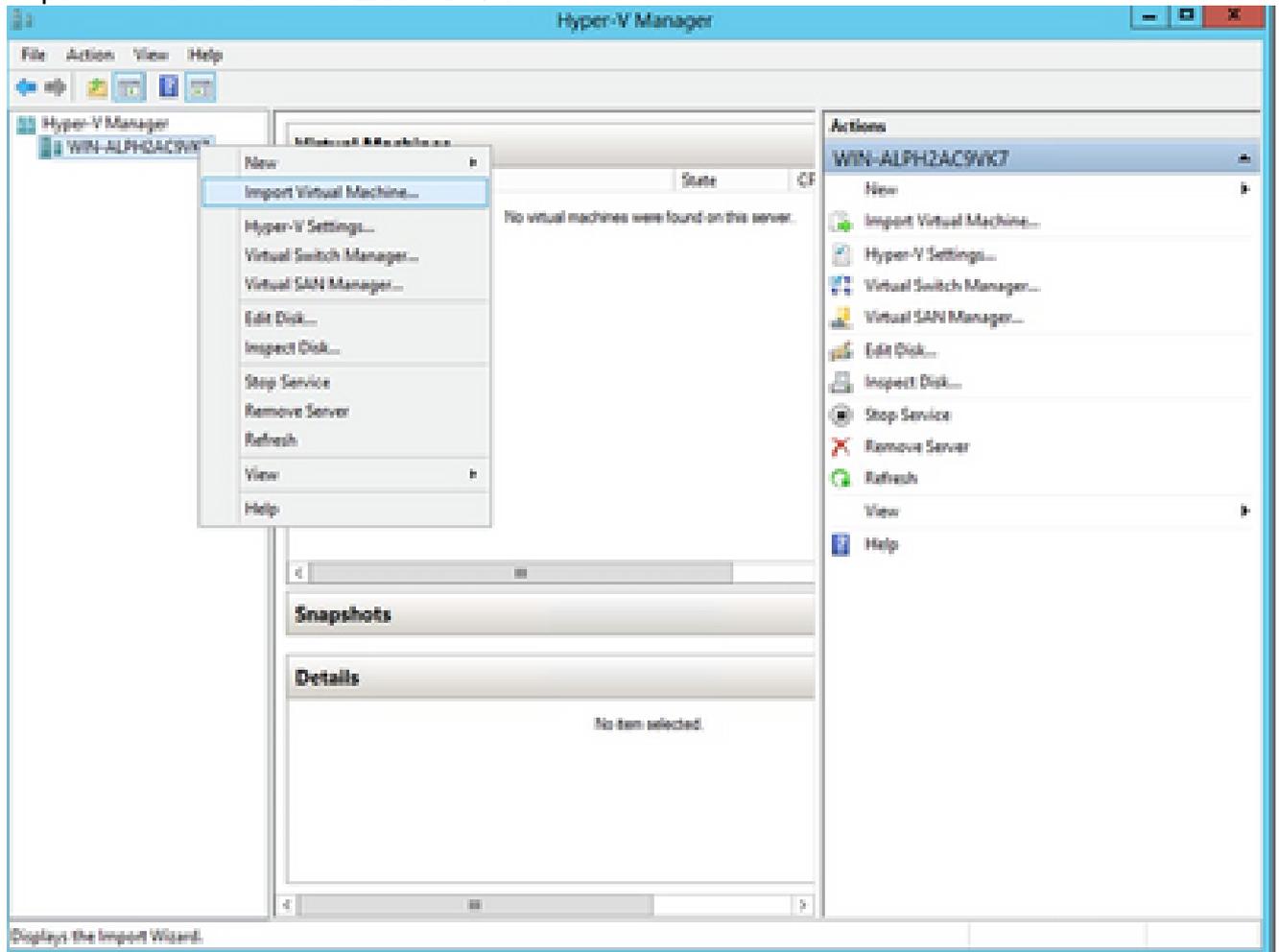
[コンソールを開く ( Open Console )]

6. [Network Configuration](#)に移動して、次の手順に進みます。

## Microsoft Hyper-V のインストール

次の手順を実行します。

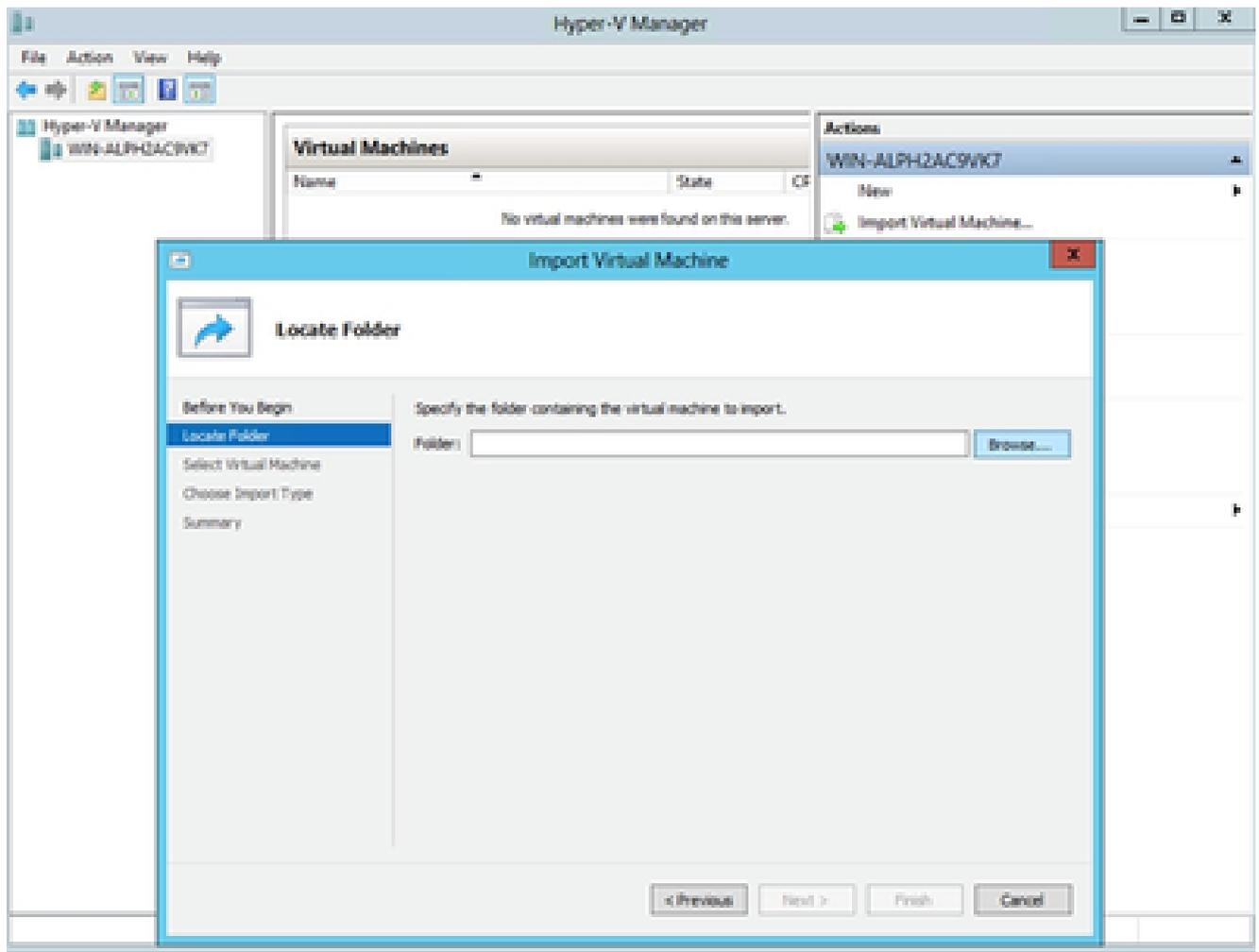
1. Import Virtual Machineを選択します。



Hyper Vマネージャー

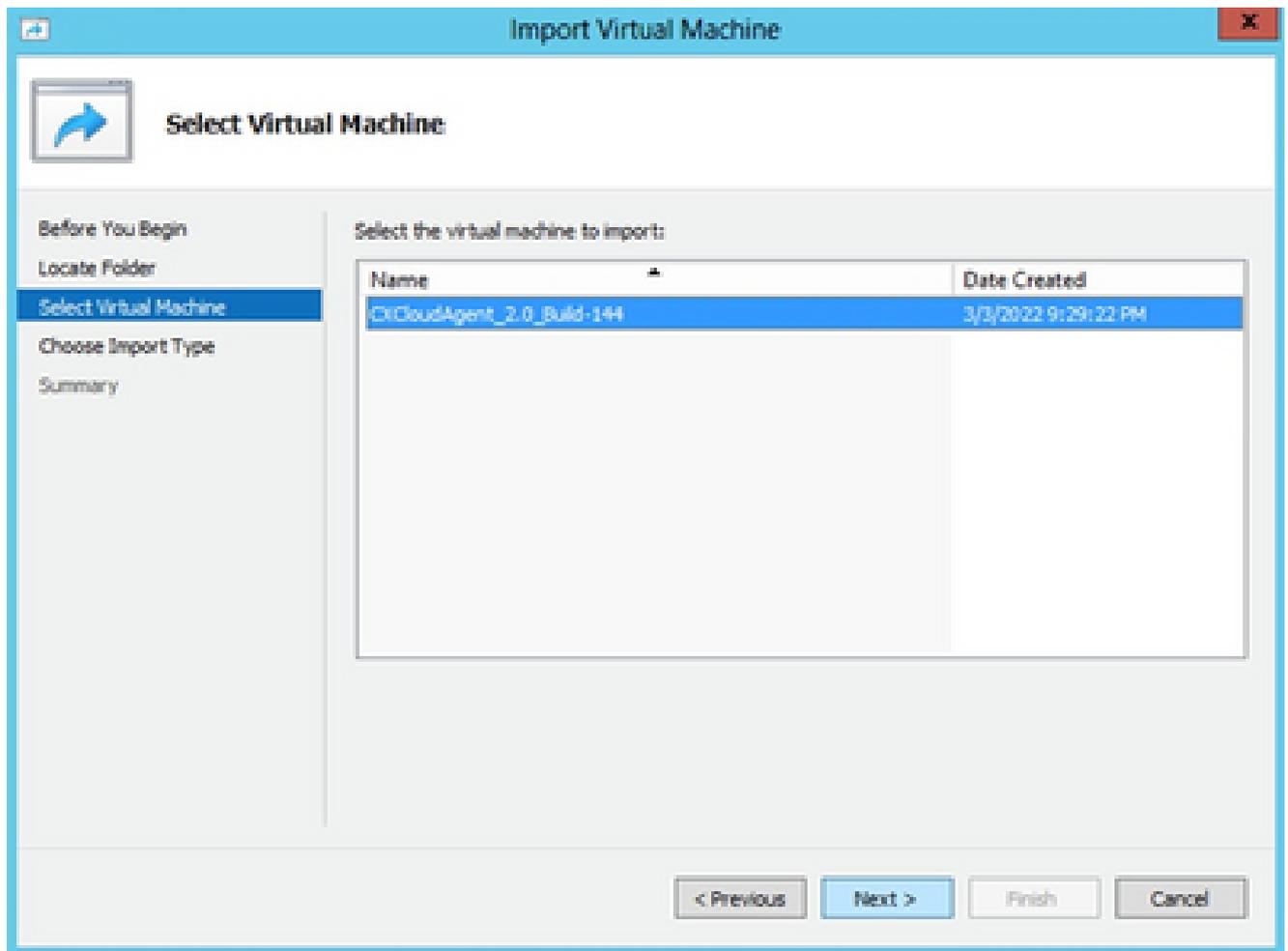
2. 参照してダウンロードフォルダを選択します。

3. [Next] をクリックします。



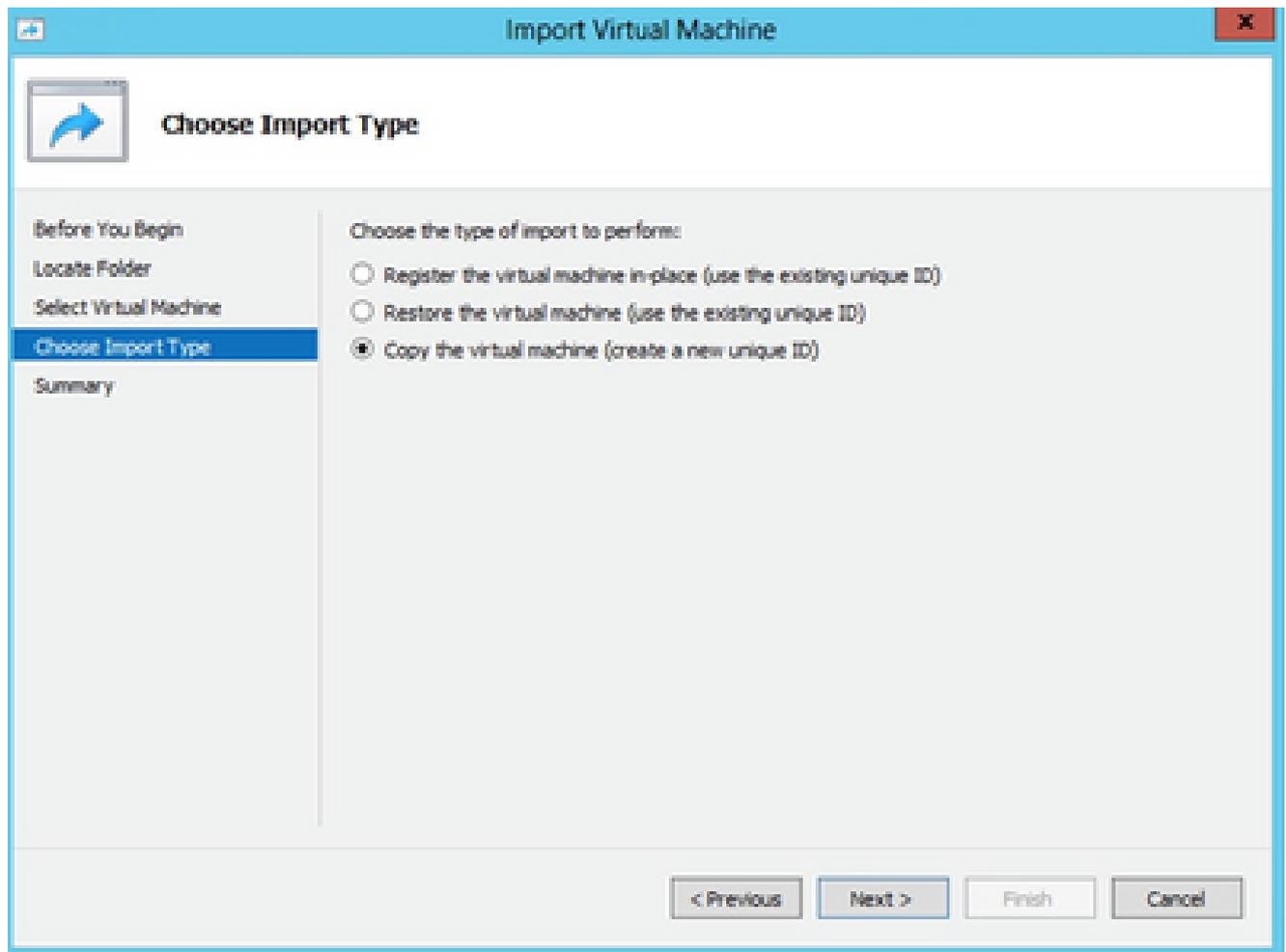
インポートするフォルダ

4. VMを選択し、Nextをクリックします。



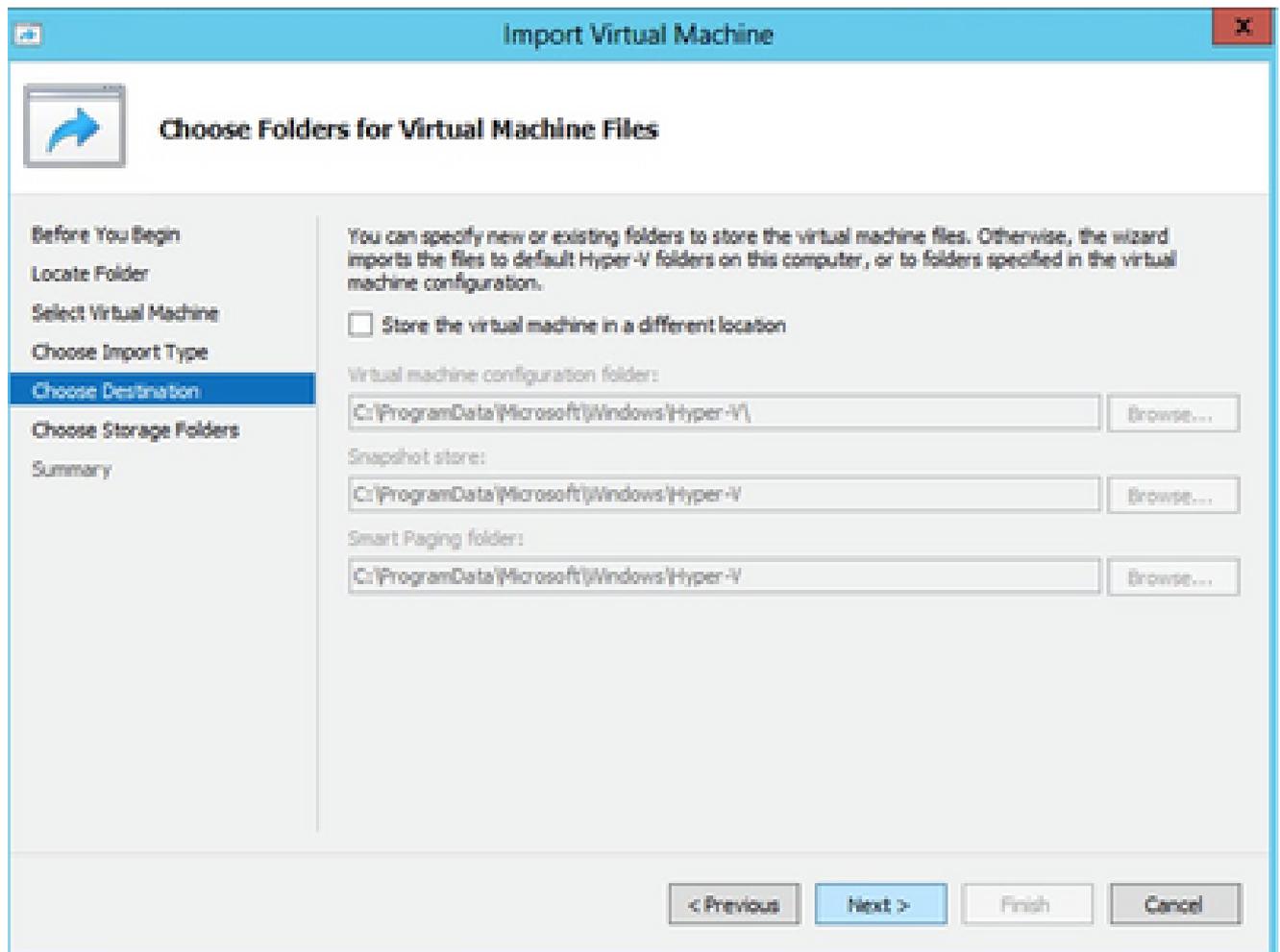
[VMの選択 ( Select VM ) ]

5. Copy the virtual machine (create a new unique ID)オプションボタンを選択し、Nextをクリックします。



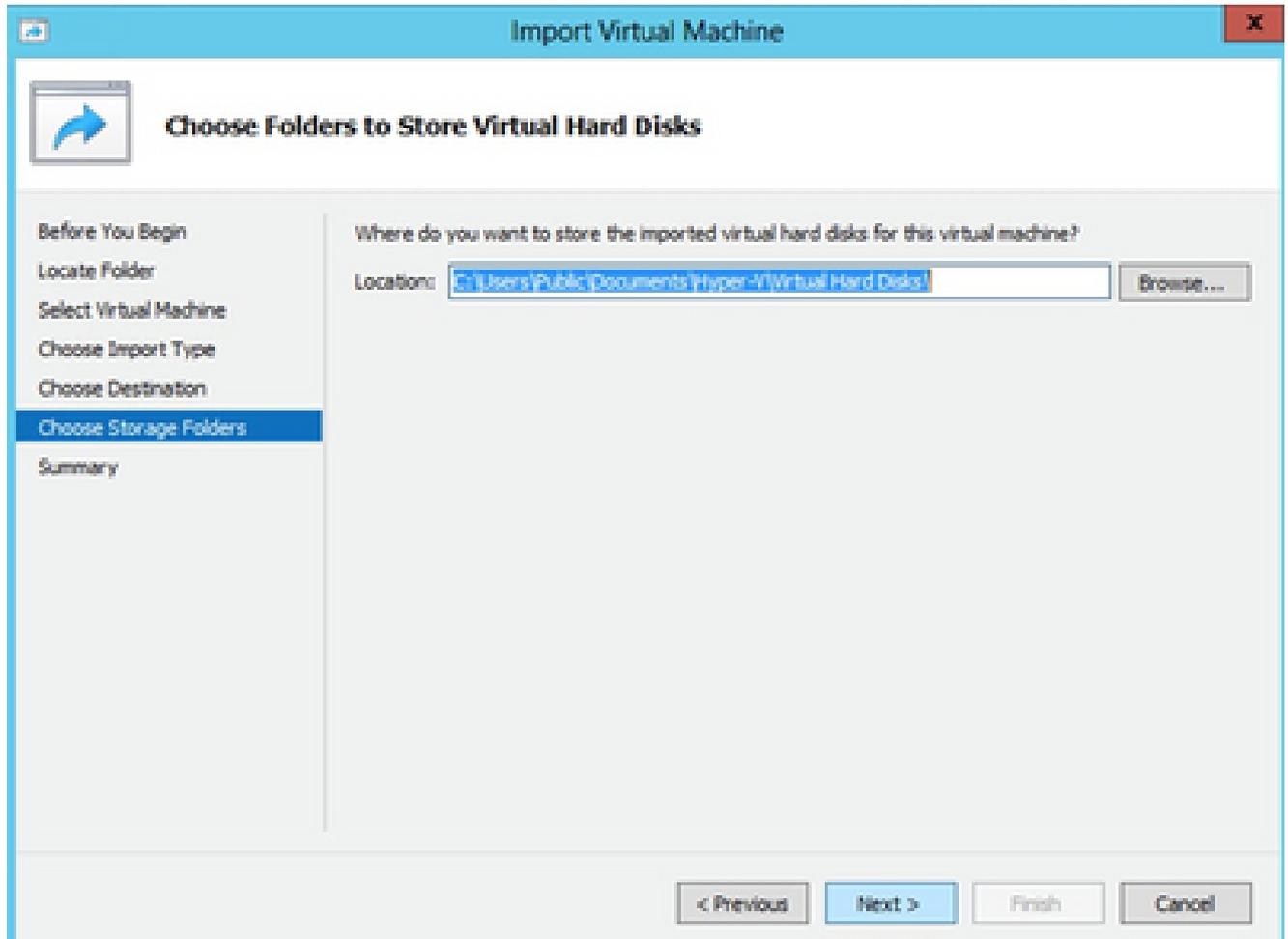
インポート タイプ

6. VM ファイルのフォルダを参照して選択します。デフォルトのパスを使用することを推奨します。
7. [Next] をクリックします。



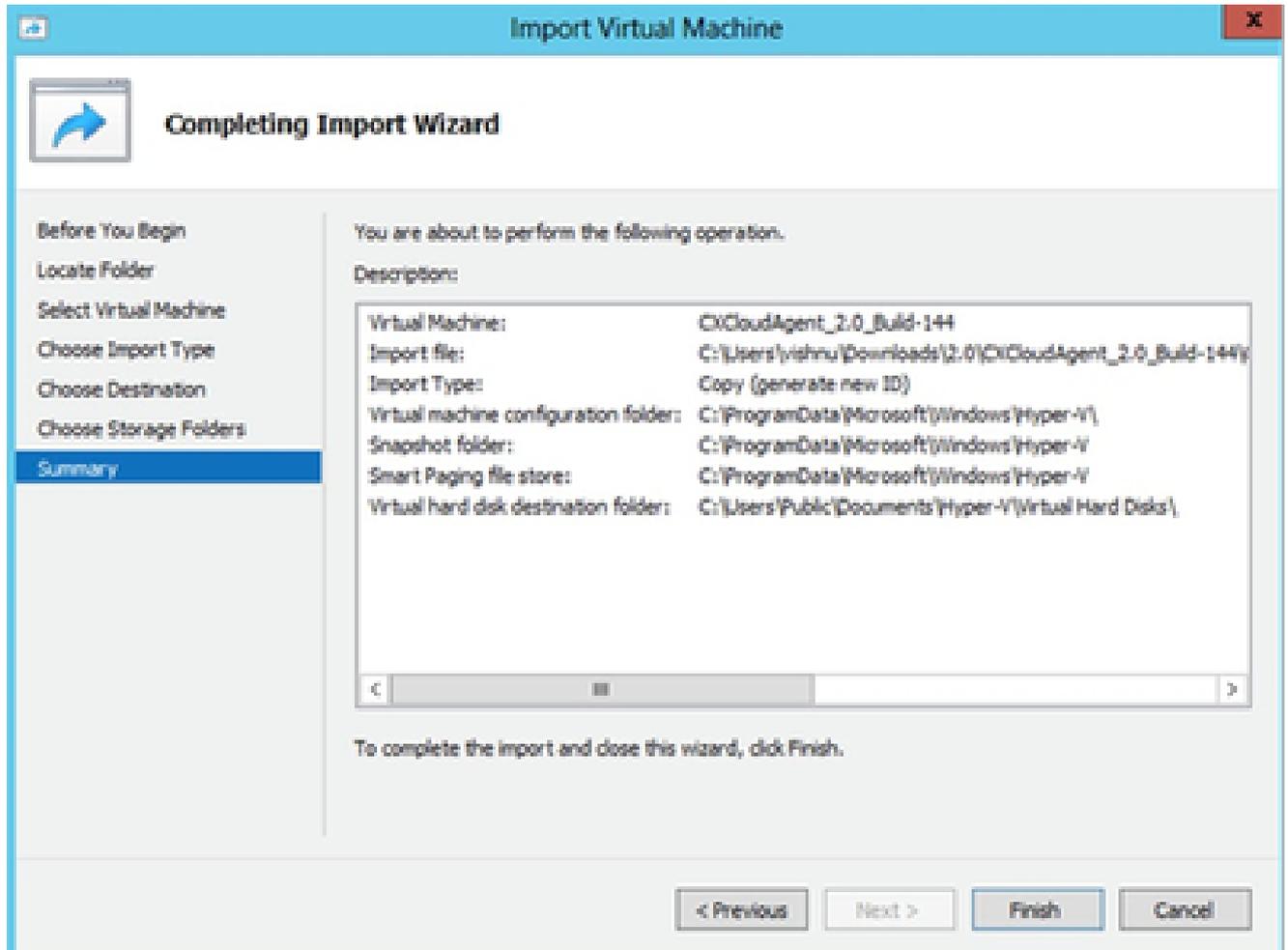
仮想マシンファイルのフォルダの選択

8. VM ディスクを保存するフォルダを参照して選択します。デフォルトパスを使用することをお勧めします。
9. [Next] をクリックします。



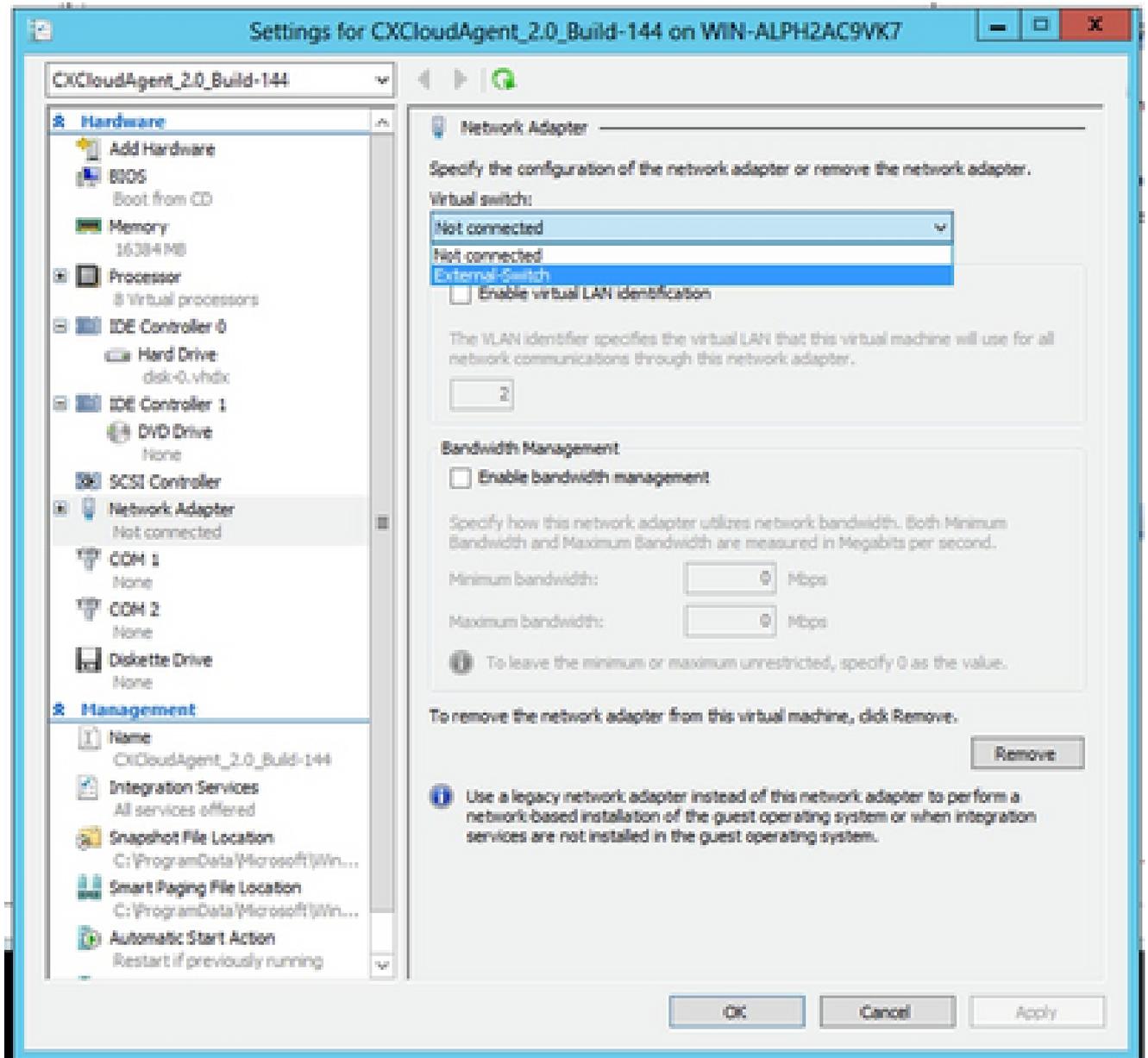
仮想ハードディスクを格納するフォルダ

10. VMサマリーが表示されます。すべての入力を確認し、Finishをクリックします。



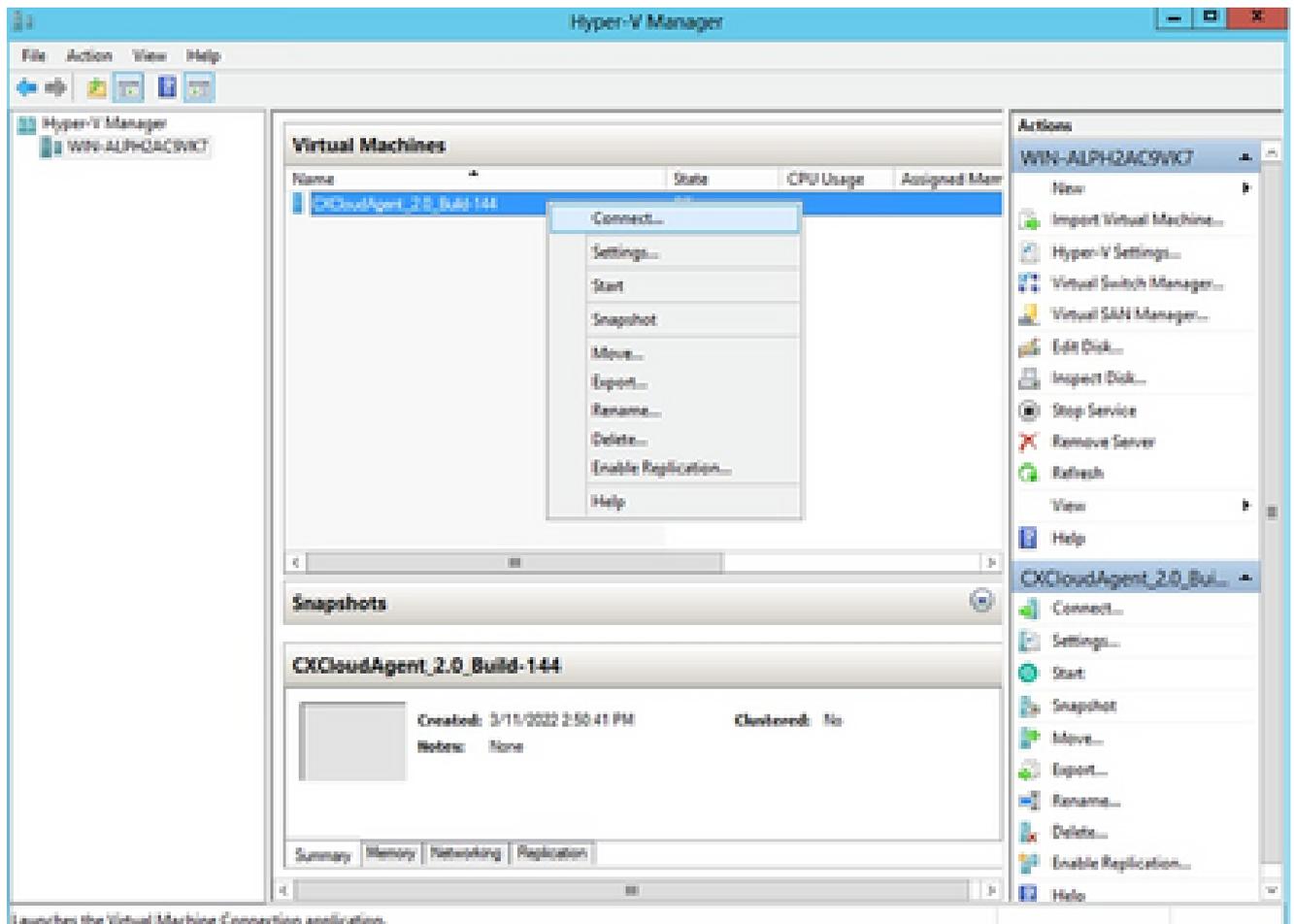
要約

11. インポートが正常に完了すると、新しいVMがHyper-Vに作成されます。VM設定を開きます。
12. 左側のペインでネットワークアダプタを選択し、使用可能な [仮想スイッチ (Virtual Switch)] をドロップダウンから選択します。



仮想スイッチ

13. Connectを選択してVMを起動します。



Launches the Virtual Machine Connection application.

VM の起動

14. [Network Configuration](#) に移動して、次の手順に進みます。

## ネットワーク設定

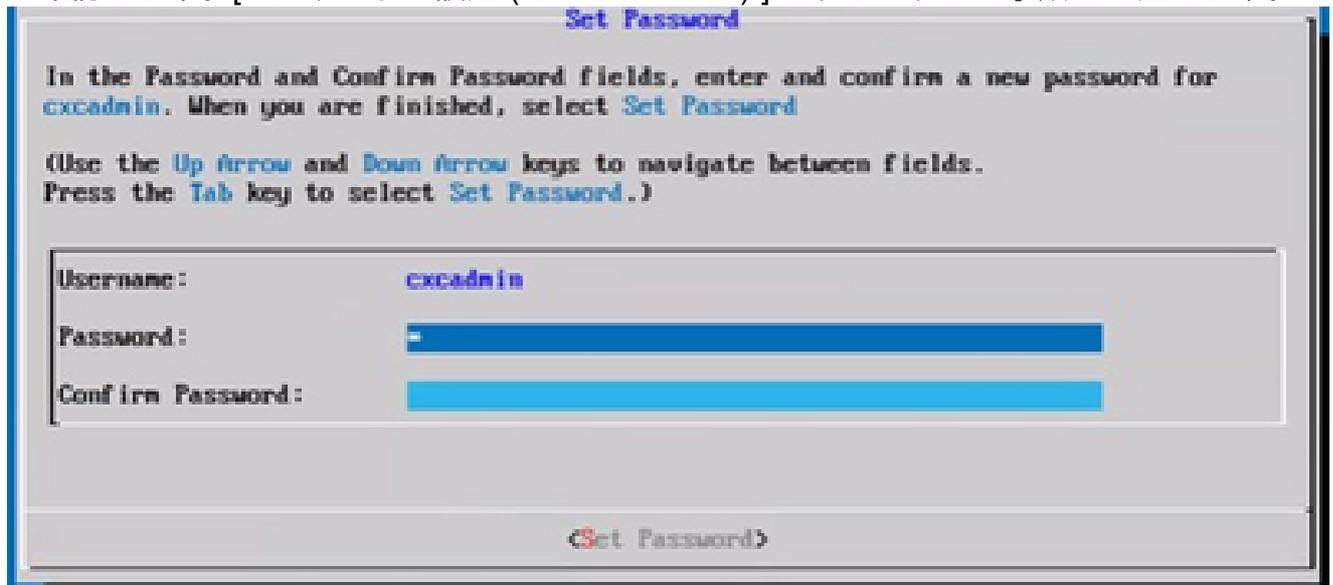
1. Set Password をクリックして cxcadmin の新しいパスワードを追加するか、Auto Generate Password をクリックして新しいパスワードを取得します。



パスワードの設定

2. [パスワードの設定 ( Set Password ) ] を選択した場合は、cxcadmin のパスワードを入力し

て確認します。[パスワードの設定 ( Set Password ) ] をクリックして手順 3 に進みます。



新しいパスワード

または

Auto Generate Passwordを選択した場合は、生成されたパスワードをコピーし、後で使用するために保存します。[パスワードの保存 ( Save Password ) ] をクリックして手順 4 に進みます。



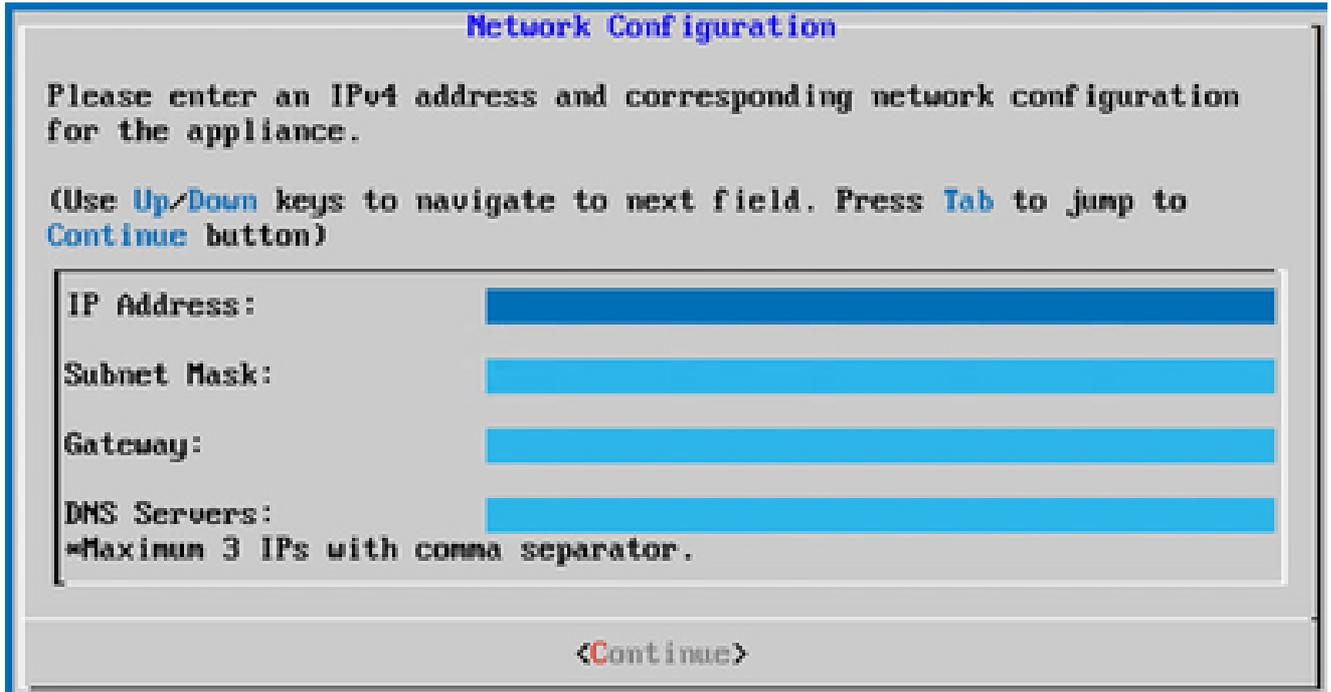
自動生成パスワード

3. [パスワードの保存 ( Save Password ) ] をクリックして、認証に使用します。



パスワードの保存 ( Save Password )

4. IP Address、Subnet Mask、Gateway、およびDNS Serverを入力し、Continueをクリックします。



The screenshot shows a terminal window titled "Network Configuration". The text inside reads: "Please enter an IPv4 address and corresponding network configuration for the appliance." followed by "(Use Up/Down keys to navigate to next field. Press Tab to jump to Continue button)". Below this are four input fields: "IP Address:", "Subnet Mask:", "Gateway:", and "DNS Servers:". The "DNS Servers:" field has a note below it: "Maximum 3 IPs with comma separator." At the bottom of the window is a button labeled "<Continue>".

ネットワーク設定

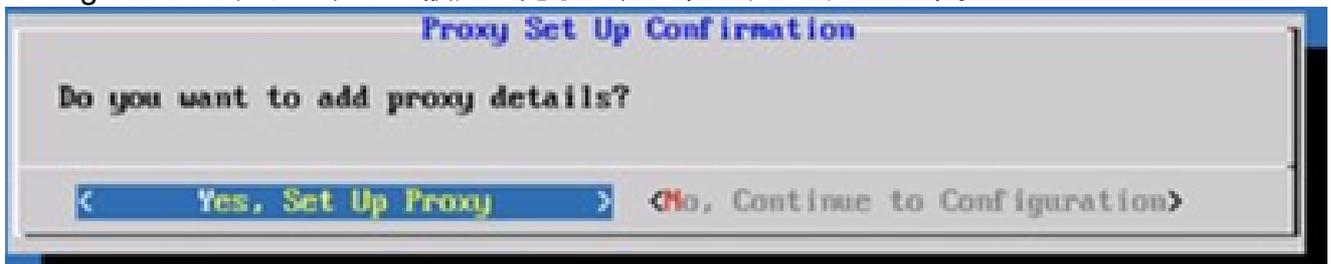
5. エントリを確認し、[はい、続行する ( Yes, Continue ) ] をクリックします。



The screenshot shows a terminal window titled "Confirmation". The text inside reads: "Are these entries correct?". Below this are the labels for the fields: "IP Address:", "Subnet Mask:", "Gateway:", and "DNS:". At the bottom of the window are two buttons: "<Yes, Continue>" and "<No, Go Back >".

コンフィギュレーション

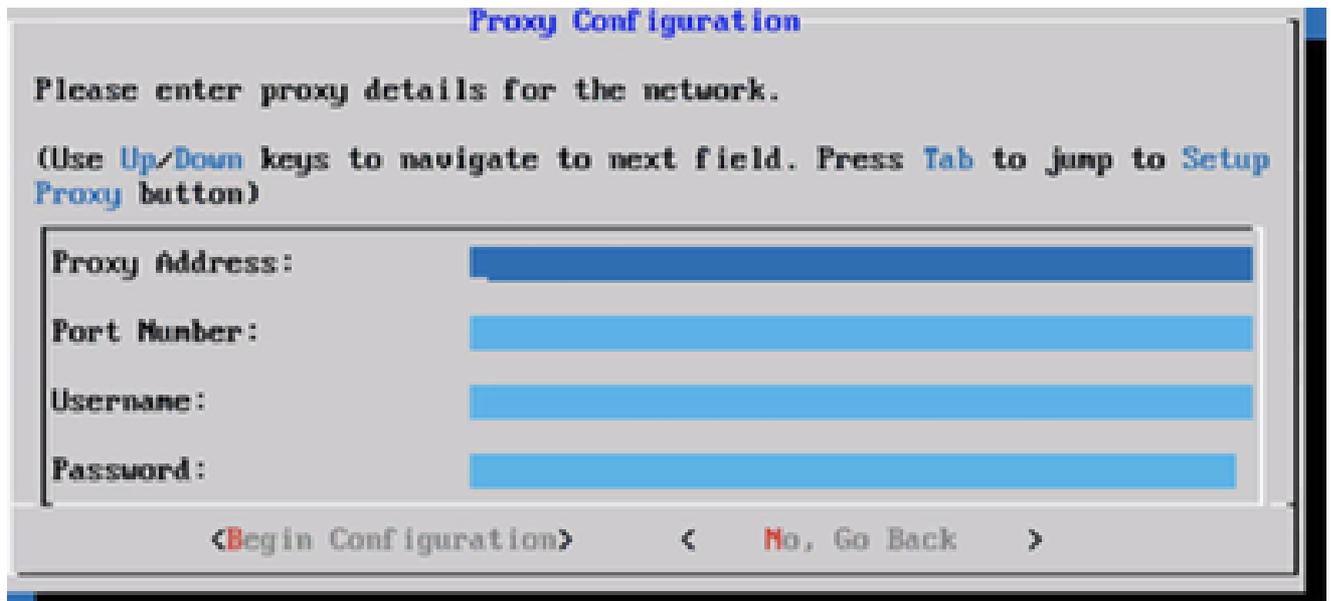
6. プロキシの詳細を設定するには、Yes, Set Up Proxyをクリックするか、No, Continue to Configurationをクリックして設定を完了し、ステップ8に進みます。



The screenshot shows a terminal window titled "Proxy Set Up Confirmation". The text inside reads: "Do you want to add proxy details?". At the bottom of the window are two buttons: "< Yes, Set Up Proxy >" and "<No, Continue to Configuration>".

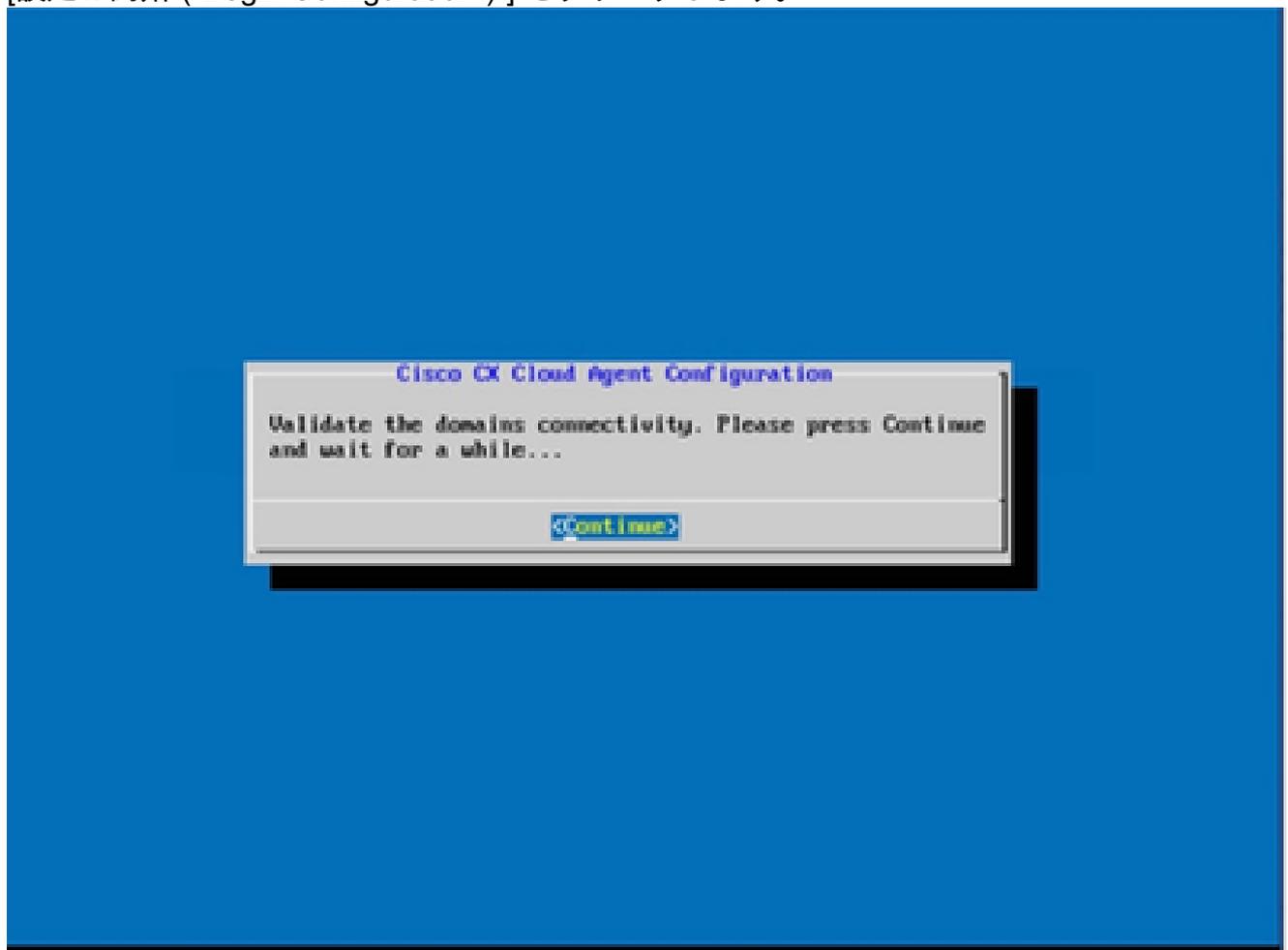
プロキシ設定

7. [プロキシアドレス ( Proxy Address ) ]、[ポート番号 ( Port Number ) ]、[ユーザー名 ( Username ) ]、[パスワード ( Password ) ] を入力します。



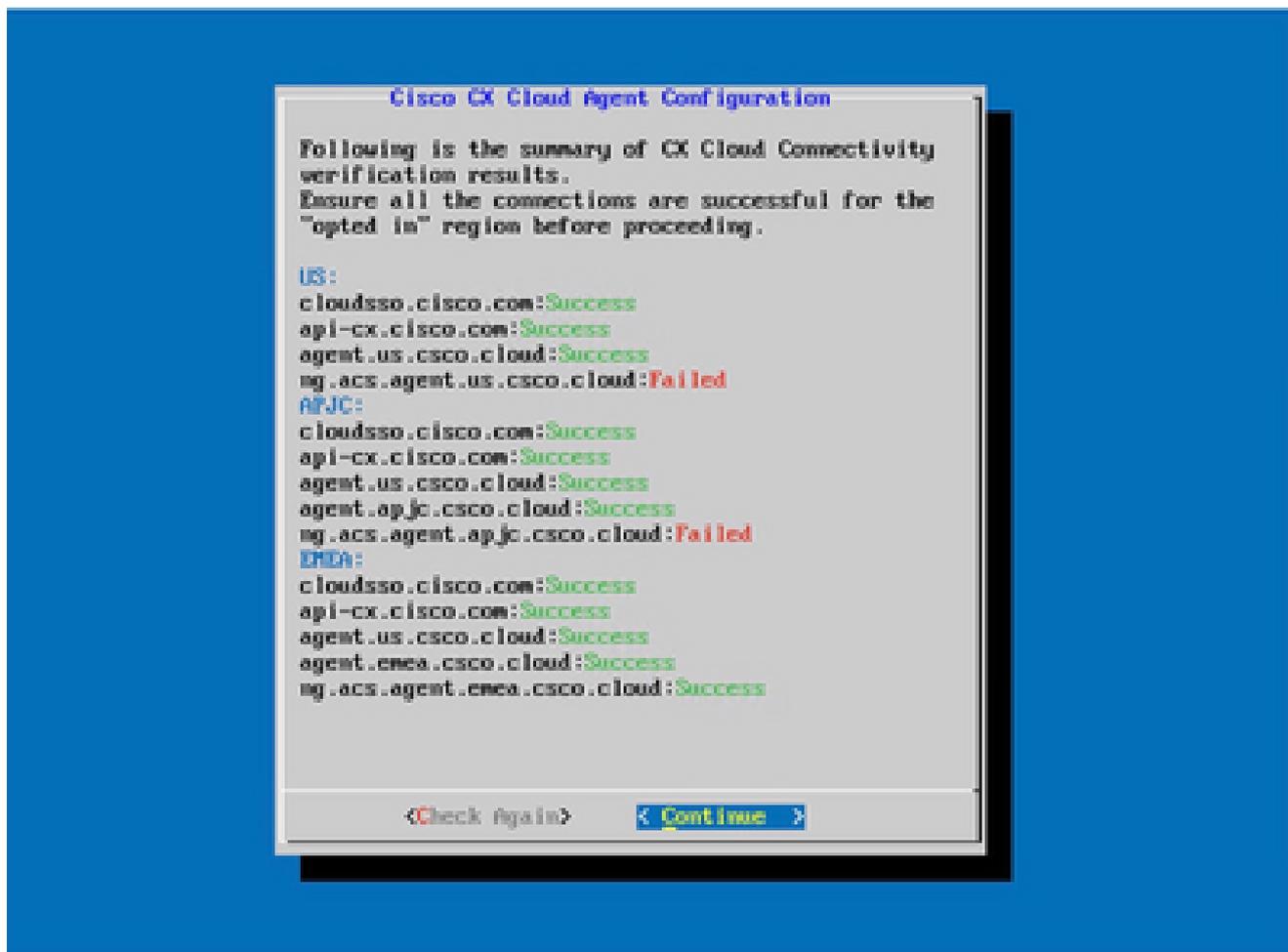
プロキシ設定

8. [設定の開始 ( Begin Configuration ) ] をクリックします。



Begin configuration

9. [Continue] をクリックします。



設定を続行

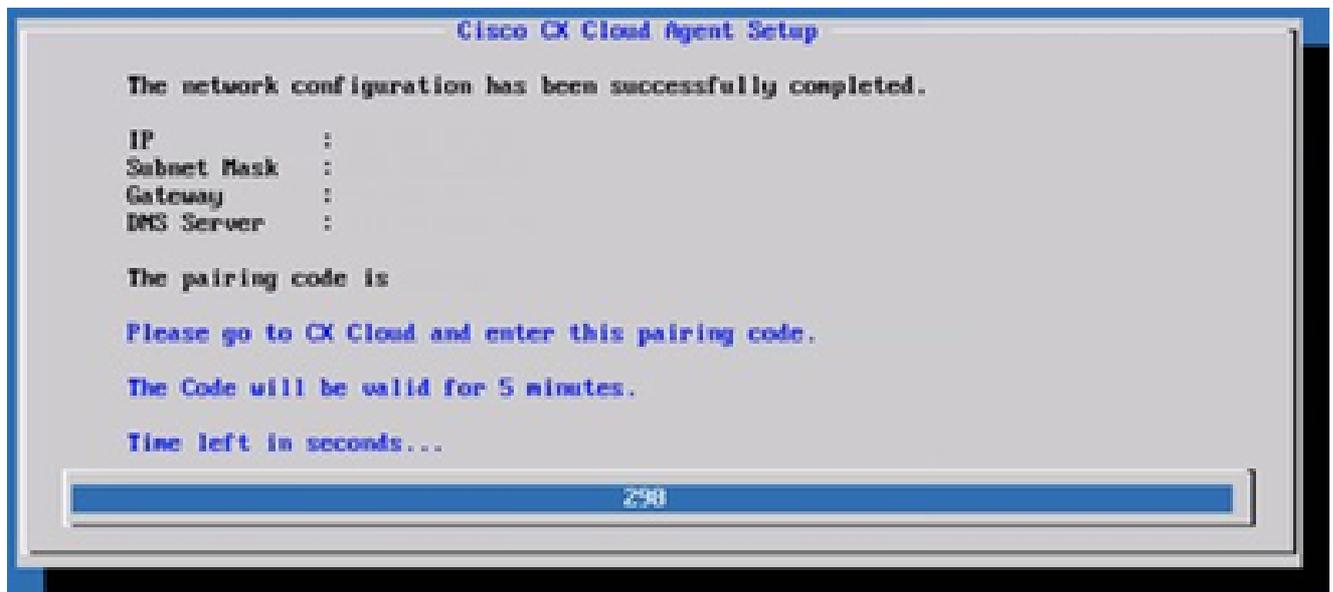
10. Continueをクリックして、ドメインに正常に到達するための設定を続行します。設定が完了するまでに数分かかる場合があります。

 注：ドメインに正常に到達できない場合、顧客はドメインが到達可能であることを確認するためにファイアウォールを変更して、ドメインの到達可能性を修正する必要があります。ドメインの到達可能性の問題を解決したら、Check Againをクリックします。



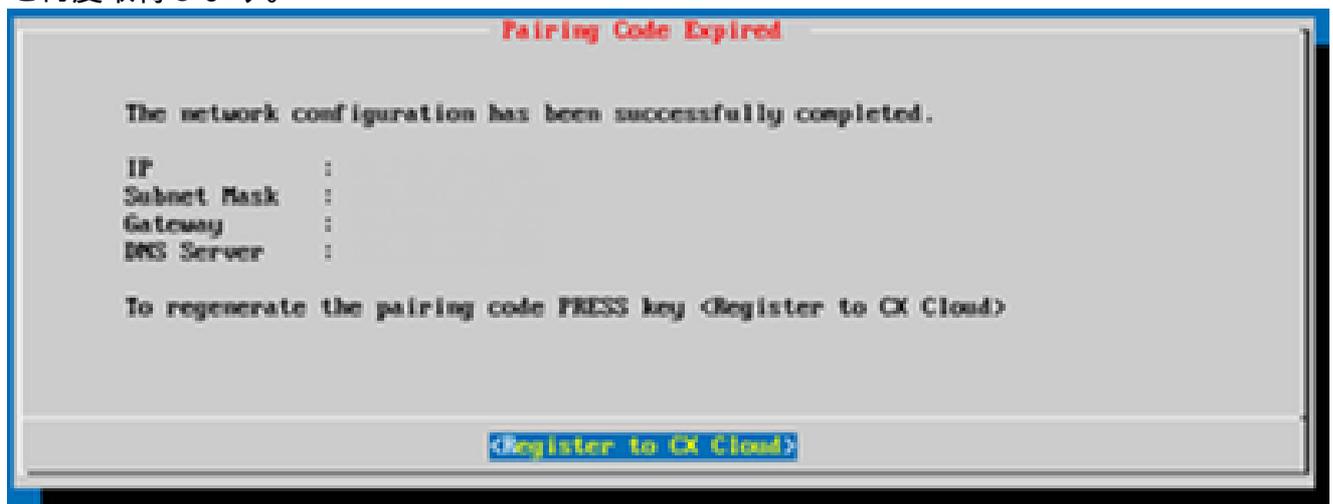
設定が進行中です

11. [ペアリングコード ( Pairing Code ) ] をコピーして CX Cloud に戻り、設定を続行します。



ペアリングコード

12. ペアリングコードの有効期限が切れた場合は、Register to CX Cloudをクリックしてコードを再度取得します。



コードが期限切れです

13. [OK] をクリックします。



登録に成功しました

## CLIを使用してペアコードを生成する別の方法

ユーザは、CLIオプションを使用してペアリングコードを生成することもできます。

CLIを使用してペアリングコードを生成するには、次の手順に従います。

1. cxcadminユーザクレデンシャルを使用して、SSH経由でCloud Agentにログインします。
2. cxcli agent generatePairingCode コマンドを使用してペアリングコードを生成します。

```
cxcadmin@cxcloudagent:~$ cxcli agent generatePairingCode

Pairing Code : xJ7I8P
Expires in: 5 minutes
Please use the Pairing Code in the CX Cloud to proceed with CX Cloud Agent registration.

cxcadmin@cxcloudagent:~$
```

ペアリングコード CLI の生成

3. [ペアリングコード ( Pairing Code ) ] をコピーして CX Cloud に戻り、設定を続行します。

## SyslogをCX Cloud Agentに転送するためのCisco DNA Centerの設定

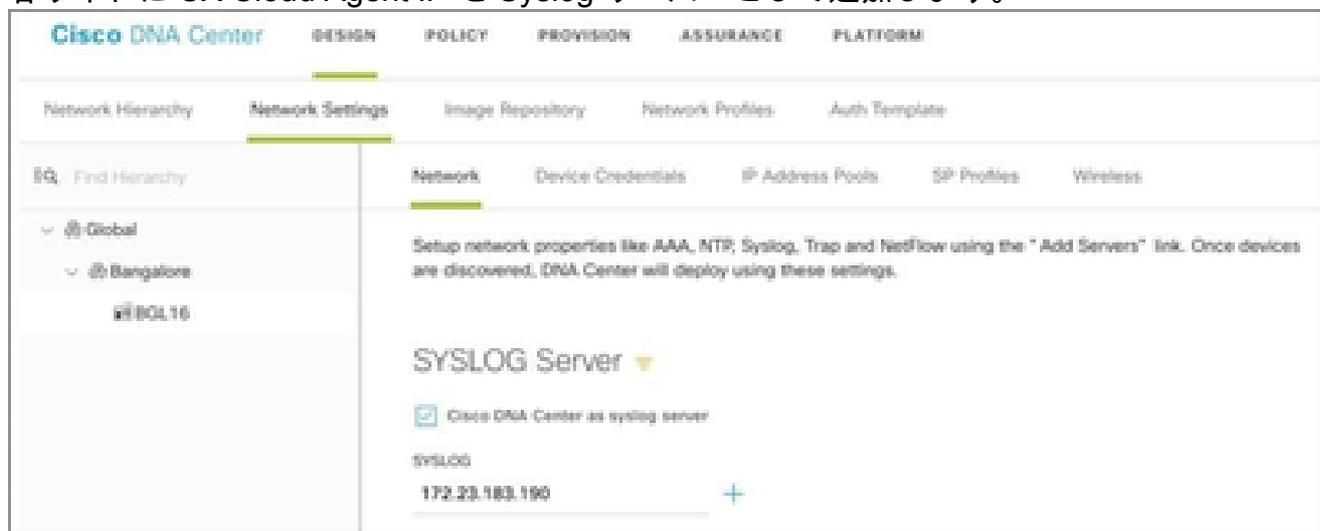
### 前提条件

サポートされるCisco DNA Centerのバージョンは、2.1.2.0 ~ 2.2.3.5、2.3.3.4 ~ 2.3.3.6、2.3.5.0、およびCisco DNA Center仮想アプライアンスです

### Syslog転送設定の設定

Cisco DNA CenterでCX Cloud AgentへのSyslog転送を設定するには、次の手順を実行します。

1. Cisco DNA Center を起動します。
2. [設計 ( Design ) ] > [ネットワーク設定 ( Network Settings ) ] > [ネットワーク ( Network ) ] に移動します。
3. 各サイトに CX Cloud Agent IP を Syslog サーバーとして追加します。



Syslog サーバー

---

 注：  
設定が完了すると、そのサイトに関連付けられたすべてのデバイスが、レベルcriticalのsyslogをCX Cloud Agentに送信するように設定されます。デバイスからCX Cloud Agentへのsyslog転送を有効にするには、デバイスをサイトに関連付ける必要があります。syslogサーバの設定が更新されると、そのサイトに関連付けられたすべてのデバイスがデフォルトの重大レベルに自動的に設定されます。

---

## SyslogをCX Cloud Agentに転送するための他のアセットの設定

CX CloudのFault Management機能を使用するには、CX Cloud Agentにsyslogメッセージを送信するようにデバイスを設定する必要があります。

---

 注:syslogを転送するように他のアセットを設定できるのは、Campus Success Trackレベル2のデバイスだけです。

---

### 転送機能を備えた既存のSyslogサーバ

syslogサーバソフトウェアの設定手順を実行し、CX CloudエージェントのIPアドレスを新しい宛先として追加します。

---

 注：syslogを転送するときは、元のsyslogメッセージの送信元IPアドレスが保持されていることを確認してください。

---

### 転送機能のない、またはsyslogサーバのない既存のsyslogサーバ

syslogをCX Cloud AgentのIPアドレスに直接送信するように各デバイスを設定します。特定の設定手順については、次のドキュメントを参照してください。

[Cisco IOS® XEコンフィギュレーションガイド](#)

[AireOSワイヤレスコントローラコンフィギュレーションガイド](#)

### 情報レベルのsyslog設定の有効化

Syslog情報レベルを表示するには、次の手順を実行します。

1. Tools> Telemetryの順に移動します。



## TOOLS

**Discovery**

**Inventory**

**Topology**

**Image Repository**

**Command Runner**

**License Manager**

**Template Editor**

**Telemetry**

**Data and Reports**

[ツール]メニュー

2. サイトビューを選択して展開し、サイト階層からサイトを選択します。



サイト ビュー

3. 必要なサイトを選択し、Device nameチェックボックスを使用してすべてのデバイスを選択します。
4. ActionsドロップダウンからOptimal Visibilityを選択します。



[アクション ( Actions )]

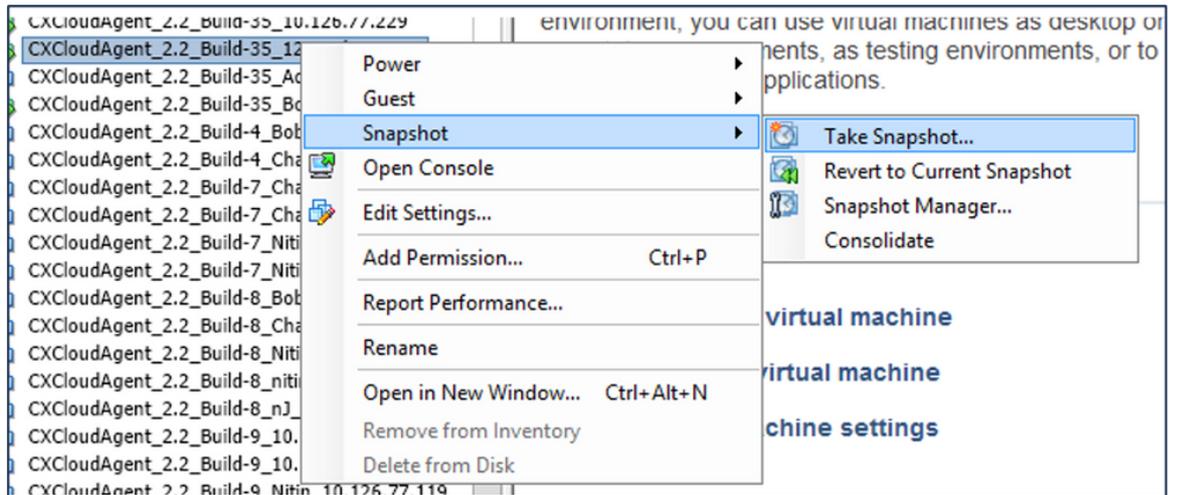
## CX Cloud VMのバックアップと復元

スナップショット機能を使用して、CX Cloud Agent VMの状態とデータを特定の時点で保持することを推奨します。この機能により、CX Cloud VMをスナップショットが作成された特定の時刻に簡単に復元できます。

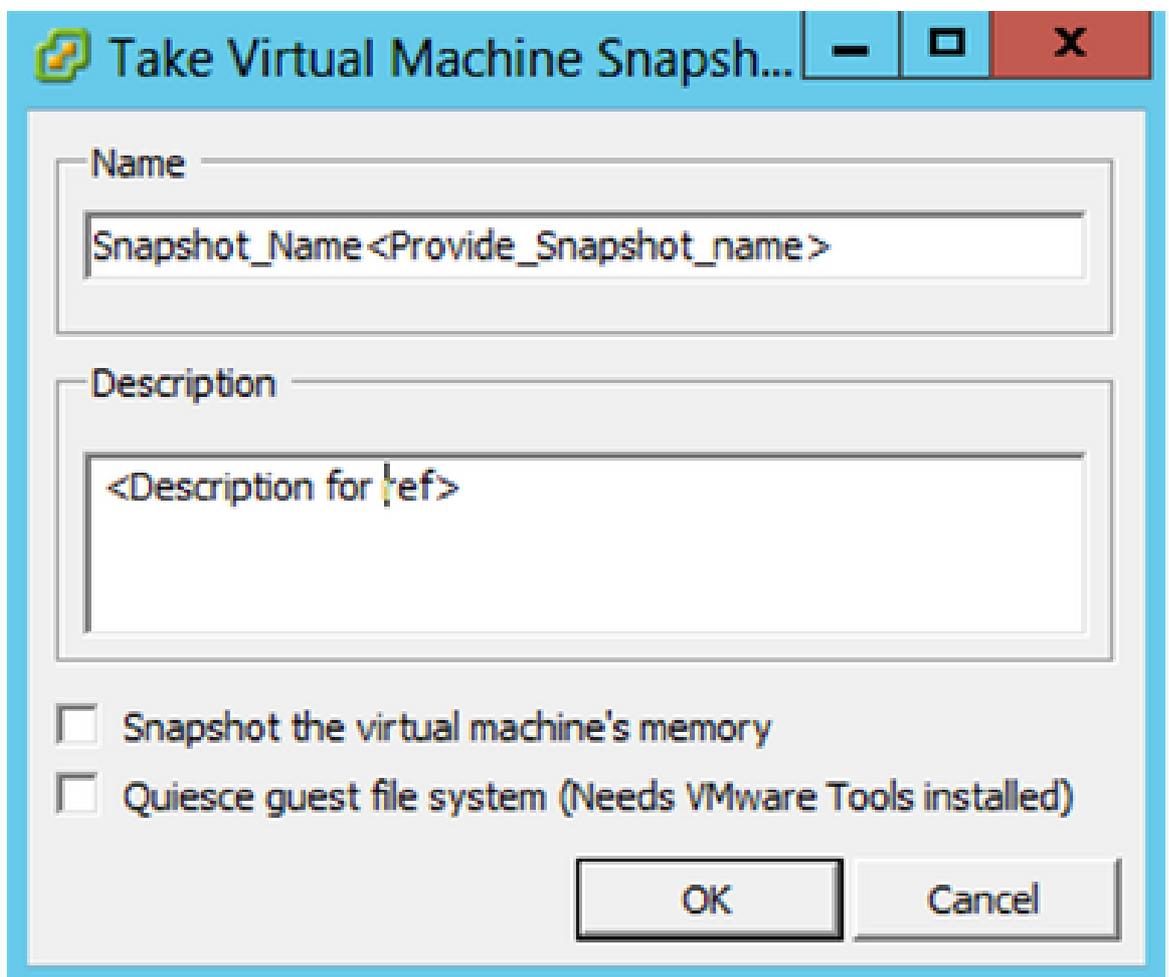
### バックアップ

CX Cloud VMをバックアップするには、次の手順を実行します。

1. VMを右クリックし、Snapshot > Take Snapshotの順に選択します。Take Virtual Machine Snapshotウィンドウが開きます。



[VMの選択 ( Select VM ) ]

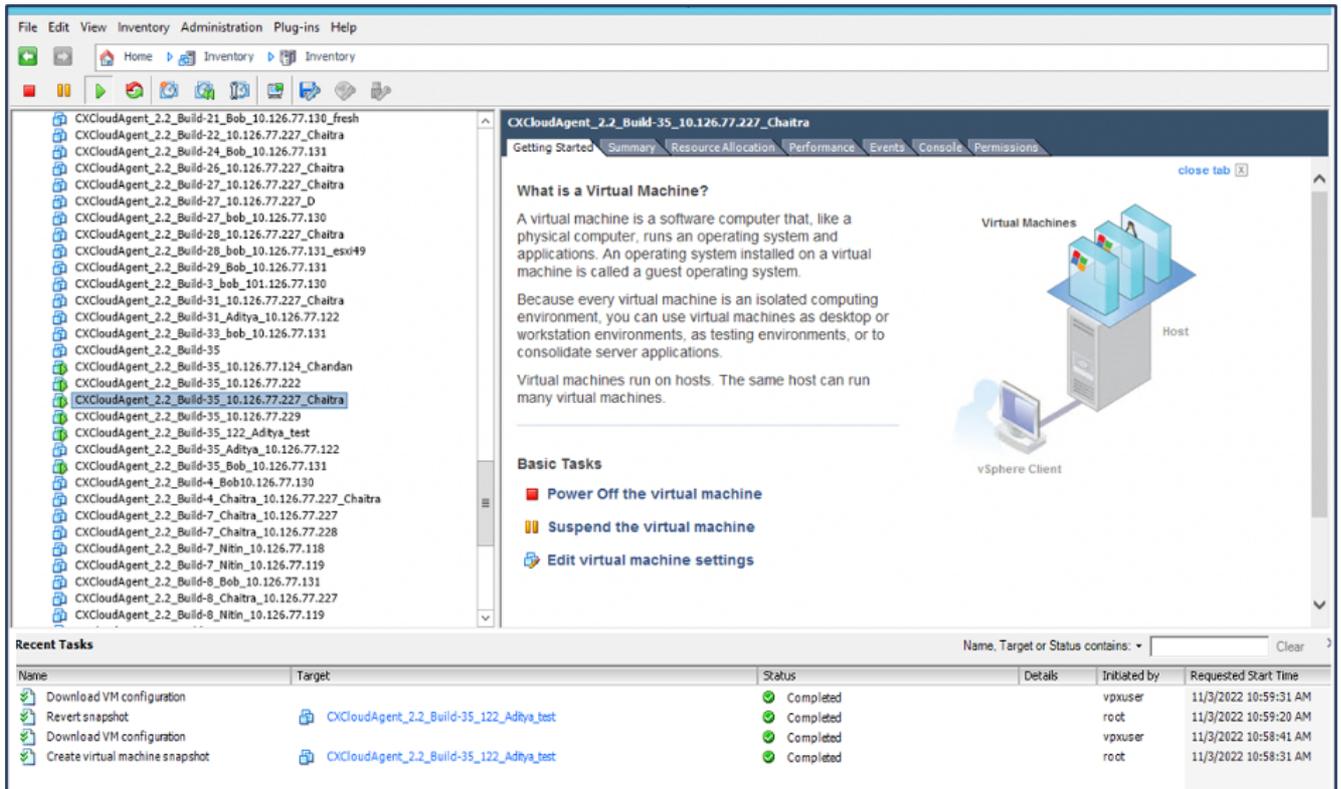


仮想マシンのスナップショットの作成

2. NameとDescriptionを入力します。

 注: [仮想マシンのメモリのスナップショットを作成する]チェックボックスがオフになっていることを確認します。

3. OKをクリックします。[最近のタスク]の一覧で、[仮想マシンスナップショットの作成]ステータスが[完了]と表示されます。

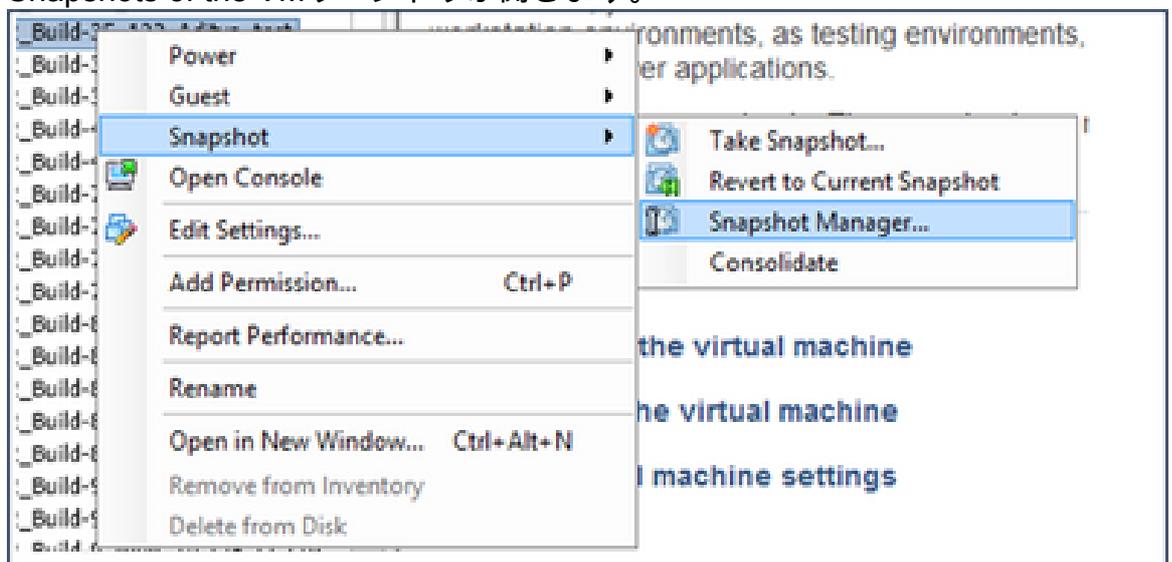


最近のタスク

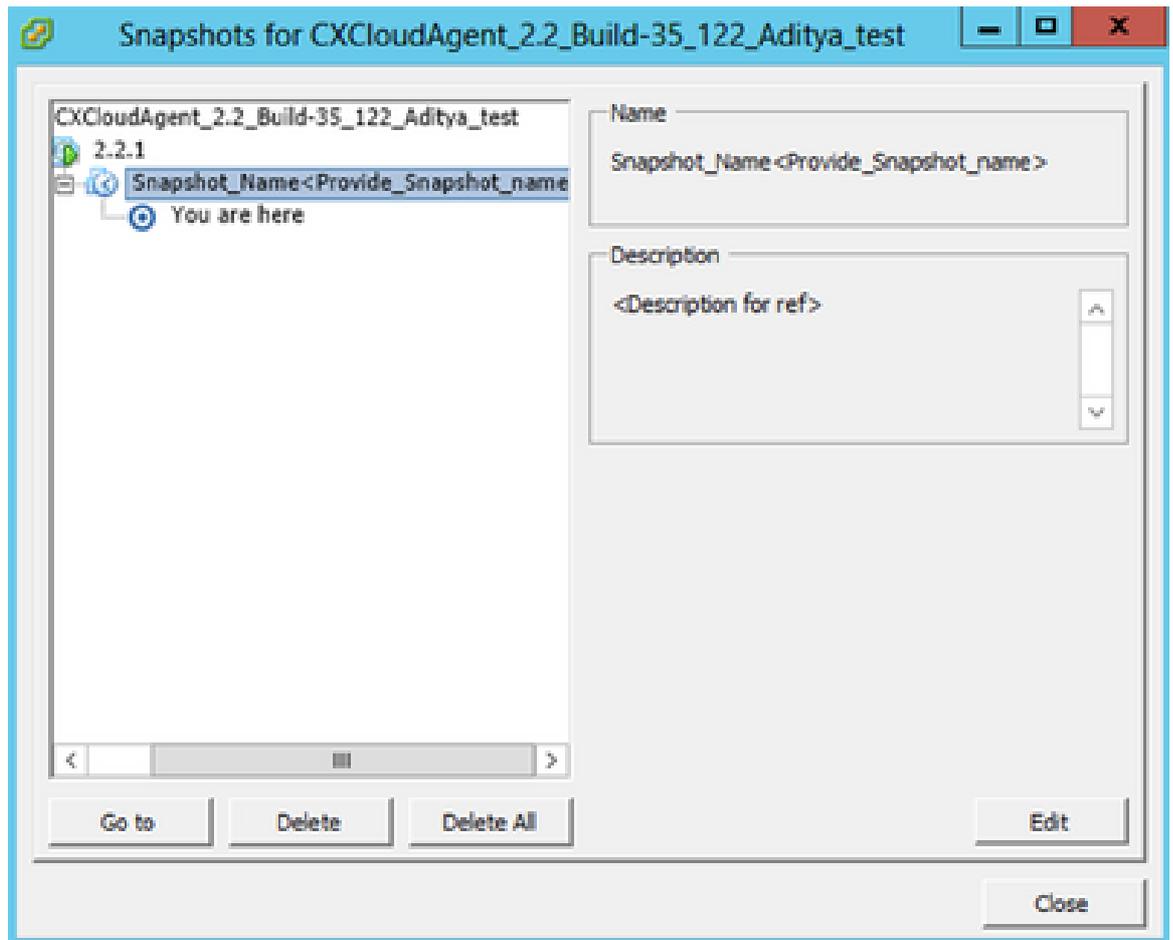
## 復元

CX Cloud VMを復元するには、次の手順を実行します。

1. VMを右クリックし、Snapshot > Snapshot Managerの順に選択します。Snapshots of the VMウィンドウが開きます。

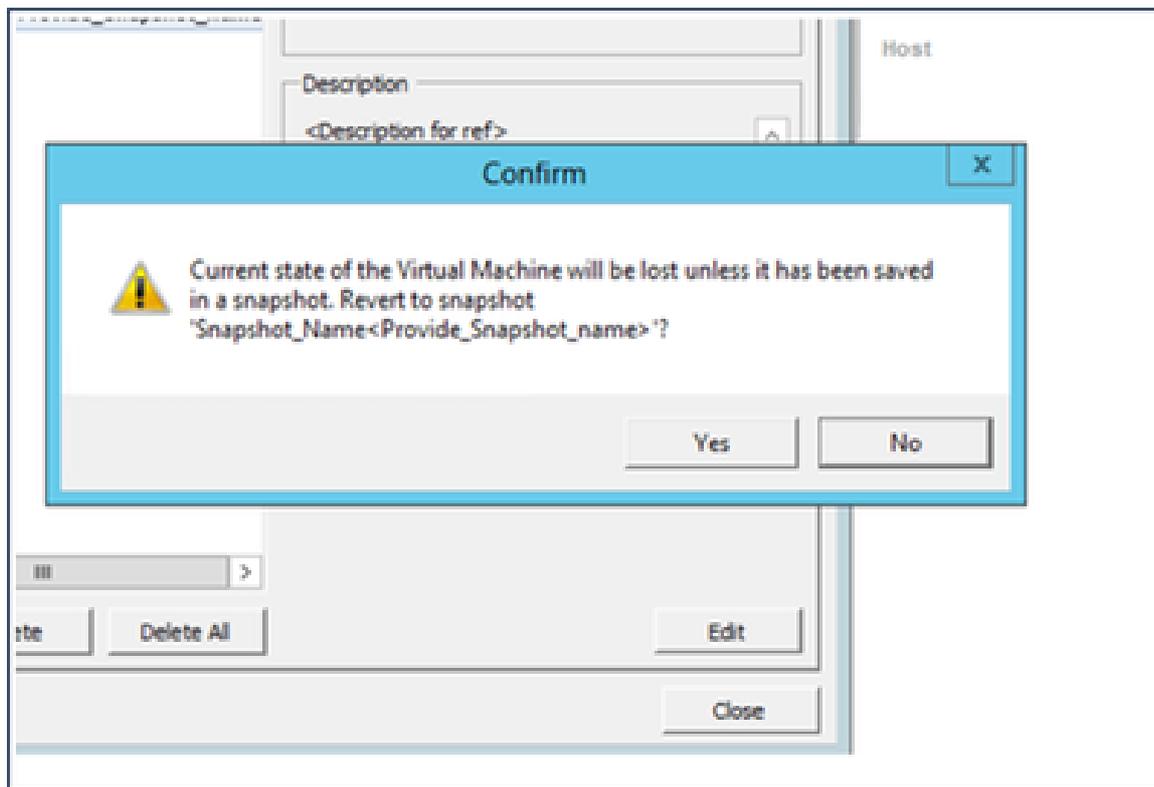


Select VMウィンドウ



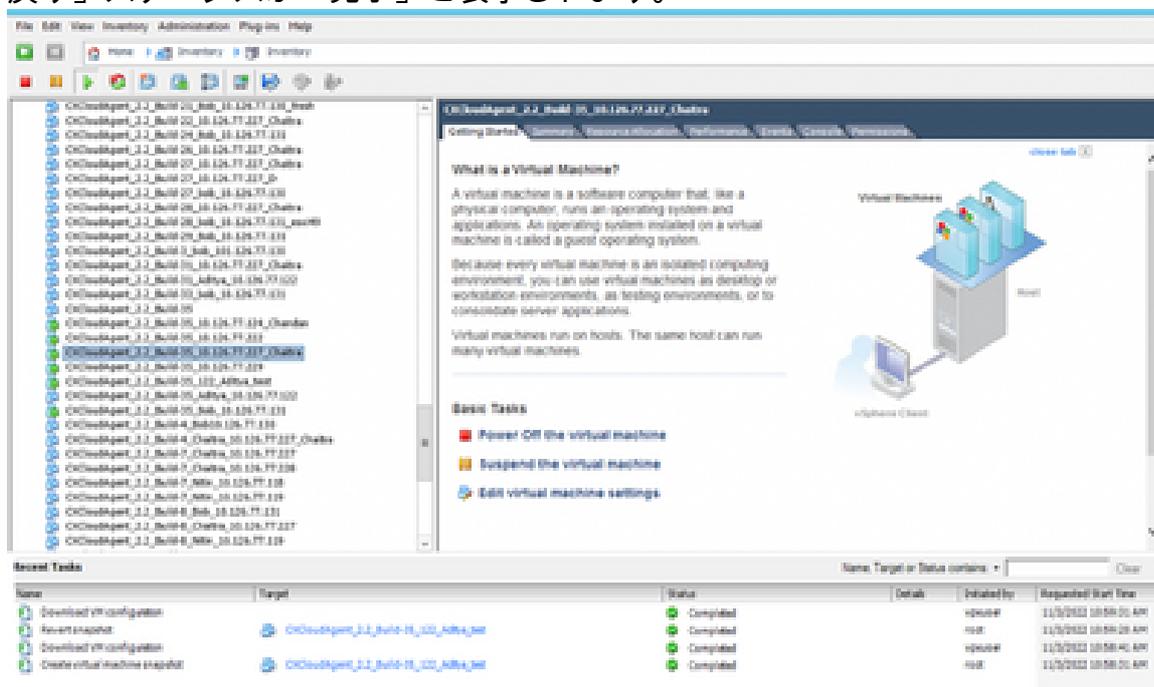
「スナップショット」ウィンドウ

2. Go toをクリックします。Confirmウィンドウが開きます。



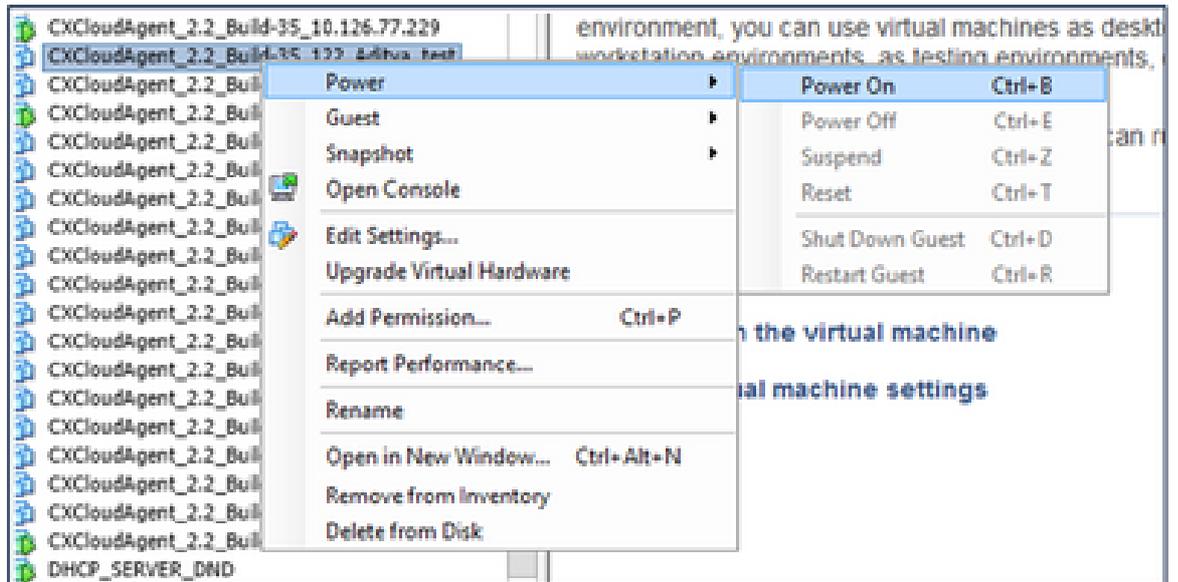
確認ウィンドウ

3. [Yes] をクリックします。「最近のタスク」リストに「スナップショットを元に戻す」ステータスが「完了」と表示されます。



最近のタスク

4. VMを右クリックし、Power > Power Onの順に選択してVMの電源をオンにします。



## セキュリティ

CX Cloud Agentは、エンドツーエンドセキュリティをお客様に保証します。CX CloudとCX Cloud Agent間の接続はTLSで保護されます。Cloud AgentのデフォルトのSSHユーザは、基本操作のみを実行するように制限されています。

### 物理セキュリティ

CX Cloud Agent OVAイメージを、セキュリティ保護されたVMwareサーバ会社に導入します。OVAは、シスコソフトウェアダウンロードセンターを通じて安全に共有されます。ブートローダー（シングルユーザーモード）には、一意のパスワードがランダムに設定されます。このブートローダ（シングルユーザーモード）パスワードを設定するには、ユーザはこの[FAQ](#)を参照する必要があります。

### アカウントのセキュリティ

導入時に、cxcadminユーザアカウントが作成されます。初期設定時にパスワードを設定する必要があります。cxcadminユーザ/クレデンシャルは、CX Cloud Agent APIの両方にアクセスし、SSH経由でアプライアンスに接続するために使用されます。

cxcadminユーザは、最小限の権限でアクセスが制限されています。cxcadminパスワードはセキュリティ・ポリシーに従い、90日間の期限切れで一方向ハッシュされます。cxcadminユーザは、remoteaccountというユーティリティを使用してcxcrootユーザを作成できます。cxcrootユーザはroot権限を取得できます。

### ネットワークセキュリティ

CX Cloud Agent VMには、cxcadminユーザクレデンシャルを使用してSSHを使用してアクセスできます。着信ポートは22（SSH）、514（Syslog）に制限されます。

[Authentication]

パスワードベースの認証：アプライアンスは、単一のユーザ(cxcadmin)を管理します。このユーザは、このユーザを使用してCX Cloud Agentの認証と通信を実行できます。

- ssh を使用したアプライアンスでのルート権限アクション。

cxcadminユーザは、remoteaccountというユーティリティを使用してcxcrootユーザを作成できます。このユーティリティは、SWIMポータル([DECRYPT Request Form](#))からのみ復号できる、RSA/ECB/PKCS1v1\_5暗号化パスワードを表示します。このポータルへのアクセス権を持つのは、承認されたユーザーのみです。cxcrootユーザーは、この復号化されたパスワードを使用してルート権限を取得できます。パスフレーズは2日間だけ有効です。cxcadminユーザは、パスワードの有効期限が切れた後にアカウントを再作成し、SWIMポータルからパスワードを取得する必要があります。

## 強化

CX Cloud Agentアプライアンスは、Center of Internet Securityの強化標準に準拠しています。

## データセキュリティ

CX Cloud Agent アプライアンスには、お客様の個人情報は保存されません。デバイスクレデンシャルアプリケーション (ポッドの1つとして実行) は、暗号化されたサーバクレデンシャルをセキュアなデータベース内に保存します。収集されたデータは、処理時以外は一時的にアプライアンス内に保存されません。テレメトリデータは、収集が完了するとすぐにCX Cloudにアップロードされ、アップロードが成功したことを確認した後、ローカルストレージからすぐに削除されます。

## データの伝送

登録パッケージには、lot Coreとのセキュアな接続を確立するために必要な、一意の[X.509](#)デバイス証明書とキーが含まれています。このエージェントを使用して、Transport Layer Security(TLS)v1.2上でメッセージキューテレメトリトランスポート(MQTT)を使用してセキュアな接続を確立します

## ログとモニタリング

ログには、個人識別情報(PII)データの形式は含まれません。監査ログには、CX Cloud Agentアプライアンスで実行されたセキュリティの影響を受けるすべてのアクションが記録されます。

## Ciscoテレメトリコマンド

CX Cloudは、「[シスコテレメトリコマンド](#)」に記載されているAPIおよびコマンドを使用して、資産テレメトリを取得します。このドキュメントでは、Cisco DNA Centerインベントリ、Diagnostic Bridge、Intersight、Compliance Insights、Faults、およびCX Cloud Agentによって収集されたその他すべてのテレメトリ源への適用可能性に基づいてコマンドを分類しています。

資産テレメトリ内の機密情報は、クラウドに送信される前にマスクされます。CX Cloud Agentは、CX Cloud Agentにテレメトリを直接送信するすべての収集アセットの機密データをマスクしま

す。これには、パスワード、キー、コミュニティストリング、ユーザ名などが含まれます。コントローラは、すべてのコントローラ管理アセットのデータマスキングを行ってから、この情報をCX Cloud Agentに転送します。場合によっては、コントローラ管理資産のテレメトリをさらに匿名化できます。テレメトリの匿名化の詳細については、対応する[製品サポートドキュメント](#)を参照してください(たとえば、『Cisco DNA Center管理者ガイド』の「[データの匿名化](#)」セクションなど)。

テレメトリコマンドのリストはカスタマイズできず、データマスキングルールは変更できませんが、コントローラ管理デバイスの[製品サポートドキュメント](#)またはこのドキュメントの「データソースの接続」セクション(CX Cloud Agentが収集したその他の資産の場合)の説明に従ってデータソースを指定することで、お客様はテレメトリCX Cloudでアクセスする資産を制御できます。

## セキュリティ サマリ

セキュリティ機能	説明
ブートローダーのパスワード	ブートローダー ( シングルユーザーモード ) には、一意のパスワードがランダムに設定されます。ユーザは <a href="#">FAQ</a> を参照して、ブートローダ ( シングルユーザーモード ) のパスワードを設定する必要があります。
ユーザーアクセス	SSH : <ul style="list-style-type: none"> <li>・cxcadmin ユーザーを使用してアプライアンスにアクセスするには、インストール時に作成されたログイン情報が必要です。</li> <li>・ cxcrootユーザを使用してアプライアンスにアクセスするには、権限のあるユーザがSWIMポータルを使用してクレデンシャルを復号化する必要があります。</li> </ul>
ユーザアカウント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ cxcadmin : デフォルトのユーザー・ アカウントが作成されます。ユーザーはcxcliを使用してCX Cloud Agentアプリケーション・ コマンドを実行でき、アプライアンスに対する最小限の権限を持ちます。cxcrootユーザーとその暗号化されたパスワードはcxcadminユーザーを使用して生成されます。</li> <li>・ cxcroot: cxcadminは、ユーティリティremoteaccountを使用してこのユーザーを作成できます。ユーザーは、このアカウントでルート権限を取得できます。</li> </ul>
cxcadmin パスワードポリシー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パスワードは SHA-256 を使用して一方向ハッシュされ、安全に保存されます。</li> <li>・ 大文字、小文字、数字、特殊文字のうち3種類を含む、8文字以上。</li> </ul>

<p>cxcroot パスワードポリシー</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ cxcrootのパスワードはRSA/ECB/PKCS1v1_5で暗号化</li> <li>・生成されたパスワードは、SWIM ポータルで復号する必要があります。</li> <li>・ cxcrootのユーザとパスワードは2日間有効で、cxcadminユーザを使用して再生成できます。</li> </ul>
<p>ssh ログインパスワードポリシー</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8文字以上で、大文字、小文字、数字、特殊文字の3つのカテゴリを含む。</li> <li>・ ログイン試行に5回失敗すると、ボックスが30分間ロックされます。パスワードの有効期限は90日です。</li> </ul>
<p>ポート</p>	<p>オープンな着信ポート - 514 ( Syslog ) と 22 ( SSH )</p>
<p>データセキュリティ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顧客情報は保存されません。</li> <li>・デバイスデータは保存されません。</li> <li>・Cisco DNA Center サーバーのログイン情報が暗号化され、データベースに保存されます。</li> </ul>

## 翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。